

地域文化専攻

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

●**授業の概要** 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。／**検索キーワード** 哲学

●**授業の一般目標** 一つの哲学的問題について深く探究する

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。**思考・判断の観点**：その問題について哲学的考察を加える。

●**授業の計画（全体）** 前期は、「普遍の問題」を取り上げる。たとえば、赤いバラは存在するとして、〈赤〉そのものは存在するのか。プラトンのイデア論をはじめとする諸哲学者の議論を参照しつつ、問題の本質を探究したい。

●**成績評価方法（総合）** 試験による。出席 80 %程度必要。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。／**検索キーワード** 哲学
- 授業の一般目標** 一つの哲学的問題について深く探究する
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：とりあげた問題とその解決の試みを理解する。**思考・判断の観点**：その問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体）** 後期は、「時間論」を取り上げる。時間は流れるというのは本当か。現在だけが存在し、過去、未来は存在しないのか。こういった問題について、アリストテレスをはじめとする諸哲学者の議論を参照しつつ、問題の本質を探究したい。
- 成績評価方法（総合）** 試験による。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。／**検索キーワード** 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標** 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：文献を正確に読む。 **思考・判断の観点**：文献の議論を哲学的に考察する。
- 授業の計画（全体）** 取り上げる文献は未定。
- 成績評価方法（総合）** レポートによる。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	脇條靖弘				

- 授業の概要** 古代ギリシアの哲学関連の文献を読む。／**検索キーワード** 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標** 文献を正確に読み、そこに見られる哲学的議論を整理し、評価する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：文献を正確に読む。 **思考・判断の観点**：文献の議論を哲学的に考察する。
- 授業の計画（全体）** 取り上げる文献は未定。
- 成績評価方法（総合）** レポートによる。出席 80 %程度必要。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー: 月曜 2:30-4:00

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 未定。後期より赴任する教員が担当予定。

●授業の一般目標 未定

●授業の計画（全体） 未定

開設科目	西洋倫理思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上野修				

●**授業の概要** 前期に引き続き、「真理」の倫理的な意味について考えます。こんどはデカルトやスピノザ、ライプニッツなどの古典的著作を参照しながら考えます。

●**備考** 集中授業

開設科目	西洋倫理思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	未定				

●授業の概要 未定。後期より赴任する教員が担当予定。

●授業の一般目標 未定

●授業の計画（全体） 未定

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要** 時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する先秦時代を共感的追体験的に理解する。そのために、当時の儀礼や習俗を復元し、それらを支えていた観念を明らかにする。史料の面で言えば、伝来文献と出土資料を有機的に関連させて分析を進める。今年度は、国君の機能を分析して、中国における国家共同体の原像をさぐる。／**検索キーワード** 古代中国 国家共同体 金文
- 授業の一般目標** 講義を通じて、つまり史料の解説を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する **思考・判断の観点**：構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する **関心・意欲の観点**：思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。
- 成績評価方法（総合）** レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する
- 教科書・参考書** 教科書：なし。プリント配布／参考書：講義の中で指示
- メッセージ** 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文5階 金曜日16時から17時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書：なし プリント配布／参考書：講義の中で指示
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 人文棟 5階 金曜 16時から17時

開設科目	中国哲学思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横手 裕				

- 授業の概要** 中国の土着宗教である道教について、主に現在の中国大陸における現状を紹介しながら、その背後にある道教の教理・思想・歴史について解説を行う。最終的には、道教というものの性格と内容について、総合的かつ的確な理解が得られるようにする。
- 授業の一般目標** ・中国道教の思想・歴史について、理解と認識を深める。 ・中国の文化全体に占める道教の位置について考察する。 ・中国思想を捉えるに当たって、常に儒仏道三教間の影響関係を考える姿勢を身につける。
- 授業の計画（全体）** まず初めに、受講にあたって必要となる道教の知識について最低限の解説を行う。その後、現在の中国における代表的な道教の寺院や名山をいくつか取り上げて個別に詳しく解説し、道教の実際のあり方と、道教の歴史や思想との関係について、次第に理解を深めてもらう。道教寺院等の紹介・解説には、現地で収集した資料や画像を用い、具体的に理解できるように配慮する。また授業中随時、仏教や儒教との影響関係を考察し、討論する。
- 成績評価方法（総合）** (1) 講義終了後、授業内容を各自なりに活用したレポートをまとめる (70%)。 (2) 討論等の授業参加 (30%)。
- 教科書・参考書** 教科書： 教場にてプリントを配布する。 / 参考書： 『中国の神さま』, 二階堂善弘, 平凡社 (平凡社新書), 2002 年; 『道教の神々』, 窪徳忠, 講談社 (講談社学術文庫), 1996 年
- 備考** 集中授業

開設科目	中国哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 中国伝統思想における経済倫理観について、儒・仏・道三教の異同という観点をもふまえて考察する。前期は理論的枠組みの問題に重点を置く。
- 授業の一般目標** 1. 中国思想（中世・近世を中心とする）における諸問題について、その諸側面と意義について自分なりの理論的考察を行う。 2. 儒・仏・道三教にわたる視野をもち、上記の考察に適用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 講義で扱われる問題について、その諸側面を説明できる。 **思考・判断の観点**： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、それぞれの思想の特質や特定の社会的・歴史的条件などに関係づけることができる。 2. 特定の問題について、思想間の異同をふまえつつ原理的なレベルで独自の考察を行うことができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体）** 序論において経済倫理を取り上げる問題意識を述べたあと、『儒教と道教』等におけるマックス・ウェーバーの理論的枠組みと見解の紹介、これを批判しようとした余英時の見解とその反響の紹介を順次行う。この過程で、それぞれの仕事に関連する儒教、道教、仏教の諸側面と相互関係をあわせて確認していく。質疑応答と討論を随時行い、理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合）** 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。資料を適宜配布する。／参考書：宗教社会学論選，マックス・ヴェーバー，みすず書房，1972 年；中国近世の宗教倫理と商人精神，余英時，平凡社，1991 年；下記のほかは適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階 オフィスアワー：火曜日 12:00～13:30

開設科目	中国哲学思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 前期に引き続き、中国の伝統的な経済倫理思想の特徴と意義を考察する。後期は、儒教を中心としつつ、仏教、道教との相互交渉を適宜論じながら、経済活動が人間にとってどのような意味を持ちうるのかという問題につなげていきたい。
- 授業の一般目標** 1. 中国思想（中世・近世を中心とする）における諸問題について、その諸側面と意義について自分なりの理論的考察を行う。 2. 儒・仏・道三教にわたる視野をもち、上記の考察に適用する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 講義で扱われる問題について、その諸側面を説明できる。 **思考・判断の観点**： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、それぞれの思想の特質や特定の社会的・歴史的条件などに関係づけることができる。 2. 特定の問題について、思想間の異同をふまえつつ原理的なレベルで独自の考察を行うことができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体）** 最初に、前期における理論的枠組みの検討成果を概括した後、儒教における義利観の歴史の変遷を中軸としつつ、各時代における仏教、道教の倫理思想との交渉に触れていく。余裕があれば、日本における儒教的・仏教的経済倫理の諸相をも視野に入れる。質疑応答や討論を随時取り入れる。
- 成績評価方法（総合）** 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書** 教科書： なし。資料を適宜配布する。／ 参考書： 中国近世の宗教倫理と商人精神, 余英時, 平凡社, 1991 年； いまなぜ東洋の経済倫理か, 芹川博通, 北樹出版, 2003 年； 下記のほかは適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階 オフィスアワー：火曜日 12:00～13:30

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木智見				

●**授業の概要** 現代中国を代表する古代中国史家、晁福林氏の『先秦社会形態研究』から論文選び精読する。
 ／検索キーワード 古代中国、考古学、甲骨文、金文、

●**授業の一般目標** 古代中国研究に必要な古代漢語、現代漢語の読解能力は言うまでもなく、論文作成に求められる史料解釈、史料操作、立論の方法などについての基本的知識を摂取する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代中国語で書かれた論文を、難読のものでも読みこなすことが出来る。**思考・判断の観点**：論者の立場に立って論旨を理解した後、自分の頭でその是非を判断できるようになる。**関心・意欲の観点**：中国人研究者の研究に対して、抵抗感無く接することが出来るような意欲を引き出す。

●**授業の計画（全体）** 受講者と相談の上、適当な論文を選定して、順次読み進める。言うまでもなく、引用史料は、原典に当たって作者の理解が妥当であるか確認しつつ読む。

●**成績評価方法（総合）** 毎回の受講態度とレポートの出来による。

●**教科書・参考書** 教科書：プリント配布／参考書：その都度指示

●**メッセージ** 正確にかつ速くよむことが求められる

●**連絡先・オフィスアワー** 人文棟5階 金曜日16時から17時

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ／参考書：前期と同じ
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 人文棟5階 金曜日16時から17時

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 中国思想史の史料を、必要な手順を踏んで厳密に読解していく。
- 授業の一般目標** 中国思想分野において、独力での研究遂行に堪えうる読解・分析能力を養う。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 1. 古代漢語あるいは現代漢語のやや難しい文章について、独力でもほぼ正しい読解ができる。 2. 中国思想史の史料読解に必要な作業手順を体得できる。 **思考・判断の観点**： 1. 史料に語られた思想を再構成できる。 2. 史料に即して、対象とした思想の含意や可能性を分析できる。 **態度の観点**： 1. 難解な史料にも主体性をもって取り組む。
- 授業の計画（全体）** 第1回に顔合わせ、進め方の打ち合わせ等を行い、第2回から演習に入る。
- 成績評価方法（総合）** 平常の読解作業と参加態度をもって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： コピーを配布する。 / 参考書： 必要に応じて紹介する。

開設科目	中国哲学思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林文孝				

- 授業の概要** 中国思想史の史料を、必要な手順を踏んで厳密に読解していく。
- 授業の一般目標** 中国思想分野において、独力での研究遂行に堪えうる読解・分析能力を養う。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 1. 古代漢語あるいは現代漢語のやや難しい文章について、独力でもほぼ正しい読解ができる。 2. 中国思想史の史料読解に必要な作業手順を体得できる。 **思考・判断の観点**： 1. 史料に語られた思想を再構成できる。 2. 史料に即して、対象とした思想の含意や可能性を分析できる。 **態度の観点**： 1. 難解な史料にも主体性をもって取り組む。
- 授業の計画（全体）** 第1回に顔合わせ、進め方の打ち合わせ等を行い、第2回から演習に入る。
- 成績評価方法（総合）** 平常の読解作業と参加態度をもって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： コピーを配布する。 / 参考書： 必要に応じて紹介する。

開設科目	日本思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤 一				

- 授業の概要** 「神道思想の形成」中・近世の神道思想を通観します。仏教に対抗して、思想としての自立を目指しながら、結局、今度は儒学に依頼せざるを得なかったように見えます。その過程で、人間の尊貴性と、現世肯定の意識が浮上します。／**検索キーワード** 神道、神本仏迹、儒家神道
- 授業の一般目標** 国学以前の神道思想を、その奇妙さも含めて、理解する。
- 授業の計画（全体）** 国学以前の牽強付会に満ちた神道思想の意味を汲み取ろうと試みます。反本地垂迹思想、儒家神道、等々を扱います。
- 成績評価方法（総合）** 学期末にレポートを課します（100％）。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。原典資料の複写を配付します。／参考書：適宜紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー** 大抵、研究室にありますので、いつでもどうぞ。

開設科目	日本思想論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	土井 廣子				

- 授業の概要** 「仏教思想の諸相」＜後期集中＞ 日本が仏教思想を摂取して形成した宇宙観・人生観を、「輪廻転生」「因果応報」といった 諸観念を見据えつつ、考察する。それらの諸観念が、人間の生きていくことにかかわって、どのような意味を提示し、どのような課題を新たに負わせたのだろうか。『今昔物語集』天竺巻 を主な素材として検討する。／**検索キーワード** 輪廻転生、因果応報、宿命
- 授業の一般目標** 過去の作品でありながら、実は人間の不変の実相・実存を鋭く表現した説話を理解することによって、現代に生きるわれわれ自身の生を捉え返す新たな視点を獲得すること。
- 授業の計画（全体）** 『今昔物語集』天竺巻の説話を検討しつつ、上記の概要・目標の達成を目指す。
- 成績評価方法（総合）** レポートによる（100％）。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない（授業時にプリントを配布する）。／ 参考書： 授業時に紹介する。
- 備考** 集中授業

開設科目	日本思想論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

●**授業の概要** —中世日本倫理思想史研究— 中世日本の倫理思想史における基本的文献を読み解きつつ、人とは何か、人の生の拠りどころは何か、といった問いをめぐる倫理的思索の実態を探究する。／**検索キーワード** 中世日本 倫理思想史

●**授業の一般目標** 中世日本倫理思想史について、知識・理解を深め、関心を広げること。

●**授業の計画（全体）** 毎回具体的な文献を読み、その思想解明を試みる。受講者はあらかじめテキストを読み、問題意識を明確にして授業に臨み、授業のおわりの10分程度で小レポートを書き提出する

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業内の小レポート。(2) 期末試験。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができない。

●**教科書・参考書** 教科書：『説経集』（新潮日本古典集成）、室木弥太郎校注、新潮社、1977年；受講者は必ず教科書を購入すること。販売店：文栄堂。¥3,000。／参考書：参考文献は適宜授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木寧子				

- 授業の概要** ー日本思想史の諸問題ー 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明する。／**検索キーワード** 内在的読解
- 授業の一般目標** 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を学び習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。
- 授業の計画（全体）** 受講者と相談の上決定する。
- 成績評価方法（総合）** (1) 授業時間内の報告（演習）。(2) 期末レポート。
- 教科書・参考書** 教科書：受講者と相談の上決定する。
- 連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木寧子				

- 授業の概要** ー日本思想史の諸問題ー 受講生の関心に従って、日本思想史における基本的文献を採り上げ、主として内在的読解に拠り、併せて関連文献・先行研究の検討も行いながら、その思想内容を具体的に解明する。／**検索キーワード** 内在的読解
- 授業の一般目標** 日本思想史に関わる知識・理解をもち、内在的研究の方法を知り習得するとともに、自らの関心に従って問いを発見・追求すること。
- 授業の計画（全体）** 受講者と相談の上決定する。
- 成績評価方法（総合）** (1) 授業時間内の報告（演習）。(2) 期末レポート。
- 教科書・参考書** 教科書：受講者と相談の上決定する。
- 連絡先・オフィスアワー** kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	豊澤一				

●**授業の概要** 受講者と相談の上、講義内容を決定します。

●**成績評価方法 (総合)** 受講者のテーマ等に応じて、適宜、対応します。一応、期末レポート 50 %，出席 50 %としておきます。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	豊澤一				

- 授業の概要 前期を参照。
- 授業の一般目標 前期を参照
- 授業の計画（全体） 前期を参照
- 成績評価方法（総合） 前期を参照

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Djumali Alam				

●**授業の概要** エリアーデの理論と研究（比較宗教学）について学ぶ。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知り、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学の理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、エリアーデ

●**授業の一般目標** 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身に付け、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**： 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。

関心・意欲の観点： 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**： 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。

●**授業の計画（全体）** 授業は全 1 4 回行い、内容は教科書の構成に基づいて進める。教科書は全 1 3 章からなっており、授業の内容はほぼ毎回教科書の一チャプターに相当する。毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 小テスト (2) 前回の小テストの解説 (3) 教科書に沿った当日のテーマの講義

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席は 1 0 回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2. 小テストは 1 3 回（ほぼ毎回）行うが、1 0 回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。 4. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 5. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。

●**教科書・参考書** 教科書： 太陽と天空神（エリアーデ著作集 1）, エリアーデ, せりか書房, 1974 年； 豊饒と再生（エリアーデ著作集 2）, エリアーデ, せりか書房, 1974 年； 聖なる空間と時間（エリアーデ著作集 3）, エリアーデ, せりか書房, 1974 年； 教科書は原本を研究室におき（または代表の学生に預ける）、参加者各自でコピーすること。

●**メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。

●**連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	関 一敏				

●**授業の概要** アジア的視野にたった宗教学入門をこころみる。日本の「無宗教」の風土の特殊性をしっかりとふまえたうえで、世界宗教群やローカルな宗教群をどうとらえたらよいかを考えたい。多くの文化は宗教的基礎にたっているので、宗教の知識とそれにもとづく正しい判断は21世紀のわれわれには不可欠である。／**検索キーワード** アジア、宗教・習俗・法・国家、植民地、信と儀礼、世界観

●**授業の一般目標** (1) 宗教を知る。(2) 宗教から学ぶ。(3) 世界を見る。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 宗教の基礎知識の獲得。 **思考・判断の観点**： 正確な知識にもとづく、よりよい判断のレッスン。

●**授業の計画（全体）** はじめに一人文学としての宗教学方法論 1. 宣教師たちの到来 1) 宗教の不在 2) 宣教の理由 3) 仏陀の誘惑 4) 原型と変形/差異と反復 2. 慣習と法 1) 慣習法という矛盾 2) 習俗か宗教か 3) 離床する制度群 4) 慣習とことば 3. 心理という罫、社会という仮構 1) 内面の加工 2) 魂の世俗化 3) 行と知と信と 4) 救済と安心 4. ことばの力、文字の憂鬱 1) ことばの始原 2) 文字の力 3) 聖典 4) 神話という表象群 5. 命名する根拠 1) 教会とその残余 2) 悪魔祓いの舞台 3) 評判と権威 4) 司祭と神秘家たち 6. 王法と仏法 1) 法源と正義 2) サンガとウンマと無教会 3) 天皇制というモダニズム 4) 宗教・法・国家 おわりにーアジアという角度。植民地的知のねじれのはずし方。

●**成績評価方法（総合）** 講義の最後に試験をおこなう。

●**教科書・参考書** 教科書： 宗教人類学入門、関一敏・大塚和夫編、弘文堂、2004年／参考書： 世界が分かる宗教社会学入門、橋爪大三郎、筑摩書房、2001年； 文化人類学キーワード、山下晋司・船曳建夫編、有斐閣双書、1997年

●**メッセージ** いま自分にできることは何だろうか。 http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/com_reli/enter.htm

●**連絡先・オフィスアワー** seki@lit.kyushu-u.ac.jp

●**備考** 集中授業

開設科目	比較宗教学論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** エリアーデの理論と研究（シャーマニズム）について学ぶ。宗教学における基礎理論と主要なテーマを知り、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学の理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、エリアーデ
- 授業の一般目標** 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**： 個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 **関心・意欲の観点**： 身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **技能・表現の観点**： 宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は全 1 4 回行い、内容は教科書の構成に基づいて進める。教科書は全 1 4 章からなっており、授業の内容はほぼ毎回教科書の一チャプターに相当する。毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 小テスト (2) 前回の小テストの解説 (3) 教科書に沿った当日のテーマの講義
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は 1 0 回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。 2. 小テストは 1 3 回（ほぼ毎回）行うが、1 0 回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。 3. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。 4. 遅刻や途中退室は、ケースによっては欠席とみなす。 5. 教育実習に参加する学生に関しては別途配慮するので、事前に連絡すること。
- 教科書・参考書** 教科書： シャーマニズム, エリアーデ, 冬樹社, 1974 年；教科書は原本を研究室におき（または代表の学生に預ける）、参加者各自でコピーすること。
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール: djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室: 人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論
- 授業の一般目標** 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。
関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点**：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 次回テーマのプロポーサルの発表・紹介
- 教科書・参考書** 教科書：使用しない。／参考書：テーマに沿って、適宜案内する。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Djumali Alam				

- 授業の概要** この演習は、宗教研究に関する論文を作成するための、ガイダンスと相互の情報交換・ディスカッションを主な内容とする。テーマの選定から論文の作成に至るまでの各段階において、順番にプレゼンテーションを行う。／**検索キーワード** 宗教、宗教学、記述、説明、資料、比較研究、研究方法、方法論
- 授業の一般目標** 宗教研究に関する論文の作成とプレゼンテーションの実践練習を行い、研究内容の充実と高度化を図る。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 **思考・判断の観点**：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。
関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 **態度の観点**：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 **技能・表現の観点**：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。
- 授業の計画（全体）** 毎回の授業（初回と最終回は多少異なる）は、次のようなかたちで進める（多少の工夫や変更はありうる）。(1) 当日のテーマのプレゼンテーション、コメント、ディスカッション (2) 次回テーマのプロポーサルの発表・紹介
- 教科書・参考書** 教科書：使用しない。／参考書：テーマに沿って、適宜案内する。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール:djumali@yamaguchi-u.ac.jp / 電話（研究室）: 083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。／**検索キーワード** 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓

●**授業の一般目標** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。
思考・判断の観点：史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。
関心・意欲の観点：古代貴族社会に関心・興味を抱く。学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。**態度の観点**：1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。授業計画【概要・授業の目標（予定）】

●**授業の計画（全体）** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。

●**教科書・参考書** 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／参考書：授業中に適宜指摘する。

●**メッセージ** 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中俊明				

●**授業の概要** 朝鮮古代王都の研究。 朝鮮三国、具体的には高句麗・百濟・新羅のそれぞれの王都について、その立地・構造、定都の経緯、政治的背景などについて詳述し、三国の国家史の変遷のなかに位置づける。また東アジア都城制における位置づけにもふれる。／**検索キーワード** 朝鮮古代、高句麗、百濟、新羅、王都

●**授業の一般目標** (1) 朝鮮古代史の基礎知識を身につけ、現在の課題を知る。(2) 東アジアにおける普遍性・特殊性などについての認識を高める。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：朝鮮古代史の概要を理解することができる。**思考・判断の観点**：諸問題について自分の意見を述べるすることができる。**関心・意欲の観点**：朝鮮史に関する問題意識を高めることができる。**態度の観点**：朝鮮との関わりについて再認識できる。

●**授業の計画(全体)** 1, 高句麗の建国と卒本、2, 高句麗の国内遷都、3, 高句麗の平壤遷都、4, 高句麗長安城の築造、5, 百濟の建国と漢城、6, 百濟の熊津遷都、7, 百濟の泗遷都、8, 泗王都の都市構造、9, 新羅王京の成立、10, 新羅王京の改造、11, 新羅人の王京生活、12, 新羅五小京の意義、13, 三国王都の比較、14, 東アジア都城制における位置づけ

●**備考** 集中授業

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

●**授業の概要** 鳥羽法皇の生涯とその呪術的世界についてお話しする。いわゆる「院政時代」の3代の院権力、白河—鳥羽—後白河のうち、白河院政期はその最初として注目される。また後白河院政期は、平氏政権・鎌倉幕府が成立する激動の時代であった。ところが、その間にはさまれた鳥羽院政の政治史的位置づけは必ずしも明確ではなく、その前後に比して一般的な注目度も高くはない。そこで本講義では、鳥羽法皇の前半生（＝白河院政期後半）とその後半生（鳥羽院政期）に注目し、とりわけその呪術的世界や宗教勢力の動向を捉えながら、中世初頭における王権の動向の一端を明らかにしたい。

●**授業の一般目標** 白河院政後期および鳥羽院政期の歴史的 position について、理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 当面、以下の時期ごとに検討したい。(1) 鳥羽天皇即位以前 (2) 鳥羽天皇在位期 (3) 白河院政下の鳥羽上皇 (4) 鳥羽院政期前半（出家以前） (5) 鳥羽院政期後半（出家以後） (6) 鳥羽法皇の死と保元の乱 (7) 鳥羽法皇の追善仏事 今期は (1) ～ (3) を中心に講義を行いたい。

●**成績評価方法（総合）** 授業内レポートと期末レポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：講義時間中に紹介する。

開設科目	日本歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平 雅行				

●**授業の概要** 武士中心史観や新仏教中心史観への批判により中世仏教史は激変した。中世仏教の中心が新仏教から旧仏教に代わっただけではなく、「鎌倉新仏教」概念まで批判されている。本講では、旧仏教の最盛期を院政時代と指定し、古代仏教の中世仏教への変革過程を論じながら、鎌倉仏教研究の現状や問題点を紹介する。／**検索キーワード** 顕密体制論、宗教政策、末法思想、強訴、戒律、叡尊、親鸞

●**授業の一般目標** 古代仏教の中世仏教への変革過程を考察しながら、古代から中世への転換の意味を考え、理解することを目指す。

●**授業の計画（全体）** 下記の構成で授業を進める。(1) 鎌倉新仏教は中世仏教か？ ……「鎌倉新仏教」概念はなぜ破綻したか (2) 中世の祈りと呪い ……祈祷の暴力性とその実効性について (3) 王朝国家における仏教政策の転換 (4) 旧仏教の中世的変容 ……旧仏教の発展を支えた民衆的基盤は何か？ (5) 仏教改革運動と禅律僧 ……悪僧の否定と鎌倉仏教 (6) 異端としての専修念佛 ……呪縛からの解放

●**成績評価方法（総合）** 講義内容の理解度を試験によってはかる。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：平雅行『親鸞とその時代』（法蔵館、2001年）平雅行『日本中世の社会と仏教』（塙書房、1992年）

●**備考** 集中授業

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

●**授業の概要** 「萩藩天保期の借銀をめぐる」という主題で講義を行う。従来、村田清風の「八万貫目の大敵」という言葉のみが有名で、借銀の額・変遷・内容すら明らかになっていない。そこでこの講義では、この期の借銀額の変遷とその内容、馳走米・米価・札銀発行高・大坂廻米といった藩財政の重要要素との連関をおさえながら、具体的に主題を解明する。／**検索キーワード** 萩藩、天保財政改革、馳走米、撫育方、札銀、大坂廻米

●**授業の一般目標** 1. 藩財政を構造的に理解する。 2. 天保改革のなかでの財政改革の位置を理解する。 3. 天保期という時期の時代相を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. この主題にかかわる研究史と講義での主張の違いが説明できる。 2. 藩財政の基本的要素について説明できる。 **思考・判断の観点**： 1. 史料の読み、論証方法について、自分の言葉で説明できる。 2. 授業内容を批判的にみることができる。 **技能・表現の観点**： 1. 自分の見解を文章で論理的に表現できる。

●**授業の計画（全体）** 「萩藩天保期の借銀をめぐる」という主題について、(1) 近世後期藩財政の構造的特徴、(2) 借銀額の推移とその内容、(3) 馳走米・米価・大坂廻米・札銀発行高といった藩財政の重要要素と借銀の連関、(4) 天保3年仕組の内容、(5) 天保9・11年仕組の内容、(6) 借銀返済の結果とその要因・内容、(7) 撫育銀と初期の仕置銀の比較、等にわたって解明する。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、4000字詰15枚以上。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜の昼休み。

開設科目	日本歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	倉地克直				

- 授業の概要** 「近世社会と絵図」という主題で、江戸時代につくられた国絵図・郡絵図・村絵図について概観し、それが社会のなかでどのような機能を果たしたか、具体的に考える。／**検索キーワード** 近世、絵図
- 授業の一般目標** 1. 絵図を見る楽しさの発見。 2. 歴史史料として絵図を見るポイントを知る。 3. 絵図から近世社会のあり方を考える。
- 授業の計画（全体）** 「近世社会と絵図」という主題で、次のような内容について講義する予定である。はじめに－絵図とは何か、1. 近世の国絵図－(1) 国絵図とは何か、(2) 備前慶長国絵図、(3) 備前九郡絵図、2. 国境争論と国絵図－(1) 正保国絵図前後、(2) 元禄国絵図前後、(3) 国絵図の運命、3. 郡絵図と村絵図－(1) 絵図と領域支配、(2) 郡絵図、(3) 村絵図
- 成績評価方法（総合）** 試験。
- 教科書・参考書** 教科書： 特になし。授業時にレジュメ・資料を配付する。／ 参考書： 授業時に紹介する。手頃なものとしては、川村博忠『国絵図』（吉川弘文館）。
- 備考** 集中授業

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。／**検索キーワード** よりよい修士論文の作成を目指す。

●**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	橋本義則				

●**授業の概要** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。／**検索キーワード** よりよい修士論文の作成を目指す。

●**授業の一般目標** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**授業の計画（全体）** 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし

●**メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要** 「日本歴史文化論演習」：受講者の課題に近い原史料の写真版をテキストに、史料を精読していく。また、受講者の課題に基づく発表を行い、討論をして内容を深める機会も適宜織り込む。／**検索キーワード** 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標** 1. 近世史料の内難度の高いものが読解できる。 2. 自分の主題について、史料に基づき論を立てることができる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 難度の高いくずし字の史料が読解できる。 2. 自分の主題に関する研究史の整理が的確にできる。 **思考・判断の観点**： 1. 史料を用いての論証が精密にできる。 2. 自分の主題をオリジナリティーをもった論として立てることができる。 **技能・表現の観点**： 1. 自分の見解を論理的に文章で表現できる。
- 授業の計画（全体）** 受講者の課題に近い原史料の写真版を用いて、精読していく。また、受講者の課題に基づく報告を行い、討論をして内容を深める機会を適宜もうける。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、400字詰15枚以上。
- 教科書・参考書** 教科書： 特になし。適宜レジュメ・資料を配付する。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中誠二				

- 授業の概要 前期と同様。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標 前期と同様
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同様 思考・判断の観点：前期と同様 技能・表現の観点：前期と同様
- 授業の計画（全体） 前期と同様
- 成績評価方法（総合） 前期と同様
- 教科書・参考書 教科書：前期と同様
- 連絡先・オフィスアワー 前期と同様

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	真木隆行				

- 授業の概要** 題目：日本中世史の諸問題 概要：修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。受講生と相談の上で選定する史料の輪読と、受講生自身の研究成果報告をおこない、検討する。
- 授業の一般目標** 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。
- 授業の計画（全体）** ・輪読史料を選定し、その読解を深める。 ・各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合）** 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ** いい修士論文を読ませてください。

開設科目	日本歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	真木隆行				

- 授業の概要** 題目：日本中世史の諸問題 概要：修士課程の大学院生を対象とし、修士論文の作成に向けた指導を行う。受講生と相談の上で選定する史料の輪読と、受講生自身の研究成果報告をおこない、検討する。
- 授業の一般目標** 修士論文作成につながるような研究成果を重ねる。
- 授業の計画（全体）** ・輪読史料を選定し、その読解を深める。 ・各自が設定した修士論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合）** 演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ** いい修士論文を読ませてください。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

●**授業の概要** 中国明清時代の中央政府と地方政府の関係について文書送達および財政収入の処理を中心に検討する。／**検索キーワード** 中央、地方、総督・巡撫、奏摺、駅伝

●**授業の一般目標** 所謂「中央集権的専制国家」を相対化した上で、明清国家がいかにその大きな領土を統治していたか、その制度的、技術的側面を再検討し、再認識する。この問題を原史料の理解から分析する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 中国明清時代の中央—地方関係を支えた制度的条件を理解する。
思考・判断の観点： 「皇帝独裁」、「中央集権」などと一口で言われる政治を、技術的、制度的な裏打ちから組み上げて思考する力を身につける。
関心・意欲の観点： 中国の政治がよって立っていた制度的・技術的側面に関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 序論 **内容** 中央—地方関係を検討することによって明らかになるもの
- 第 2 回 **項目** 現代日本における中央と地方 **内容** 現代日本社会における中央政府と地方政府の関係および行政通信手段
- 第 3 回 **項目** 中国明代の行政制度 1 **内容** 明代の中央行政制度の概説と内閣大学士の経歴
- 第 4 回 **項目** 中国明代の行政制度 2 **内容** 明代の地方行政制度の概説と総督・巡撫制の発生
- 第 5 回 **項目** 中国明代の行政制度 3 **内容** 張居正の政治手法（地方長官あて書簡の分析）
- 第 6 回 **項目** 中国清代の行政制度 1 **内容** 清代の中央行政制度の概説と内閣大学士・議政王大臣・軍機大臣
- 第 7 回 **項目** 中国清代の行政制度 2 **内容** 清代の地方行政制度の概説と総督・巡撫制
- 第 8 回 **項目** 中国清代の行政制度 3 **内容** 奏摺制度の発生と発展
- 第 9 回 **項目** 奏摺政治の分析 1 **内容** 雍正時代の奏摺を分析する。
- 第 10 回 **項目** 奏摺政治の分析 2 **内容** 乾隆時代の奏摺を分析する。
- 第 11 回 **項目** 奏摺の送達制度 1 **内容** 駅伝制と奏摺
- 第 12 回 **項目** 奏摺の送達制度 2 **内容** 奏摺の送達所要日数
- 第 13 回 **項目** 奏摺送達の事例研究 1 **内容** 粵海関徴税報告 遅延問題 1
- 第 14 回 **項目** 奏摺送達の事例研究 2 **内容** 粵海関徴税報告 遅延問題 2
- 第 15 回 **項目** まとめ **内容** 行政と空間

●**成績評価方法（総合）** 学期末に提出するレポートによって評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。／参考書：授業中に紹介する。

●**メッセージ** 漢文史料を紹介しつつ授業を進め、大学院生には、その予め読解し、それに関する問いに答えることを求めるので、漢文史料に興味をもち、それを読解する能力がある学生の聴講を望む。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）：月曜日 9/10 時限

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	大塚博久				

●**授業の概要** 【清末～辛亥革命期におけるジャーナリズムの展開と社会変革運動】 この講義は、19 世紀 60 年代「天津・北京条約」以降～辛亥革命（1911）に至る清末社会 変革運動の諸相を、中国における近代的ジャーナリズムの発生と展開過程として捉え、その観点から (1)19 世紀末の啓蒙思想家、早期ジャーナリスト、および (2) 辛丑条約（1901）～辛亥革命間の政治運動諸潮流の各種「報刊（新聞・雑誌）」活動の実態に即して考察する。これらの大半は「政論」型の性格をもつが、(1) が清朝に対峙して、権力を相対化しつつ、世論形成、参加を目指すのに対し、(2) は各派の政治主張を公開の論争を通じて、国民統合の方策、近代国家建設構想を明確にし、運動主体を強化しつつ、大衆の政治動員 を企図した点、また清朝の対抗政策についても明らかにしたいと考える。／**検索キーワード** 近代中国、清末～辛亥革命期、ジャーナリズム、改革、革命、立憲、新民叢報、民報

●**授業の一般目標** (1) 19 世紀後半～20 世紀初頭における中国の歴史的状況を理解する。(2) 当時の中国をとりまく国際環境（列強帝国主義との関係）について考える。(3) 世界史における「近代」とは何か、また一般に「近代化」の指標は何と考えるか。(4) 当時の「君主立憲」（体制内改革）と「共和立憲」（民族革命）との違いを知る。(5) 各報刊の出版基盤、編集方針・編集陣、発行形態、読者層と、その推移を知る。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 19 世紀後半～20 世紀初頭における中国の歴史的状況を理解する。当時の「君主立憲」（体制内改革）と「共和立憲」（民族革命）との違いを知る。各報刊の出版基盤、編集方針・編集陣、発行形態、読者層と、その推移を知る。**思考・判断の観点**： 当時の中国をとりまく国際環境（列強帝国主義との関係）について考える。**関心・意欲の観点**： 約百年前、苦難の中に「近代化」への情熱を燃やし続けた中国人民の精神と努力について関心を持つ。**態度の観点**： 約百年前、苦難の中に「近代化」への情熱を燃やし続けた中国人民の精神と努力について思いを致す態度をもつ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 外国宣教師らの発行雑誌と王韜の『循環日報』
- 第 2 回 項目 変法派康有為と『強学報』
- 第 3 回 項目 啓蒙思想家嚴復と『国聞報』
- 第 4 回 項目 梁啓超と『時務報』
- 第 5 回 項目 変法派「報刊」の全国的拡大、湖南の『湘報』
- 第 6 回 項目 孫文と『中国日報』、海外華僑の動向
- 第 7 回 項目 留日各省学生雑誌の盛行とその影響
- 第 8 回 項目 章太炎と上海『蘇報』事件、鄒容『革命軍』
- 第 9 回 項目 梁啓超の『清議報』と報刊思想の発展
- 第 10 回 項目 中国同盟会『民報』の発刊と『新民叢報』の論戦
- 第 11 回 項目 ジャーナリスト于右任と章士ショウの言論活動
- 第 12 回 項目 上海・香港の商業ジャーナリズム
- 第 13 回 項目 立憲運動、利権回収運動と諸「報刊」論調
- 第 14 回 項目 女権 確立運動と女性雑誌の伸張
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験（自筆ノート持ち込み可）の成績を主に評価する。ただし、出席率 50 % 以上を受験条件とする。

●**教科書・参考書** 教科書： なし／参考書： その都度、必要に応じてプリント、コピー等参考資料を配布、参考文献・史料も紹介する。

- **メッセージ** 今日、目覚ましい発展を続ける中国の現状からはなかなか想像し得ない約百年 前の歴史を回顧し、苦難の中に「近代化」への情熱を燃やし続けた中国人民の 精神と努力を感得し、一層の国際理解を深めて頂きたい。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代 (BC.220 ～ AD.220) の出土文字資料——簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は辺境簡と内地簡の二部構造に分けて、紹介したいと計画する。

●**授業の一般目標** 出土文字の研究によって、2 1 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。

●**成績評価方法 (総合)** レポート。

開設科目	中国歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本英史				

●**授業の概要** 中国の史料が作られる過程を様々な角度から検討し、中国人の歴史に対する考え方や文字に記録する姿勢のあり方を明らかにしていく。また、そうした観点を踏まえて中国史研究においてその史料を用いる際の留意点について述べる。／**検索キーワード** 史料、中国、虚実

●**授業の一般目標** 奥義を聞くことで中国の史料が持っている独特の性質を認識し、それを通して中国の歴史と伝統の複雑さを理解する。また、中国の史料を扱う際の注意点を知り、専門研究の基礎とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：中国の史料が持っている独特の性質を理解し、それを通して中国の歴史の複雑さを理解する。**思考・判断の観点**：史料が作られる過程を様々な角度から検討し、中国人の歴史に対する考え方や文字に記録する姿勢のあり方を考える。**関心・意欲の観点**：中国の歴史や現代中国の政治に関心をもつ。**態度の観点**：史料を基礎にして歴史を考える態度を持つ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 序論 **内容** 中国史料入門の心得
- 第 2 回 **項目** 中国の史料とは **内容** 中国史料の特徴を語る
- 第 3 回 **項目** 正史の伝統 **内容** 史記をはじめとする史料の性質を語る
- 第 4 回 **項目** 朱元璋は死なず **内容** 史料と明初政治との関係を語る
- 第 5 回 **項目** 李巖という幻 **内容** 史料と明末社会との関係を語る
- 第 6 回 **項目** 実録ができるまで **内容** 明清両朝の王朝記録について語る
- 第 7 回 **項目** 雍正帝の陰謀 **内容** 雍正時代の史料論
- 第 8 回 **項目** 新学偽経考 **内容** 史料と清末政治との関係を語る
- 第 9 回 **項目** 史料の発見 **内容** 20 世紀の史料の発見が持つ意味を考える
- 第 10 回 **項目** 故宫博物院 **内容** 史料と現代政治との関係を語る
- 第 11 回 **項目** 写真は写真にあらざ **内容** フェイク写真と現代政治との関係について語る
- 第 12 回 **項目** 大躍進報道 **内容** 現代中国の報道のあり方について考える
- 第 13 回 **項目** 影射史学 **内容** 史料と現代政治との関係を語る
- 第 14 回 **項目** まとめ **内容** 中国史料入門を総括する
- 第 15 回 **項目** 試験 **授業外指示** 持ち込み可

●**成績評価方法（総合）** 講義への出席度数と授業での理解を求める試験との二つを基本的な評価対象とする。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。プリントを配布する。／参考書：講義の際にそのつど紹介する。

●**メッセージ** 中国の歴史や現代中国の政治に関心のある方であれば、どなたでも受講してください。細かな専門知識がなくてもかまいません。知的意欲のある方の受講を望みます。

●**備考** 集中授業

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高木 尚子				

●**授業の概要** 中華文明世界の南方に位置する嶺南地域＝現在の広東・広西からヴェトナム中部に至る 地域は、かつて「越」と呼ばれる人々が独自の世界を形成していた。越の世界と中華文明 世界との交流は新石器時代に遡ると考えられるが、BC 2 c以降、次第に越世界は中華文明 世界の中へと巻き込まれ、やがて AD10 cにはヴェトナム世界が現ヴェトナム北部に成立する。異なる文化世界間にどのような交渉・関係があり、それが各時代の地域文化世界の形成とどのように関わるのかについて、史料に即し具体的に考察する。／**検索キーワード** 中華文明、地域文化、ヴェトナム、嶺南、越、歴史世界

●**授業の一般目標** 現在、「歴史」は、近代ヨーロッパにおいて成立した近代国民国家を地理的枠組みとして描かれるのが普通である。しかし、過去の歴史世界をありのままに理解するならば、現在の国境線は意味をもたず、しかも、過去の歴史世界は、ある意味において、現在に至る まで意味を持ち続けている。近代国家の枠組みにとらわれることなく、中華文明世界における地域文化世界が、中華文明との関わりにおいて、どのように形成され、どのような歴史をたどったのかを、具体的に理解する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 中華文明世界南部の地域文化世界と中華文明との関係史を説明できる。 **思考・判断の観点**： 現在の国境線にとらわれることなく、地域文化世界を理解できる。 **関心・意欲の観点**： 中華文明世界のあり方に関心をもつ。 **態度の観点**： 自己の価値観を相対化できる。

●**授業の計画（全体）** 嶺南地域に関する史料を通して、嶺南の文化世界と中華文明とが、どのような関係・交渉をもったのか、その結果、どのような嶺南の文化世界が主体的に形成されたのかを、中華文明世界の歴史・時代性の中に位置づけながら、具体的に考察する。時代は、講義の進 度によるが、AD 5・6 c位まで（隋唐帝国成立以前）を予定している。

●**成績評価方法（総合）** 期末試験により、目標の達成度を評価する。受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

●**メッセージ** 史料から、自分で地域世界を構成する姿勢を求める。

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高木 尚子				

●**授業の概要** 中華文明世界の南方に位置する嶺南地域＝現在の広東・広西からヴェトナム中部に至る 地域は、かつて「越」と呼ばれる人々が独自の世界を形成していた。越の世界と中華文明 世界との交流は新石器時代に遡ると考えられるが、BC 2 c以降、次第に越世界は中華文明 世界の中へと巻き込まれ、やがて AD10 cにはヴェトナム世界が現ヴェトナム北部に成立する。異なる文化世界間にどのような交渉・関係があり、それが各時代の地域文化世界の形成とどのように関わるのかについて、史料に即し具体的に考察する。／**検索キーワード** 中華文明、地域文化、ヴェトナム、嶺南、越、歴史世界

●**授業の一般目標** 現在、「歴史」は、近代ヨーロッパにおいて成立した近代国民国家を地理的枠組みとして描かれるのが普通である。しかし、過去の歴史世界をありのままに理解するならば、現在の国境線は意味をもたず、しかも、過去の歴史世界は、ある意味において、現在に至る まで意味を持ち続けている。近代国家の枠組みにとらわれることなく、中華文明世界における地域文化世界が、中華文明との関わりにおいて、どのように形成され、どのような歴史をたどったのかを、具体的に理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 中華文明世界南部の地域文化世界と中華文明との関係史を説明できる。**思考・判断の観点**： 現在の国境線にとらわれることなく、地域文化世界を理解できる。**関心・意欲の観点**： 中華文明世界のあり方に関心をもつ。**態度の観点**： 自己の価値観を相対化できる。

●**授業の計画（全体）** 嶺南地域に関する史料を通して、嶺南の文化世界と中華文明とが、どのような関係・交渉をもったのか、その結果、どのような嶺南の文化世界が主体的に形成されたのかを、中華文明世界の歴史・時代性の中に位置づけながら、具体的に考察する。時代は、講義の進 度によるが、AD 5・6 c位まで（隋唐帝国成立以前）を予定している。

●**成績評価方法（総合）** 期末試験により、目標の達成度を評価する。受講態度が悪い場合は、欠格とすることがある。

●**教科書・参考書** 教科書： なし。適宜プリントを配布する。

●**メッセージ** 史料から、自分で地域世界を構成する姿勢を求める。

開設科目	中国歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

- 授業の概要** 近代日本に留学した中国留学生の手記や日記を主に検討し、中国の「近代化」に日本留学が果たした役割を探る。／**検索キーワード** 日本留学、中国同盟会、「近代化」、ナショナリズム、宋教仁、魯迅、周恩来
- 授業の一般目標** 近代の日中間の関係を中国人の日本留学という点に於いて捉え、その正負両面の相互関係について理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 近代の日中関係について知識を獲得し、理解する。 **思考・判断の観点**： 日中両国の正負両面にわたる深い関係について考える。 **関心・意欲の観点**： 「交流」というものがもたらす影響の複雑さに関心を持つ。
- 授業の計画（全体）** まず19世紀末20世紀前半の中国人による日本留学を概観し、魯迅、宋教仁、周恩来などの手記・日記の中から主にナショナリズムの形成に関わる部分を抜き出し、検討する。なお、受講大学院生は、前もって史料を読み、該当すると思われる箇所を抜粋してくる。
- 教科書・参考書** 教科書： 授業開始時に指示する。／ 参考書： その都度紹介する。
- メッセージ** 作業を課すので、当該問題に興味を持ち、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝野正二郎				

- 授業の概要** テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の 歴史像を構築する。／**検索キーワード** 中国、史料、読解、時代像
- 授業の一般目標** 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 **思考・判断の観点**：史料から歴史像を考える。 **関心・意欲の観点**：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 **態度の観点**：史料から歴史を考える態度を持つ。 **技能・表現の観点**：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。
- 授業の計画（全体）** 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。
- 成績評価方法（総合）** 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：受講者との相談によって決定する。／参考書：その都度紹介する。
- メッセージ** 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）月曜日 9/10 時限

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝野正二郎				

- 授業の概要** テーマ：中国史史料の研究 受講生の研究に関する史料を読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の 歴史像を構築する。／**検索キーワード** テーマ：中国史史料の研究
- 授業の一般目標** 史料を読解し、そこから当該時代の歴史像を構築する力を獲得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：中国史料に関する基礎的な知識を獲得する。 **思考・判断の観点**：史料から歴史像を考える。 **関心・意欲の観点**：歴史に関心を持ち、史料そのものから歴史像を構築する意欲を持つ。 **態度の観点**：史料から歴史を考える態度を持つ。 **技能・表現の観点**：中国史料を操作する基本的技能を獲得する。
- 授業の計画（全体）** 受講生の研究に関する史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の歴史像を構築する。
- 成績評価方法（総合）** 授業における発表と期末レポートで成績を評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：受講者との相談によって決定する。／参考書：その都度紹介する。
- メッセージ** 受講生は学期途中で、受講を取りやめないこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日 5/6 時限

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	馬彪				

●**授業の概要** 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。

●**授業の一般目標** 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。

●**成績評価方法 (総合)** レポート。

●**教科書・参考書** 教科書：『龍崗秦簡』, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	中国歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	馬彪				

- 授業の概要** 『龍崗秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、院生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標** 院生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。
- 成績評価方法 (総合)** レポート。
- 教科書・参考書** 教科書：龍崗秦簡, 整理小組, 中華書局, 2002 年

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

●**授業の概要** 【19 世紀末までのロシア史の展開】9 世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した 19 世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。

●**授業の一般目標** 専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして 19 世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：上記の点について知識をもち、理解する。 **思考・判断の観点**：上記の点について自分で深く考えてみる。 **関心・意欲の観点**：ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 ロシアの自然環境とその影響（1）
- 第 3 回 項目 ロシアの自然環境とその影響（2）
- 第 4 回 項目 キエフ国家の成立
- 第 5 回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第 6 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（1） 軍事的中央集権国家の出現
- 第 7 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（2） 農奴制の形成
- 第 8 回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ（3） 農奴制の確立
- 第 9 回 項目 皇帝と貴族
- 第 10 回 項目 ラジーシチェフとデカブリスト
- 第 11 回 項目 スラヴ主義者対西欧主義者の大論争
- 第 12 回 項目 ゲルツェンの「ロシア社会主義」論
- 第 13 回 項目 農奴解放と人民主義運動
- 第 14 回 項目 人民主義の思想家たち
- 第 15 回 項目 人民主義運動の展開と挫折

●**成績評価方法（総合）** レポート（読書感想文）100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

●**教科書・参考書** 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

●**授業の概要** 【ロシア革命の考察】19 世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902 年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社 会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。 同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革 命体 制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権 的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。——こうした 問題を考えてみたい。

●**授業の一般目標** 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：ロシア革命について知識を得、理解を深める。 **思考・判断の観 点**：ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 **関心・意欲の観点**：ロシアとヨーロッ パの歴史に強い関心をもつ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 (1)
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 (2)
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィ キの対立
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮
- 第 6 回 項目 1905 年革命
- 第 7 回 項目 1917 年の 2 月革命
- 第 8 回 項目 2 月革命から 10 月革命へ
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策
- 第 10 回 項目 内戦の勃発
- 第 11 回 項目 「戦時共産主 義」
- 第 12 回 項目 内戦の終結、「戦時共産主 義」の続行、農 民反乱
- 第 13 回 項目 ネット（新経済 政策）への転 換、共産党一党 独裁の完成
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備日

●**成績評価方法（総合）** 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

●**教科書・参考書** 教科書：用いない。適宜プリントを配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	西洋歴史文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿河雄二郎				

●**授業の概要** 近年の西洋史研究では、「グローバル化」時代を反映して、人、モノ、情報などの流れに着目した研究が多い。本講義では、近世のフランスに滞在した外国人の動きを多面的に考察し、当時のフランスが外部世界とどのようなつながりをもっていたかを検討する。／**検索キーワード** 外国人、海洋帝国、ネットワーク

●**授業の一般目標** 従来の研究では、フランスの大陸的・農民的性格が指摘され、「絶対王政」の側面が強調されたが、近年では海洋的・商人的な性格も注目されている。外国人研究を通して、これまでのフランス像の見直しをはかりたい。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：近世ヨーロッパの全体的な流れをつかむ。**思考・判断の観点**：フランスという国のイメージを見直す。**関心・意欲の観点**：外国人とは何かという問題を認識する。

●**授業の計画（全体）** フランスの近世（16-18世紀）のなかで、外国人の動向は、当時のヨーロッパの政治・経済・社会の動きの反映でもある。ここでは、時間とともに、南欧系から北欧系への変化がみられることに着目しつつ、その意味を探ってゆきたい。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 近世フランスの外国人研究の状況
- 第 2 回 項目 近世フランスの対外発展と海港都市 1
- 第 3 回 項目 近世フランスの対外発展と海港都市 2
- 第 4 回 項目 「オーバン」としての外国人 1
- 第 5 回 項目 「オーバン」としての外国人 2
- 第 6 回 項目 フランスの「帰化状」
- 第 7 回 項目 フランスのなかのイタリア人（イタリア的フランスの展開） 1
- 第 8 回 項目 フランスのなかのイタリア人（イタリア的フランスの展開） 2
- 第 9 回 項目 近世フランスにおけるユダヤ人の問題 1
- 第 10 回 項目 近世フランスにおけるユダヤ人の問題 2
- 第 11 回 項目 17 世紀末の外国人居住状況 1
- 第 12 回 項目 17 世紀末の外国人居住状況 2
- 第 13 回 項目 18 世紀のパリに滞在した外国人 1
- 第 14 回 項目 18 世紀のパリに滞在した外国人 2
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 講義終了時に試験を実施する。

●**備考** 集中授業

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカの人種関係を根底から変えた 60 年代公民権運動に関し論じる。なかでも学生非暴力調整委員会という、後のカウンターカルチャー興隆の拠点となり、全世界的規模で展開することになった「若者」を主体とした運動に焦点をあてる。いわゆる「激動の 60 年代」の動因とは何か、historical agency とは何かを考える。／**検索キーワード** アメリカ史、黒人、社会運動

●**授業の一般目標** (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める **思考・判断の観点**：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける **関心・意欲の観点**：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める **態度の観点**：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●**授業の計画（全体）** できれば前・後期通年の受講が望ましい

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 セルマ運動 (1)
- 第 3 回 項目 セルマ運動 (2)
- 第 4 回 項目 セルマ運動 (3)
- 第 5 回 項目 セルマ運動 (4)
- 第 6 回 項目 セルマ運動 (5)
- 第 7 回 項目 映像史料解説
- 第 8 回 項目 アメリカ映画の 60 年代表象 (1)
- 第 9 回 項目 アメリカ映画の 60 年代表象 (2)
- 第 10 回 項目 セルマ運動 (6)
- 第 11 回 項目 セルマ運動 (7)
- 第 12 回 項目 セルマ運動に関する主要学説
- 第 13 回 項目 総括
- 第 14 回
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書：My Soul Is Rested, Howell Raines, Penguin, 1977 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11 時 50 分から 12 時 50 分

開設科目	西洋歴史文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカの人種関係を根底から変えた 60 年代公民権運動に関し論じる。なかでも学生非暴力調整委員会という、後のカウンターカルチャー興隆の拠点となり、全世界的規模で展開することになった「若者」を主体とした運動に焦点をあてる。いわゆる「激動の 60 年代」の動因とは何か、historical agency とは何かを考える。／**検索キーワード** アメリカ史、黒人、社会運動

●**授業の一般目標** (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める **思考・判断の観点**：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける **関心・意欲の観点**：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める **態度の観点**：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (1)
- 第 3 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (2)
- 第 4 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (3)
- 第 5 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (4)
- 第 6 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (5)
- 第 7 回 項目 映像史料解説
- 第 8 回 項目 アメリカ映画の 60 年代表象 (1)
- 第 9 回 項目 アメリカ映画の 60 年代表象 (2)
- 第 10 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (6)
- 第 11 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (7)
- 第 12 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (8)
- 第 13 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー (9)
- 第 14 回 項目 総括
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●**教科書・参考書** 教科書：My Soul Is Rested, Howell Raines, Penguin, 1977 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の一般目標** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の計画（全体）** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 成績評価方法（総合）** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尼川創二				

- 授業の概要** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の一般目標** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 授業の計画（全体）** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。
- 成績評価方法（総合）** 未定。受講する院生の研究テーマを知ったうえで決める。

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する／**検索キーワード** アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める **思考・判断の観点**：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 今後のゼミの進行について打ち合わせをする。受講希望者は必ず出席のこと

●**成績評価方法（総合）** 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

●**メッセージ** 質問があれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋歴史文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤永康政				

●**授業の概要** アメリカ史が直面している諸問題を批判的に検討する。具体的内容はゼミ参加者の関心にしたがって決定する／**検索キーワード** アメリカ史

●**授業の一般目標** (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める **思考・判断の観点**：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 今後のゼミの進行について打ち合わせをする。受講希望者は必ず出席のこと

●**成績評価方法（総合）** 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

●**メッセージ** 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●**連絡先・オフィスアワー** メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	直井道子				

- 授業の概要** 「高齢社会：調整と対応」をテーマとして、高齢社会はどのように登場し、進展していくのか、その中でどのような問題が生じるのか、を概説する。また、その対応策（社会保障・社会福祉サービス）について考え、議論する。／**検索キーワード** 高齢化、高齢者、高齢社会
- 授業の一般目標** （１）高齢社会、少子化などについて基本的に理解する。（２）高齢者をめぐる社会保障、社会福祉サービスについて基礎的な論点を理解する。（３）これからの日本の社会の高齢者サービスについて問題意識、関心をもって考えていく。
- 授業の計画（全体）** （１）高齢社会はどのようにして生まれ、進展していくのか（２）どのような問題が生じ、どのような高齢者サービスが必要になるのか（３）それらのサービスの今日的争点はどこにあるか（４）これからの日本の選択について討論
- 成績評価方法（総合）** （１）基本的には授業終了後提出のレポートで評価する。（２）授業中での発言等も加味する場合がある。
- 教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：現代社会論, 古城利明・矢澤修次郎編, 有斐閣
- 備考** 集中授業

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

●**授業の概要** 産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って具体的な事例を紹介しながら考察する／**検索キーワード** 産業都市、企業組織、企業の社会的責任、コミュニティ

●**授業の一般目標** 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。前期は特に環境問題に焦点をおく。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 産業都市の企業組織についての理解を深める **思考・判断の観点**： コミュニティとアソシエーションの関係について考える **関心・意欲の観点**： 身近な地域社会の社会問題についてに関心を持つ **態度の観点**： 身近な地域に目を向けるようになる

●**授業の計画（全体）** テキストを用いて、具体的な産業都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 産業都市の成立
- 第 2 回 項目 企業と都市の関わり（1）
- 第 3 回 項目 企業と都市の関わり（2）
- 第 4 回 項目 地場産業都市の地域形成（1）
- 第 5 回 項目 地場産業都市の地域形成（2）
- 第 6 回 項目 地場産業都市の地域形成（1）
- 第 7 回 項目 地場産業都市の地域形成（2）
- 第 8 回 項目 企業進出とコミュニティ（1）
- 第 9 回 項目 企業進出とコミュニティ（2）
- 第 10 回 項目 企業の環境対策
- 第 11 回 項目 公害都市の再生
- 第 12 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（1）
- 第 13 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（2）
- 第 14 回 項目 公害都市から環境国際協力都市へ（3）
- 第 15 回 項目 企業と都市の関わり

●**成績評価方法（総合）** 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●**教科書・参考書** 教科書： 三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004 年／参考書： 適宜紹介する

●**メッセージ** 前期・後期通して使用するので、購入すること

●**連絡先・オフィスアワー** tani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				
<p>●授業の概要 産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って、具体的な事例を紹介しながら考察する／検索キーワード 企業組織、企業の社会貢献、企業メセナ、コミュニティ</p> <p>●授業の一般目標 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。後期は特に企業の地域社会への社会貢献に焦点をおく</p> <p>●授業の到達目標／ 知識・理解の観点：企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：コミュニティとアソシエーションの関係について考える 関心・意欲の観点：身近な地域社会の企業の社会貢献活動についてに関心を持つ 態度の観点：身近な地域社会の企業活動に目を向けるようになる</p> <p>●授業の計画（全体） テキストを用いて、具体的な産業都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 企業の経営理念 と社会貢献活動</p> <p>第 2 回 項目 企業の社会貢献 活動（1）</p> <p>第 3 回 項目 企業の社会貢献 活動（2）</p> <p>第 4 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（1）</p> <p>第 5 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（2）</p> <p>第 6 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）</p> <p>第 7 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（2）</p> <p>第 8 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）</p> <p>第 9 回 項目 宇部市における 企業文化の形成</p> <p>第 10 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（1）</p> <p>第 11 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（2）</p> <p>第 12 回 項目 山口市における 企業の社会貢献 活動（1）</p> <p>第 13 回 項目 産業都市における 環境市民団体（1）</p> <p>第 14 回 項目 産業都市における 環境市民団体（2）</p> <p>第 15 回 項目 企業と都市の関わりを考える</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する</p> <p>●教科書・参考書 教科書：三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004 年／参考書：適宜紹介する</p> <p>●メッセージ 前期・後期通して使用するので、購入すること</p> <p>●連絡先・オフィスアワー tani@yamaguchi-u.ac.jp</p>					

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 近現代都市における貧困、階層格差の問題と、都市下層の生活実態や共同性の位相、さらには都市下層社会の変容について、社会学的な調査記録や調査データに依拠しながら、概観していく。／**検索キーワード** 都市下層、スラム、シカゴ学派、都市下層調査、寄せ場、ホームレス

●**授業の一般目標** (1) 近現代の欧米や日本における都市化を、都市下層社会の変容という視点から見つめ直すことによって、都市化過程の重層的な理解を促す。(2) 現代社会における階層格差のありようを、社会学的なデータに基づいて理解し、都市問題、社会問題に対する関心を深める。

●**授業の計画 (全体)** 都市と貧困との関係、および都市下層社会の諸相、都市下層調査の変遷等を概観する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨN (授業の進め方についての説明)
- 第 2 回 項目 都市と貧困
- 第 3 回 項目 イギリス産業都市における貧困
- 第 4 回 項目 イギリス産業都市における貧困 (2)
- 第 5 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフにみる都市下層社会
- 第 6 回 項目 シカゴ学派の調査モノグラフにみる都市下層社会 (2)
- 第 7 回 項目 近代日本の都市下層 (1) - 「貧民窟調査」の記録 -
- 第 8 回 項目 近代日本の都市下層 (2) - 「細民調査」と「月島調査」 -
- 第 9 回 項目 近代日本の都市下層 (3) - 草間八十雄と都市下層調査 -
- 第 10 回 項目 近代日本の都市下層 (4) - 社会事業の展開 -
- 第 11 回 項目 現代日本の都市下層 (1) - 「バタヤ社会」の形成と消滅 -
- 第 12 回 項目 現代日本の都市下層 (1) - 「バタヤ社会」の形成と消滅 - (続き)
- 第 13 回 項目 現代日本の都市下層 (2) - 寄せ場とホームレス -
- 第 14 回 項目 現代日本の都市下層 (2) - 寄せ場とホームレス - (続き)
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験 50 % 出席 40 % 小レポート・授業参加度 10 %

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：シカゴ社会学の研究, 宝月誠他, 恒星社厚生閣, 1997 年; 日本の下層社会, 横山源之助, 岩波書店 (文庫), 1985 年; 日本の都市下層, 中川清, 勁草書房, 1985 年; 月島調査 (復刻版), 内務省衛生局, 光生館, 1970 年; 場所をあける - 寄せ場 / ホームレスの社会学 -, 青木秀男他, 松籟社, 1999 年; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	地域社会計画論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 戦後日本における産業化・都市化と地域社会の変動を分析する方法として、いわゆる「構造分析」を取り上げ、その理論的特質と研究成果について概観するとともに、「構造分析」の現代的意義と問題点、限界などについて考える。講義科目ではあるが、授業の後半には、演習に近い形式で、構造分析による地域社会研究（モノグラフ）を実際に読んで報告してもらい、受講生全員で討議する。／**検索キーワード** 構造分析、地域社会、高度経済成長、重化学工業都市、階層・階級

●**授業の一般目標** (1) 地域社会学における「構造分析」の理論と実証研究の特質、問題点や現代的意義などを分析する。(2) 構造分析による研究成果を通して、戦後日本における地域社会変動の特質を理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 都市・地域研究の方法と分析視角
- 第 2 回 項目 構造分析の背景－高度経済成長と重化学工業都市－
- 第 3 回 項目 構造分析の系譜（1）－福武直と村落社会構造の理論－
- 第 4 回 項目 構造分析の系譜（2）－「釜石調査」の研究枠組み－
- 第 5 回 項目 構造分析の系譜（3）－「室蘭調査」をめぐる－
- 第 6 回 項目 構造分析の系譜（3）（続き）
- 第 7 回 項目 構造分析の系譜（4）－「室蘭調査」とその後－
- 第 8 回 項目 構造分析の系譜（4）（続き）
- 第 9 回 項目 構造分析の系譜（5）－社会機構・構造と「生産・労働・生活過程」分析－
- 第 10 回 項目 構造分析の系譜（5）（続き）
- 第 11 回 項目 構造分析の系譜（6）－「川崎調査」をめぐる－
- 第 12 回 項目 構造分析の系譜（6）（続き）
- 第 13 回 項目 構造分析の系譜（7）－自治体総合計画と行財政分析－
- 第 14 回 項目 構造分析の系譜（7）（続き）
- 第 15 回 項目 課題レポート

●**成績評価方法（総合）** 出席・授業への参加度（報告、小レポート） 80％ 課題レポート（必須） 20％

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：キーワード 地域社会学, 地域社会学会, ハーベスト社, 2000 年；社会諸階層と現代家族, 鎌田とし子ほか, 御茶の水書房, 1983 年；社会学方法論, 布施鉄治ほか, 御茶の水書房, 1983 年；現代都市と地域形成, 蓮見音彦ほか, 東京大学出版会, 1997 年；その他の参考文献は、授業の中で適宜指示する。授業の後半では、受講生に、紹介した論文を実際に読んでもらい、その内容について報告してもらう。

●**メッセージ** 受講生には、構造分析による研究書、研究論文を実際にいくつか読んでもらい、検討すべきテーマや課題を提示してもらいますので、そのつもりで受講して下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 現代の日本社会は大きな変革期に遭遇している。国際化、高齢化、情報化に起因した構造変動が失業や機構改革などを引き起こし、人々の不適応状態を醸成している。そのため犯罪や非行といった社会病理現象が蔓延している。この講義では、逸脱行動論を学ぶなかから調査の方法にも ついても学ぶ。

●**授業の一般目標** (1) 逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解を促す。(2) それを生かして現実起こっている現象を如何に説明するかを学ぶ。(3) こうした逸脱行動の調査の仕方を学ぶ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 講義の狙い
- 第 2 回 項目 現代の社会問題
- 第 3 回 項目 社会病理学の考え方 内容 価値判断の課題
- 第 4 回 項目 デュルケームの自殺論と病理的視点
- 第 5 回 項目 マートンのアノミー論
- 第 6 回 項目 マートン後のアノミー論
- 第 7 回 項目 シカゴ学派の逸脱論
- 第 8 回 項目 分化的接触論とサブカルチャー論
- 第 9 回 項目 サブカルチャー論と青少年非行
- 第 10 回 項目 社会的相互作用論と社会的反作用論
- 第 11 回 項目 ベッカーのラベリング論
- 第 12 回 項目 ベッカー後のラベリング論
- 第 13 回 項目 キツセの社会問題論
- 第 14 回 項目 構築主義の逸脱理論
- 第 15 回 項目 まとめ

●**メッセージ** 教科書は、使いません。参考書についてはその都度紹介します

●**連絡先・オフィスアワー** 辻研究室（人文309室）

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 高齢化社会を社会心理学的と捉えるための理論や問題点を学び、社会意識調査の仕方について学ぶ。／**検索キーワード** 高齢化、少子化、生涯現役、エイジング、ライフサイクル、ラベリング

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 講義の狙い
- 第 2 回 項目 高齢化社会とは何か 内容 日本の高齢化は諸外国のそれとどこが違うか
- 第 3 回 項目 高齢者の自我
- 第 4 回 項目 高齢者の社会化 内容 社会化の理論
- 第 5 回 項目 高齢者文化と時間 内容 人生儀礼、通過儀礼
- 第 6 回 項目 高齢者の人間関係 内容 都市部と過疎地の高齢者の付き合いの違い、孤独と孤立、老人の自殺
- 第 7 回 項目 高齢者の社会参加
- 第 8 回 項目 高齢者のグループ活動
- 第 9 回 項目 高齢者の生活意識
- 第 10 回 項目 高齢者の生きがい論 内容 生きがいを調べるには
- 第 11 回 項目 高齢者と死の問題
- 第 12 回 項目 高齢者差別と高齢者ラベリング
- 第 13 回 項目 介護意識と福祉意識
- 第 14 回 項目 生涯現役社会づくりについて
- 第 15 回 項目 今回の講義のまとめ

●**メッセージ** 参考書や資料は、その都度、紹介する予定です。

開設科目	現代社会意識調査論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	清水 新二				

●**授業の概要** 現代は嗜癖的 (addictive) な時代と言われる。その実態と背景について学び、かつこれらの問題をどう考え対処していったらいいのかを考える。またこれらの問題を家族問題の視点から捉え直し、家族サポートの問題についても学ぶ。／**検索キーワード** アディクション、アルコール関連問題、自殺、社会的対応

●**授業の一般目標** 1) 現実の具体的問題に即して社会病理学の中でも、臨床社会学と言われる昨今注目を集めている分野の最新知識を習得する。 2) 臨床的な事柄を社会的にどう取り扱い得るかを学ぶ過程で、具体的経験を一般的な知へと展開する仕方について学ぶ。 3) 実践例を提示したり問題解決志向性を強調することで、応用科学への関心を高め、そのセンスを磨く。

●**授業の計画 (全体)** 授業目標に照らして、できるだけ具体的データを示しつつ、前者のテーマでは主にアルコール・薬物問題を、後者に関しては自殺問題を取り上げる。

●**成績評価方法 (総合)** 集中講義のため、小論文的テストによって評価する。その際、できるだけ個人的、具体的な体験を一般的な経験、知識としてどれだけ整理できているかを特に注目する

●**教科書・参考書** 教科書：教科書： 特になし／参考書： 畠中宗一・清水新二・広瀬卓爾編、社会病理学講座4：臨床社会学、ミネルヴァ書房。清水新二、共依存とアディクションー心理・家族・社会一、培風館。清水新二、アルコール関連問題の社会病理学的研究ー文化、臨床、政策一、ミネルヴァ書房。清水新二、アルコール依存症と家族、培風館。清水新二、酒飲みの社会学、新潮OH文庫。シェフ、嗜癖する社会、誠信書房。C. ベプコ、フェミニズムとアディクションー共依存セラピーを見直すー、日本評論社 A.W. G. ゴーラー、死と悲しみの社会学、ヨルダン社。高橋規子・吉川悟、ナラティブ・セラピー入門、金剛出版。浅野智彦、自己への物語論的接近ー家族療法から社会学へー、頸草書房。桜井厚・好井裕明、フィールドワークの経験、せりか書房。好井裕明・山田富秋編、実践のフィールドワーク、せりか書房。

●**備考** 集中授業

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。／**検索キーワード** コミュニケーション、メディア、公共圏

●**授業の一般目標** 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 授業ガイダンス **内容** 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 **授業外指示** メーリングリストの登録
- 第2回 **項目** メディアの役割 **内容** 機械論的コミュニケーション論の限界 **授業外指示** メーリングリストによる課題提出
- 第3回 **項目** メディアとしての貨幣 **内容** 第1章1, 2, 3
- 第4回 **項目** 現代社会におけるリスク **内容** 第1章4, 5
- 第5回 **項目** パーソナル・メディア **内容** 第2章1, 2, 3
- 第6回 **項目** マス・メディアと電子メディア
- 第7回 **項目** 第1中間考察 **内容** ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第8回 **項目** 相互行為と間主観性 **内容** 第3章1, 2
- 第9回 **項目** コミュニケーションと合意 **内容** 第3章3, 4, 5
- 第10回 **項目** 真理・規範・権力・影響力 **内容** 第3章6, 7, 8
- 第11回 **項目** 第2中間考察 **内容** ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答
- 第12回 **項目** 強制的権力と生成的権力 **内容** 第4章1, 2
- 第13回 **項目** 「公共圏」の変容 **内容** 第4章3, 4
- 第14回 **項目** 社会的コミュニケーションの構造 **内容** 第5章1, 2
- 第15回 **項目** 原初的コミュニケーションによる自己組織化 **内容** 第5章3, 4, 5

開設科目	現代コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 大学院生専用の授業科目として、家族社会学の講義を行う。／**検索キーワード** 近代家族 情緒的結合 少子化

●**授業の一般目標** 1. 未婚化や晩婚化をめぐる現状と社会的分析について学ぶ 2. 日本における近代家族の形成過程について学ぶ 3. 性やジェンダーをめぐる世代間ギャップ、世代内ギャップについて考察する

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 家族愛のパラドクス
- 第 2 回 項目 家族への思いこみ
- 第 3 回 項目 近代家族の基本的性格
- 第 4 回 項目 近代家族の危うさ
- 第 5 回 項目 近代家族を支える装置
- 第 6 回 項目 近代家族の成立と形成
- 第 7 回 項目 近代社会における愛情の意味
- 第 8 回 項目 母性愛の形成
- 第 9 回 項目 恋愛結婚と近代家族
- 第 10 回 項目 家事労働の基本的性格
- 第 11 回 項目 家事労働の意味
- 第 12 回 項目 家事労働とジェンダー
- 第 13 回 項目 現代化と家族
- 第 14 回 項目 現代家族の変貌
- 第 15 回 項目 現代家族の危機

●**教科書・参考書** 教科書：近代家族のゆくえ, 山田昌弘, 新曜社, 1994 年

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

- 授業の概要** この授業では、祭を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、各地に伝えられている祭の様子を紹介し、その内容を検討して祭のもつ多様性や現代的意義を考えます。／**検索キーワード** 民俗 祭 伝承
- 授業の一般目標** 1. さまざまに祭が存在し現在も伝承されている実態を把握する。 2. 祭の意味や内容を分析し、祭の多様性を生み出す要因を考える。 3. 祭を伝えている当該社会の文化や歴史を探り、祭の現代的意義を考察する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. さまざまな祭を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 祭の意義を考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 毎回、授業後のコメントを提出する。 **態度の観点**： 1. 毎回、授業後のコメントを提出する。
- 授業の計画（全体）** 各地の祭を、町の祭、農村の祭、山の祭、海の祭、変わった祭に区分して取り上げ、それらの実態を祭を伝えている地域社会に即して理解したうえで、現代における祭の意義を再検討する。
- 教科書・参考書** 教科書： 用いない。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

開設科目	社会生活伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

- 授業の概要** この授業では、通過儀礼を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ各地に伝えられている 通過儀礼の実態を把握し、その意味を確認することにより、通過儀礼がもつ現代的意義を考えます。／**検索キーワード** 民俗 通過儀礼 伝承
- 授業の一般目標** 1. さまざまに通過儀礼が存在し現在も行われていることを知る 2. 通過儀礼の意味や内容をその儀礼が行われている時と場に即して理解する。 3. 通過儀礼が担ってきた役割と意味を確認して、その現代的意義を考える。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. さまざまな通過儀礼を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 通過儀礼の意義を考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 毎回、授業後のコメントを提出する。 **態度の観点**： 1. 毎回、授業後のコメントを提出する。
- 授業の計画（全体）** 通過儀礼の具体像を、子供、青年・成人、老いの3つの時点に即して取り上げ紹介しながら、それぞれの儀礼の意味や役割を確認し、現代社会における通過儀礼の役割を再考する。
- 教科書・参考書** 教科書： 用いない。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2階 210号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／**検索キーワード** 文化人類学、物質文化研究、民俗学、民具研究、暮らし、もの
- 授業の一般目標** 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 基本的理論、用語の説明ができる。 **思考・判断の観点**： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 **関心・意欲の観点**： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 **態度の観点**： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。
技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体）** スキルについて講義を行います。人類の発生における手の持つ意味、技能から技術への展開の意味を事例を示しながら考えていきます。最後に改めて現代におけるスキルの意味を考えます。
- 教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／ 参考書： その都度紹介します。
- メッセージ** できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。
- 連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／**検索キーワード** 文化人類学、物質文化、民俗学、民具、暮らし、もの
- 授業の一般目標** 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 基本的理論、用語の説明ができる。 **思考・判断の観点**： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 **関心・意欲の観点**： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 **態度の観点**： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。
技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体）** 間の手による産物として工芸があります。庶民の工芸に対する見方を民具論の立場と民芸論の立場から話していきます。最後に現代における民具・民芸の意味を考察していきます。
- 教科書・参考書** 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／ 参考書： その都度紹介します。
- メッセージ** できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。
- 連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	造形伝承論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	面矢慎介				

●**授業の概要** 近代以降の工業化によって、生活環境を構成するもの（生活用品・生活機器）は大きく変容してきた。本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。
／**検索キーワード** 生活文化、デザイン、道具

●**授業の一般目標** 生活道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解する。

●**授業の計画（全体）** 近代以降における欧米の道具について、そのデザインの変容の流れを概説した後、授業期間の後半では、いくつかの具体的製品の事例について個別的に論じる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 講義の概要・テーマの説明
- 第 2 回 項目 デザイナーなしのデザインの時代 内容 19 世紀欧米
- 第 3 回 項目 初期機能主義のデザイン 内容 1920-30 年代欧
- 第 4 回 項目 インダストリアルデザイナーの誕生 内容 1930 年代アメリカ
- 第 5 回 項目 企業とデザイン 内容 1940-50 年代アメリカ
- 第 6 回 項目 家事の機械化 内容 1900-1940 年代アメリカ
- 第 7 回 項目 台所の近代化 内容 19-20 世紀英米 独日
- 第 8 回 項目 事例研究 1 内容 イギリスの電気やかんと日本の魔法瓶
- 第 9 回 項目 事例研究 2 内容 真空掃除機 日・英
- 第 10 回 項目 事例研究 3 内容 イギリスと日本の風呂
- 第 11 回 項目 事例研究 4 内容 イギリスと日本の鍋
- 第 12 回 項目 ラジオのデザイン 内容 1920-40 年代 米・英・日
- 第 13 回 項目 プラスチックとデザイン 内容 19-20 世紀
- 第 14 回 項目 戦後日本のインダストリアルデザイン
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 レポート執筆・提出

●**成績評価方法（総合）** 第 1 回の授業でレポートのテーマを出題、各自で資料探しに入る。最終回の授業中にレポートを仕上げ提出する。出席を重視する。

●**教科書・参考書** 教科書：適宜、資料を配付する。／参考書：A. フォーティ「欲望のオブジェ」鹿島出版会 1992 ほか

●**備考** 集中授業

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	額額厚				

●**授業の概要** 現代政治社会に表する様々な政治変動を解析していくため現代政治学の研究成果の適用が求められている。そこで、本講義では現代政治学が取り組んでいる課題を紹介し、細部にわたる講義を展開する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 現代政治学の対象
- 第 2 回 項目 現代政治学の諸潮流
- 第 3 回 項目 世界システム論の適用
- 第 4 回 項目 現代民主主義の可能性と限界
- 第 5 回 項目 全体主義・保守主義・新自由主義のあいだ
- 第 6 回 項目 国家機能の拡大と政治決定過程
- 第 7 回 項目 現代政治を動かす要因
- 第 8 回 項目 現代国家論の展開
- 第 9 回 項目 近代政党と議会の役割
- 第 10 回 項目 圧力団体の社会的位置
- 第 11 回 項目 デモクラシー・ファシズム・ミリタリズムの接合
- 第 12 回 項目 支配システムの実際
- 第 13 回 項目 戦前期国家権力の特質
- 第 14 回 項目 戦後期国家権力の特質
- 第 15 回 項目 前期講義の纏め

●**メッセージ** 現代政治社会を構造的に切開する視点を

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	額 厚				

●**授業の概要** 現代社会に表出する諸現象を構造的に理解するために現代政治社会学の学問領域への関心が不可欠である。そこで、本講義では基本的な政治社会学から応用的な政治社会学に至までの研究成果を中心に展開していく。

●**授業の一般目標** 現代社会を読み解くための方法論を獲得していくことを第一の目標とする。講義では政治社会学という学問分野の紹介を行う一方で、毎回の講義ではテーマを設定し、同時にリアルタイムで生起する政治社会上の諸現象の解説をも行っていく。

●**授業の計画（全体）** 毎回原則としてレジュメを用意配布する。事前にレジュメを精読し、関連する文献・資料を紹介しておくので学習しておいて欲しい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 現代政治社会学の基本的命題 内容 古典政治学から近代政治学まで
- 第 2 回 項目 現代政治社会学の諸潮流 内容 権力と権威をめぐる諸問題
- 第 3 回 項目 世界システム・近代国民国家・ナショナリズム 内容 現代政治の課題
- 第 4 回 項目 現代の多様な民主主義 内容 多元的民主主義をどう読み解くか
- 第 5 回 項目 全体主義と権威主義体制 内容 民主的独裁制と全体主義体制を越えて
- 第 6 回 項目 国家機能の拡大と政策決定過程 内容 国家観念の変容と展望に触れて
- 第 7 回 項目 現代政治を動かす諸要因 内容 政党と社会集団
- 第 8 回 項目 福祉国家観の形成 内容 夜警国家から福祉国家へ
- 第 9 回 項目 近代政党政治の機能と実際 内容 ブルジョア政党と社会主義政党との間
- 第 10 回 項目 圧力団体の機能と実際 内容 社会集団の位置
- 第 11 回 項目 デモクラシー・ファシズム・ミリタリズム 内容 現代の政治諸潮流を繋ぐもの
- 第 12 回 項目 エリート支配と大衆 内容 権力集中と政治的無関心
- 第 13 回 項目 現代日本国家権力の所在と特質
- 第 14 回 項目 講義の纏めと質疑（1）
- 第 15 回 項目 講義の纏めと質疑（2）

●**成績評価方法（総合）** 論述試験を課す。

●**教科書・参考書** 参考書：政治思想とデモクラシーの検証，岡野加穂留他編，東信堂，2002年

●**メッセージ** 現代政治の諸現象を構造的に捉える視座の確立を

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30

開設科目	現代政治社会変動論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	額 額 厚				

●**授業の概要** 本講義では、現代政治社会に表出する諸現象を解読するために不可欠な現代政治学の方法を基底に据えて、現代社会の変動要因を細部に亘って探求する。そこでは最新の当領域における研究成果をも紹介していく。

●**授業の一般目標** 現代社会の諸事象を客観的に考察できる視点を獲得する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 国家と人間
- 第 2 回 項目 政治社会と人間
- 第 3 回 項目 企業社会と人間
- 第 4 回 項目 現代民主主義と人間
- 第 5 回 項目 全体主義・国家主義と人間
- 第 6 回 項目 愛国主義・愛郷主義と人間
- 第 7 回 項目 現代政治の動要因としての人間
- 第 8 回 項目 自由・平等・安全思想と人間
- 第 9 回 項目 高度経済成長と人間
- 第 10 回 項目 競争と差別意識と人間
- 第 11 回 項目 学歴・階層社会と人間
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（1）
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化（2）
- 第 14 回 項目 後期の纏め（1）
- 第 15 回 項目 後期の纏め（2）

●**メッセージ** 理論構築なき現状分析はあり得ない

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** 世界最大の民主主義を自負し、ヒンドゥー教徒が8割を占めるにもかかわらず、政教分離の世俗主義を国是としているインドの現在を、政治、経済、軍事、外交の各方面より考察する。

●**授業の一般目標** 日本社会に根強い「貧困」に代表されるネガティブなインドのイメージと、「悠久の歴史」といったポジティブなインド理解のいずれをも否定しつつ、コンピュータ産業が急成長している現在進行形のインドを等身大に捉えることを目標とする。

●**成績評価方法 (総合)** テキストに添って、その背景なども説明しながら進める

●**教科書・参考書** 教科書: アメリカはなぜインドに注目するのか, スティーヴン・コーエン, 明石書店, 2003年

開設科目	現代国際社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** 日本、日本人という概念がどのような内容のものであり、それが近代日本においてどのように表象されていたか、という問題を、主に日本語という言語の面から考察する。

●**授業の一般目標** 日本語の近代のあり様を歴史的に理解する。

●**授業の計画（全体）** 「満州国」における言語政策の展開と、「東亜共通語」としての日本語について考察する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 異言語との対峙のなかの「国語」
- 第 2 回 項目 満州国における日本語の位置付け
- 第 3 回 項目 日本語の制度化
- 第 4 回 項目 「満州語」の創出
- 第 5 回 項目 「協和語」および満州国における日本語の諸相
- 第 6 回 項目 異言語との共存のあり方
- 第 7 回 項目 「大東亜共栄圏」構想と民族秩序
- 第 8 回 項目 「指導国」言語としての日本語
- 第 9 回 項目 「東亜共通語」の制度化への試み
- 第 10 回 項目 「東亜共通語」への試み：言語簡易化
- 第 11 回 項目 今日的課題
- 第 12 回 項目 「国際化」のなかの日本語
- 第 13 回 項目 「東亜共通語」の思想とその後
- 第 14 回 項目 補足・質問
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 出席および態度。

●**教科書・参考書** 教科書： 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年 ; 帝国日本の言語編制, 安田敏朗, 世織書房, 1997 年

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** ネパール近現代史において重要な役割を演じ、パンチャーヤト時代には首相もつとめたことのあるひとりの政治家の生涯を、その家庭生活なども含めて記された記録を読んでいくことで、20世紀後半のネパールの政治変化とその背景を考える。

●**教科書・参考書** 教科書：Living Martyrs:Individuals and Revolution in Nepal, James F. Fisher, OxfordUniv.Press, 1997年／参考書：ネパールの歴史, 西澤憲一郎, ケイソウ書房, 1985年；ネパールの社会構造と政治経済, 西澤憲一郎, ケイソウ書房, 1987年

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田尚俊				

- 授業の概要** 受講生が自らの研究テーマを深め、修士論文を作成できるよう、指導を行う。したがって、受講生自身による研究成果の報告と参加者全員による討論によって授業は進められていく。但し、受講生の人数と状況によっては、地域社会学または現代社会論のテキストを選び、各自の報告と並行する形で輪読し、討論を行うことも考えている。その場合、どのような文献をテキストに選ぶかは、受講生と相談して決定する。／**検索キーワード** 社会学理論、社会調査、社会構造、社会変動、修士論文
- 授業の一般目標** (1) 修士論文の研究課題を具体化し、必要な文献、資料、データ等を渉猟して、自らの研究を深められるようにする。(2) 各自の研究課題に基づいて、修士論文の作成に着手できるようにする。
- 授業の計画(全体)** 受講生自身が、自らの問題関心と研究テーマにしたがって、研究報告を行う。それらの報告にしたがって、受講生全員による質疑、討論等を行う。報告の順番や授業外学習の指示等に関しては、受講生と相談の上、第1回目の授業において決定する。
- 成績評価方法(総合)** 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート 20%
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜指示する。
- メッセージ** 初回の授業で、授業の進め方について説明するので、必ず初回の授業に出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 大学院生を対象とする演習において、青年文化の形成と変容をめぐるアプローチについて検討する。／**検索キーワード** 対抗文化 サブカルチャー 島宇宙

●**授業の一般目標** 1. 日本の青年文化の形成と変容を概観する。 2. 青年現象の背後にある社会過程やメカニズムについて考察する。 3. 計量的分析の意義と限界について学ぶ。

●**授業の計画（全体）** 受講生の報告を中心に、授業を進める

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 文献検索、レジュメ作成等

第 2 回 **項目** 青年文化についての報告

第 3 回 **項目** 青年文化についての報告

第 4 回 **項目** 青年文化についての報告

第 5 回 **項目** 青年文化についての報告

第 6 回 **項目** 青年文化についての報告

第 7 回 **項目** 青年文化についての報告

第 8 回 **項目** 青年文化についての報告

第 9 回 **項目** 青年文化についての報告

第 10 回 **項目** 青年文化についての報告

第 11 回 **項目** 青年文化についての報告

第 12 回 **項目** 青年文化についての報告

第 13 回 **項目** 青年文化についての報告

第 14 回 **項目** 青年文化についての報告

第 15 回 **項目** 青年文化についての報告

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する。／**検索キーワード** 物質文化
- 授業の一般目標** 主要な論文の講読を中心にして、理論と研究方法についての理解を深める。
- 授業の計画（全体）** 雑誌民具研究及び雑誌民具マンスリーの論文を読み進めていく。
- 成績評価方法（総合）** 自主的な研究態度と期末のレポートによって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：論文の複写をテキストとして進める。／参考書：適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguhi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー木曜日 10：00～12：00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坪郷英彦				

- 授業の概要** 物質文化研究の基礎理論と研究の現状を理解する／**検索キーワード** 物質文化研究
- 授業の一般目標** 基礎理論と研究方法の基本が理解できる。基本的英文文献からの情報の取得
- 授業の計画（全体）** 文化人類学の物質文化に関する英文テキストを講読していく。対象は各自の研究に関連するものを取り上げる。
- 成績評価方法（総合）** 各自の自主的研究態度と期末のレポートによって評価する
- 教科書・参考書** 教科書：テキストは各自の研究に沿って選択する。／参考書：適宜紹介する
- 連絡先・オフィスアワー** Email hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	湯川洋司				

- 授業の概要** 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。修士論文作成に向け、研究テーマに即した指導を行う。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	湯川洋司				

- 授業の概要** 民俗学に基づく個別テーマに関する演習を行なう。修士論文作成に向け、研究テーマに即した指導を行う。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	額瀨厚				

●**授業の概要** 修士一年は二年後の修士論文提出までの研究計画を作成し、提出する義務を負う。テーマ設定については指導教官のアドバイスを受けて、自らの問題設定への取り組みに全力をあげる。修士二年は、年度末に提出を義務づけられている修士論文の執筆に向け、執筆計画の発表を行う。

●**授業の一般目標** 先行研究や資料を十分に精査し、論理的かつ説得的な論文の執筆を目指す。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 修士論文執筆計画の発表

第 2 回 **項目** 以下、論文要旨の報告を行う。適時、指導教官より講義を行う。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●**連絡先・オフィスアワー** koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	額瀨厚				

●**授業の概要** 前期に引き続き修士論文の執筆を目標にして報告と講義を同時的に進める。

●**授業の一般目標** 参考資料・文献・論文の収集と読み解きの手法を獲得する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 後期における修論執筆計画報告

第 2 回 項目 以下、順次報告と講義を進める。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●**連絡先・オフィスアワー** koketsy@yamaguchi-u.ac.jp Office Our Yhu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小谷典子				

- 授業の概要** 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。
- 授業の一般目標** 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 先行研究に関する知識を蓄積する **思考・判断の観点**： 研究テーマを明確化する **関心・意欲の観点**： 意欲の向上を図る **態度の観点**： 積極的に取り組む
- 授業の計画（全体）** 報告レポートに関して、議論し、理解を深める
- 成績評価方法（総合）** 出席とレポートの作成、議論への参加度によって装具的に評価する
- 教科書・参考書** 教科書： 研究テーマに応じて決める／ 参考書： 研究テーマに応じて紹介する
- 連絡先・オフィスアワー** Eアドレス： otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小谷典子				

- 授業の概要** 先行研究に関する文献研究の成果を報告する。修士論文のテーマを明確化する。
- 授業の一般目標** 研究テーマを絞り込み、先行研究に関する文献研究の成果を報告し、自らの論文の作成計画をたて、計画に基づいて修士論文が作成できるよう指導する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 先行研究に関する知識を蓄積する **思考・判断の観点**： 研究テーマを明確化する **関心・意欲の観点**： 意欲の向上を図る **態度の観点**： 積極的に取り組む
- 授業の計画（全体）** 報告レポートに関して、議論し、理解を深める
- 教科書・参考書** 教科書： 研究テーマに応じて決める／ 参考書： 研究テーマに応じて紹介する

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 毎回1人ずつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。

●**授業の一般目標** (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	現代社会分析論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	辻正二				

●**授業の概要** 毎回1人ずつレポートを発表する形態の授業である。自分の大学院における研究テーマを発展するように指導する授業である。

●**授業の一般目標** (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。(3) 修士論文作成に向けての研究指導をする。

開設科目	社会調査法演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	横田尚俊				

●**授業の概要** 社会調査を企画・実施し、データを分析する能力を養うために、調査方法に関する知識と技法を演習（または実習）形式で実践的に学習する。原則として、共通の調査テーマを設定して調査を実施する予定だが、受講生の人数によっては、受講生自身の修士論文作成とかかわらせて、調査を企画・設計し実施していく。／**検索キーワード** 社会調査方法論、統計調査、事例調査、調査票、サンプリング、調査対象、コーディング、データクリーニング、単純集計、クロス集計、図表

●**授業の一般目標** 社会調査を企画・実施し、データを収集・分析するための能力を養う。受講生自身が、調査の一連のプロセスを自立して実施できるだけの知識・能力を身につけることを目標とする。

●**授業の計画（全体）** 社会調査の専門的知識を習得しながら、調査の一連の過程を実践する。最終的には、調査データを分析してレポートをとりまとめてもらうか、あるいは、データを利用して修士論文を作成してもらう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 社会調査の方法（基礎知識の確認）
- 第 3 回 項目 調査テーマの設定と調査方法の決定
- 第 4 回 項目 調査の企画（調査全体の手順とスケジュールの決定）
- 第 5 回 項目 仮説構成と調査票の検討（調査項目の洗い出し）
- 第 6 回 項目 調査票の検討
- 第 7 回 項目 調査対象（対象者、フィールド）の決定／サンプリングまたはラポール
- 第 8 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 9 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 10 回 項目 調査の実施（実査）
- 第 11 回 項目 調査データの処理（コーディング、データ入力）
- 第 12 回 項目 調査データの処理（データ入力）
- 第 13 回 項目 調査データの集計・分析（データクリーニングと単純集計）
- 第 14 回 項目 調査データの集計・分析（クロス集計、グラフ作成）
- 第 15 回 項目 データの分析と調査レポートの作成

●**成績評価方法（総合）** 授業への参加度（調査プロセス・作業への参加） 60% 調査レポート 40%

●**教科書・参考書** 教科書：ガイドブック 社会調査, 森岡清志, 日本評論社, 1998 年／参考書：社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997 年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会調査法演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	高橋征仁				

●**授業の概要** 大学院生を対象として、多変量解析の基本的な考え方について講義を行うとともに、実際の調査データを用いながら、分析及びプレゼンの練習を行う。／**検索キーワード** 多変量解析 重回帰分析 パス解析

●**授業の一般目標** 1. 多変量解析の基本的な考え方について学ぶ 2. コンピュータソフトを用いて、実際に多変量解析を行う能力を身につける 3. 各自の研究テーマに関して、多変量解析を活用する方法を検討する

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 ガイダンス

第 2 回 項目 下準備と復習 内容 パソコン、統計ソフト、WEB 情報等々についての解説、基礎概念についての復習

第 3 回 項目 ウォーミングアップ 内容 第 1 章

第 4 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章

第 5 回 項目 数量化理論 III 類 内容 第 2 章

第 6 回 項目 主成分分析 内容 第 3 章

第 7 回 項目 因子分析 1 内容 第 4 章

第 8 回 項目 因子分析 2 内容 第 4 章

第 9 回 項目 クラスタ分析 内容 第 5 章

第 10 回 項目 復習と中間まとめ

第 11 回 項目 重回帰分析 内容 第 6 章

第 12 回 項目 パス解析

第 13 回 項目 判別分析 内容 第 7 章

第 14 回 項目 多変量解析における問題 内容 第 9 章

第 15 回 項目 復習とまとめ

●**教科書・参考書** 教科書：入門 多変量解析の実際，朝野ひろ彦，講談社，2000 年

開設科目	社会調査法演習 III	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本真弓				

●**授業の概要** この授業は、日本以外の国に生きる人々の歴史を、オーラル・リサーチの手法を使って研究する手法とその成果の表現方法について扱う。まず、日本国内の場合には問題にならない出入国等の行政的手続きや政治情勢が、調査の動向やテーマ選択、ひいては調査の視点そのものをも左右しかねないほど大きな問題であることを押さえる。また、調査者の言語能力、生活能力（衣食住の条件など）が大きな意味をもつことも確認する。そのうえで、具体的な調査の過程とそこで得られた成果の分析、評価、解釈、そして報告に際しての道義的責任などについて考察する。

●**授業の一般目標** 現代史を、その真っ只中を生きてきた人々の〈語り〉、個人的な記憶（忘却と捏造）と経験を人々の口から導き出すことで、公文書や、教科書的な公けの歴史とは異なる動的なものとして捉えることを目的とする。

●**授業の計画（全体）** 技術面や方法論を扱う部分が半分くらいを占めるが、その場合にも、抽象的な説明ではなく、ネパール、インドでの調査を事例にとりあげつつ、実際に作成された資料等を読み込む作業も行なう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (1)
- 第 2 回 項目 現代史とオーラルリサーチ：その位置づけ (2)
- 第 3 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (1)
- 第 4 回 項目 技術的側面の調査・技能習得（治安等政治状況、調査許可およびビザ取得、入国後手続き、禁止事項、使用言語の選択と習得など）とテーマとの関係 (2)
- 第 5 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (1)
- 第 6 回 項目 テーマおよび調査地選定の方法と課題 (2)
- 第 7 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (1)
- 第 8 回 項目 インフォーマント探しとネットワーク形成 (2)
- 第 9 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (1)
- 第 10 回 項目 関連資料・史料の収集と特定 (2)
- 第 11 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど） (1)
- 第 12 回 項目 成果の活用（信頼度、基礎文献資料の併用、インフォーマントの位置付けなど） (2)
- 第 13 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか） (1)
- 第 14 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか） (2)
- 第 15 回 項目 成果の記録と活用法、分析、評価、解釈（何をどのように書くか、書かないか） (3)

●**成績評価方法（総合）** 出席、授業への参加度、期末試験の3つを総合的に評価する。

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	上原 真人				

- 授業の概要** 日本古代造瓦史論；律令体制盛期における造瓦体制を官窯体制ととらえ、その成立前史から崩壊に至るまでを、出土瓦をおもな材料に明らかにする。合わせて、瓦の生産遺跡（窯跡）と消費遺跡（寺院・官衙）に関するふれる。／**検索キーワード** 律令制 官窯 瓦 寺院 窯跡
- 授業の一般目標** 日本の古代瓦の変遷について大まかな知識を取得し、出土瓦の検討から何がわかるか、その分析方法や資料的限界などを理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：古代日本の瓦の変遷、寺院に関する基礎知識 **思考・判断の観点**：考古資料としての瓦の分析方法 **関心・意欲の観点**：歴史考古学について関心を深める **技能・表現の観点**：考古資料の数量的処理について
- 授業の計画（全体）** 全体を3部構成とし、第1部を律令制成立前の造瓦体制、第2部を律令制盛期の造瓦体制（官窯体制）、第3部を律令制崩壊期の造瓦体制に当てる
- 成績評価方法（総合）** 最後に試験を実施する。
- 教科書・参考書** 教科書：指定せず。／参考書：授業中に紹介する。
- 備考** 集中授業

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／**検索キーワード** 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●**授業の一般目標** 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。
思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

●**授業の計画（全体）** 【弥生時代の石器・鉄器】 弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

●**教科書・参考書** 参考書：倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；石器入門事典—先土器—・—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；石器研究入門、大沼克彦・西秋良宏、鈴木美保 訳、クバプロ、1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・禰宜田佳男 監修、小学館、2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●**メッセージ** 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれませんが。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー : 水曜日 5・6 時限

開設科目	原始文化論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の一側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／**検索キーワード** 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●**授業の一般目標** 1. 事例研究の一つとして、石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。2. 遺物および遺構のデータを操作して、社会構造の復元に応用してゆく過程を習得する。3. 学術論文を批判的に読解することで抽出できる問題点から出発し、自らの理論を構築する力を養う。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：A. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。
思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。

●**授業の計画（全体）** 【弥生時代の石器・鉄器】 弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

●**教科書・参考書** 参考書：倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；石器入門事典—先土器—・—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；石器研究入門、大沼克彦・西秋良宏、鈴木美保 訳、クバプロ、1998年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・禰宜田佳男 監修、小学館、2002年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●**メッセージ** 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp、オフィスアワー：水曜日 5・6 時限

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

- 授業の概要** 縄紋・弥生過渡期の土器研究；縄紋土器の終末と初期弥生土器が、どのような関係にあるのか、比較研究をする。ここでいう比較とは、年代的な分野のみならず、文化的な比較を遺物である土器をつうじて、対照することである。授業は、毎回配布するプリントに収録する土器を検討しながら、全体として日本列島を東から西に進行する予定である。／**検索キーワード** 遠賀川式土器 条痕紋土器
- 授業の一般目標** 1. 縄文時代・弥生時代の基本的な概念を検討する。 2. 型式学の実践的な方法を修得する。
- 授業の計画（全体）** 三河地方の縄紋晩期の土器を遺跡ごとに取り上げて、既知の報告とつきあわせながら検討する。後半には西に移動し、尾張地方まで取り上げる予定である。
- 成績評価方法（総合）** 授業は特殊な講義であるから、成績の評価は受講生独自の研究を期末にレポートとして提出していただき、その成果・到達度を判定する。従って、あまりにも難解なテーマ、逆にあまりにも容易、簡単なテーマを選ばずに、あらかじめ十分に勉強し、正しく理解の及ぶ範囲の内容を徹底的に調べたかどうか、評価のポイントとなる。
- 教科書・参考書** 教科書：とくに指定せず。／参考書：授業中に言及する。
- 連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 縄紋・弥生過渡期の土器研究；縄紋土器の終末と初期弥生土器が、どのような関係にあるのか、比較研究をする。ここでいう比較とは、年代的な分野のみならず、文化的な比較を遺物である土器をつうじて、対照することである。授業は、毎回配布するプリントに収録する土器を検討しながら、日本列島を東から西に進行する予定である。

●**授業の一般目標** 1. 考古学の研究がどのように進行するのか、実践的に修得する。

●**授業の計画（全体）** 前期の授業の継続であり、尾張地方から近畿地方にかかる範囲を予定している。この地域は後に古墳文化の中心になる地域であって、とくに弥生時代にその徴証がどのように認められるか、注意しながら講義を進行させる。代表的な資料については、取材を終了しているので、順次講義のなかで紹介してゆくつもりである。

●**成績評価方法（総合）** 成績の評価は主に期末のレポートによって判定する。この授業の主題は特殊なものであるから、受講生も考古学にかんする範囲で、自由に特殊な主題を扱い、その研究成果を提出しなくてはならない。

●**教科書・参考書** 参考書：突帯文と遠賀川, 土器持寄会論文集刊行会, 2000 年

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室: 人文学部 3 階 オフィスアワー 金曜日 16:10 ~ 17.40

開設科目	原始文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

●**授業の概要** 考古学では、様々な遺物・遺構を研究の対象としている。とりわけ、遺物の個別研究は考古学の基本であり、遺物をよく観察することでその本質を見極め、これを論理的に意味づけることは、研究の出発点となる。講義では、主に弥生・古墳時代以前の石器・金属器・ガラス等の考古遺物の個別研究方法を、研究史の変遷をふまえて点検してゆく。研究の現状を確認し、問題点を整理し、今後の研究方向を展望することを講義内容上の目標とするが、受講生が自らの考古学研究方法を見直し今後の個人研究に役立てることを目的としている。

●**授業の一般目標** 1. 考古遺物の研究方法を身につける。 2. 学術論文を批判的に読解する力を養う。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： A. 提示された考古遺物に対して、有効な研究方法を適用することができる。 **思考・判断の観点**： A. 学術論文を批判的に読解し批評することができる。 B. 考古学の方法論を自分の選んだ考古学的題材に効果的に適用し、自らの考えを論理的に説明できる。 C. 資料操作の過程を、目的に即して論理的にコントロールできる。

●**授業の計画（全体）** 【考古遺物研究方法】 主に石器・金属器・ガラス等の考古遺物を取り上げる。それぞれの遺物に対して行われてきた資料操作の方法について、研究をとりまく背景を考えながら検討してゆく。とり上げる考古資料の性質から、製作技法の解明や生産と流通といった問題など、技術発達史・技術交流史あるいは経済史に関する内容が多くなる。統計学的な研究方法や化学的な研究方法に言及する場合には、数学や化学の知識が必要になることもある。研究方法の整理を通して個別遺物に対する理解を深めるとともに、現時点での研究の到達点を確認し、研究の不備や問題点を洗い出し、今後の研究が進むべき方向性を模索する。＜留意点＞基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることも頻繁にあると思うので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得するか、同等の知識を習得しておくこと。

●**成績評価方法（総合）** 授業外レポート100%。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。／ 参考書：講義の中で文献を紹介する。

●**メッセージ** 個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日 5・6時限

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。資料検索の方法、およびその取り扱いが考古学の正規の手順に則るように指導するが、主な分野は図書で独学不可能な分野に力点を置く。

●**授業の一般目標** 1. 専門的な論文が読めるようになる。 2. 専門的な論文が書けるようになる。

●**授業の計画（全体）** 受講生に年間研究計画を立てさせ、それに従って進行するように務める。

●**成績評価方法（総合）** 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。

●**教科書・参考書** 教科書：指定せず。／参考書：授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村友博				

●**授業の概要** 比較考古学演習：考古資料の取り扱いを実践する。主題については、学生の希望にしたがう。その取り扱いが考古学の正規の手順に則るようこころがける。

●**授業の一般目標** 1. 専門的な論文が読めるようになる。 2. 専門的な論文が書けるようになる。

●**授業の計画（全体）** 研究計画を事前にたずね、それに従って進行する。特に苦手とおもう分野があれば、指導が対応できれば、改善するから申し出が可能である。

●**成績評価方法（総合）** 演習の平常時をもって、採点する。専門的な水準に到達していなければ、いくら出席率がよくても高く評価しない。逆に、今まで研究者がだれも気が付かなかったことを、周到に調べ上げ、体系づけ、新たに独創的な研究分野を切り開けば、高く評価する。普通、従来の研究の成果を理解し、問題解決のための資料を検索、検討し、一歩でも研究が前進できればよしとする。

●**教科書・参考書** 教科書：指定せず。／参考書：授業中に紹介する。

●**連絡先・オフィスアワー** tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17:40

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	村田裕一				

- 授業の概要** 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。
- 授業の一般目標** 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。 2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。 3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。
- 授業の到達目標**／ **技能・表現の観点**： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。
- 授業の計画（全体）** 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。
- メッセージ** 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー : 水曜日 5・6 時限

開設科目	原始文化論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	村田裕一				

- 授業の概要** 受講生の研究能力を高める訓練を目的とする演習である。受講生自らが設定したテーマにそって研究を進め成果を発表する。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行う。
- 授業の一般目標** 1. 応用的な考古資料の操作方法を習得する。 2. 事例研究を行い、発表、討議することで、プレゼンテーションの技術を高めるとともに、いわゆるディベートの能力を訓練する。 3. 自らが設定した研究テーマを掘り下げ、修士論文につながる研究成果を導き出す。
- 授業の到達目標**／ **技能・表現の観点**： A. 考古資料に対して、より効果的な資料操作を行うことができる。 B. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを駆使して説明できる。 C. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。 D. 発表に際しての討議で、的確な受け答えができる。
- 授業の計画（全体）** 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマにそって研究発表を行う。発表者は、レジメの図版の組み方、図表類の効果的な使用を心がける。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。
- メッセージ** 研究を進展させ、学外の調査研究機関に資料調査に行く機会、あるいは学術研究会等で情報収集を行う機会を多く作ってください。研究は一朝一夕に進展するものではないので、各自の日頃の取り組みが重要です。地道に努力し、多彩な研究分野に興味関心を持って研究を進めてください。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。可能であれば、発表者は、パソコンによるプレゼンテーションを取り入れた発表を1回以上行ってください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail : h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー : 水曜日 5・6 時限

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津 聖				
<p>●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されてきました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索</p> <p>●授業の一般目標 ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。</p> <p>●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： イメージの解釈の実践 技能・表現の観点： レポート作成</p> <p>●授業の計画（全体） イメージの解釈学とは何かを考察する</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の資料の活用。特に、Web Gallery of Art の利用法。</p> <p>第 2 回 項目 イメージとは何か 内容 イメージという言葉は多義的である。では、この講義で扱うイメージとは何か。言語の解釈学とイメージの解釈学について解説。</p> <p>第 3 回 項目 絵を読むことールネッサンス以前の芸術 内容 読むために描かれたルネッサンス以前の芸術の構造を検証。ジョットの物語 絵の構成の独自性。</p> <p>第 4 回 項目 絵を読むことから絵を視ることへの移行 1 内容 前期ルネッサンス芸術の新たな試み。マサッチオ、ボッチチェッリの画面構成。</p> <p>第 5 回 項目 絵を読むことから絵を視ることへの移行 2 内容 ミケランジェロのシスティナ礼拝堂天井画の構造。旧約聖書と新約聖書の神秘的統一の視覚化。</p> <p>第 6 回 項目 視るための絵画 内容 レオナルド・ダ・ヴィンチの思考実験。空間の統一へ。</p> <p>第 7 回 項目 室内空間全体のヴァーチャル化 内容 バロック芸術におけるダ・ヴィンチの理想の実現。バロックの幻想天井画について。</p> <p>第 8 回 項目 パトリック・ゲデスの視覚的思索 1 内容 パトリック・ゲデスの視覚的思索と生の図式の新たな解釈。</p> <p>第 9 回 項目 パトリック・ゲデスの視覚的思索 2 内容 第八回の続き</p> <p>第 10 回 項目 ゲディスと明治の美学・美術史 内容 島村抱月の感性的美学に見られる英国美学の受容。20 世紀初頭の芸術論の比較美学的考察。</p> <p>第 11 回 項目 アジアの美学・美術史 内容 20 世紀初頭のアヴァン・ギャルド芸術の中国における遅い受容。1989 年、中国前衛芸術展。</p> <p>第 12 回 項目 言語の構造としての現代芸術 内容 書の脱構築、という漢字文化圏における新しい実験。徐冰、谷文達、王南溟の場合</p> <p>第 13 回 項目 実践的現代芸術論 内容 山口における先端的な芸術活動の紹介。山口現代芸術研究所 (YICA) の歴史と現在。</p> <p>第 14 回 項目 新しい「イメージの解釈学」 内容 総合的な学としての新しい「イメージの解釈学」の成立に向けて。</p> <p>第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。</p> <p>●成績評価方法（総合） レポートを随時提出</p> <p>●教科書・参考書 参考書：参考文献は、講義中に提示する。</p> <p>●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html</p>					

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津 聖				
<p>●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されてきました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。前期の継続／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索</p> <p>●授業の一般目標 ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。</p> <p>●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： イメージの解釈の実践 技能・表現の観点： レポート作成</p> <p>●授業の計画（全体） イメージの解釈学とは何かを考察する</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の資料の活用。特に、Web Gallery of Art の利用法。</p> <p>第 2 回 項目 イメージとは何か 内容 イメージという言葉は多義的である。では、この講義で扱うイメージとは何か。言語の解釈学とイメージの解釈学について解説。</p> <p>第 3 回 項目 絵を読むことールネッサンス以前の芸術 内容 読むために描かれたルネッサンス以前の芸術の構造を検証。ジョットの物語 絵の構成の独自性。</p> <p>第 4 回 項目 絵を読むことから絵を視ることへの移行 1 内容 前期ルネッサンス芸術の新たな試み。マサッチオ、ボッチチェッリの画面構成。</p> <p>第 5 回 項目 絵を読むことから絵を視ることへの移行 2 内容 ミケランジェロのシスティナ礼拝堂天井画の構造。旧約聖書と新約聖書の神秘的統一の視覚化。</p> <p>第 6 回 項目 視るための絵画 内容 レオナルド・ダ・ヴィンチの思考実験。空間の統一へ。</p> <p>第 7 回 項目 室内空間全体のヴァーチャル化 内容 バロック芸術におけるダ・ヴィンチの理想の実現。バロックの幻想天井画について。</p> <p>第 8 回 項目 パトリック・ゲデスの視覚的思索 1 内容 パトリック・ゲデスの視覚的思索と生の図式の新たな解釈。</p> <p>第 9 回 項目 パトリック・ゲデスの視覚的思索 2 内容 第八回の続き</p> <p>第 10 回 項目 ゲディスと明治の美学・美術史 内容 島村抱月の感性的美学に見られる英国美学の受容。20 世紀初頭の芸術論の比較美学的考察。</p> <p>第 11 回 項目 アジアの美学・美術史 内容 20 世紀初頭のアヴァン・ギャルド芸術の中国における遅い受容。1989 年、中国前衛芸術展。</p> <p>第 12 回 項目 言語の構造としての現代芸術 内容 書の脱構築、という漢字文化圏における新しい実験。徐冰、谷文達、王南溟の場合</p> <p>第 13 回 項目 実践的現代芸術論 内容 山口における先端的な芸術活動の紹介。山口現代芸術研究所 (YICA) の歴史と現在。</p> <p>第 14 回 項目 新しい「イメージの解釈学」 内容 総合的な学としての新しい「イメージの解釈学」の成立に向けて。</p> <p>第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。</p> <p>●成績評価方法（総合） レポートを随時提出</p> <p>●教科書・参考書 参考書：参考文献は、講義中に提示する。</p> <p>●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html</p>					

開設科目	芸術論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	佐藤 文昭				

●**授業の概要** この講義では、近代から現代に至る建築・都市における美の捉え方について解説します。特に近代都市計画家パトリック・ゲディスの理論である「生の図式」を中心としながら、当時の建築・都市計画における彼の理論の位置づけとその重要性について明らかにします。さらに、今日の社会において、ゲディスの理論が持つ意義とその新たな可能性について、実際の建築や都市景観などの事例を交えながら解説します。／**検索キーワード** 近代建築、近代都市計画、パトリック・ゲディスの「生の図式」、都市景観

●**授業の一般目標** 1. 近代から現代に至る建築・都市の概要について理解する。2. 建築・都市の美しさに関心を持つ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. パトリック・ゲディスの「生の図式」概要としくみについて理解する。2. 近代や現代の建築の特徴について理解し、説明することが出来る。**思考・判断の観点**： 1. 「生の図式」の理解を背景に、その理論を日常生活の中に応用することが出来る。2. 美しさの探求を通して、今日の社会が持つ問題点を発見することが出来る。**関心・意欲の観点**： 1. 身近にある美しさに関心を示す。2. 美を取り巻く社会状況に興味を持つ。**態度の観点**： 1. 国内の有名建築を訪ね、その美しさを体感する。2. 旅先で、町並みと歴史との関係について調べてみる。

●**授業の計画（全体）** 前半は、19世紀後半～20世紀初頭のヨーロッパ社会の変化と、それに伴う新たな建築や都市計画について概観する。その中で、パトリック・ゲディスの理論が持つ斬新な視点とアプローチについて、ル・コルビュジェなどの当時主流であった都市計画理論と対比しながら解説する。特にゲディスが構築した「生の図式」に注目し、彼が唱える社会学の視点から、都市や建築の捉え方について解説する。中盤は、批評的な立場から、近代理論のひとつとしてゲディスの理論を捉えることにより、それを現代社会に適用する上での限界について解説するとともに、今日の社会が抱える問題点についても言及する。後半は、前述のゲディス理論の批評を踏まえ、この理論の新たな解釈が、今日の社会において新たな美しさを見出すためのひとつのツールとしてどのような意義を持つか、さらには、それを用いることによる新たな建築や都市を創造することが可能であるかなどについて幅広く検討する。その過程で、以下の事例について解説する。「日本の伝統的住宅における陰影の美学」「都市景観の形成過程と住民意識の変遷」

●**成績評価方法（総合）** (1) レポートによる評価、(2) 討議への参加度による評価、(3) 出席による評価。講義中盤にレポートを課し、後半はそのレポートを教材にゲディスの理論の今日的意義について討議し、受講生の発言内容によって理解度をはかる。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：パトリック・ゲディス：『進化する都市』、鹿島出版会、1982年 ル・コルビュジェ：『輝く都市』、鹿島出版会、1988年 イーファー・トゥアン：『トポフィリア：人間と環境』、せりか書房、1992年 ガストン・バシュラール：『空間の詩学』、思潮社、1969年 谷崎潤一郎：『陰影礼賛』（改版）、中央公論社、1995年

●**メッセージ** 建築の美しさ、都市の美しさとは一体何か？それは、純粋芸術 (pure art) だけではない実用芸術 (practical art) としての魅力を秘めています。近代都市計画家パトリック・ゲディスの理論を用いながら、新たな美しさを発見してみよう！

●**備考** 集中授業

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降のグローバリゼーションの影響について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で見ていきます。／**検索キーワード** 国際美術展、現代美術、グローバリゼーション、ビエンナリゼーション

●**授業の一般目標** (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 現代美術に関心をもつ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 現代美術の面白さ、展覧会の面白さがわかる。2. 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。**思考・判断の観点**：1. 幅広く深い教養を背景に、美術作品の好悪巧拙の判断ができる。2. 国際美術展について肯定的な側面と課題とを指摘できる。**関心・意欲の観点**：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。**態度の観点**：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●**授業の計画（全体）** 前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観する。中盤は毎回1つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行う。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展におけるグローバリゼーションの問題を究明する。

●**成績評価方法（総合）** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：『12人の挑戦—大観から日比野まで』、茨城新聞社、2002年 石井元章『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』、ブリュッケ、1999年 『ヴェネツィア・ビエンナーレ—日本参加の40年』、国際交流基金、毎日新聞社、1995年、ほか講義の中で随時紹介する。

●**メッセージ** 「ビエンナリゼーション」という呼ばれ方で、アートの世界でもグローバリゼーションが進んでいます。現代美術の明日はどっちだ!?

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

●**授業の概要** この講義では、2004 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。／**検索キーワード** 展覧会企画、現代美術、近代美術、西欧美術

●**授業の一般目標** (1) 各展覧会の企画趣旨について理解を深める。(2) 美術に関心をもつ。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 作品や展覧会の面白さがわかる。2. 美術史の基本的な用語を作品に即して説明できる。**思考・判断の観点**：. 展覧会のテーマが社会に投げかける問いを読み解き、自らの考えを述べることができる。2. 展覧会企画における現実的な制約と先取的な企図とのせめぎあいを看取できる。**関心・意欲の観点**：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。

態度の観点：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●**授業の計画（全体）** 基本的に各週 1 つの展覧会を紹介します。

●**成績評価方法（総合）** (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●**メッセージ** 実戦経験を積んで強くなってください。芸術論における実戦経験とは、すなわち、作品を前にあなたが何を感じるができるか、です。むしろあなたが作品から挑まれている、と想像してみてください。さあ、展覧会へ出掛けましょう！

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	奥津聖				

- 授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読／検索キーワード 修士論文
- 授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 独自の方法論の模索
- 授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	奥津聖				

- 授業の概要 修士論文作成準備 課題の講読／検索キーワード 修士論文
- 授業の一般目標 修士論文作成準備 課題の講読
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：独自の方法論の模索
- 授業の計画（全体） 修士論文作成準備 課題の講読
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。
- 授業の一般目標** 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 **思考・判断の観点**：自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 **関心・意欲の観点**：身の周りのさまざまな物事に対して常に問題意識をもつ。 **態度の観点**：適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。
- 授業の計画（全体）** 1人の発表者が1～3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。
- 成績評価方法（総合）** 発表内容と期末のレポートによって評価します。
- 教科書・参考書** 参考書：適宜紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤川哲				

- 授業の概要** 各自の研究に関係のある論文を紹介してもらいます。レジュメ作成のこと。外国語文献の場合は、訳文作成をお願いします。授業は、発表内容に対する討議を中心とします。
- 授業の一般目標** 専門的かつ横断的な視野と思考力の獲得する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：自らの研究課題の解明に必要な専門的知識を習得する。 **思考・判断の観点**：自らの研究課題をめぐって幅広い視野から多面的に考え抜く。 **関心・意欲の観点**：身の周りのさまざまな物事に対して常に問題意識をもつ。 **態度の観点**：適切な課題設定を行い、解決に向けた最適な筋道を構想した上で、それを着実に実現できる。
- 授業の計画（全体）** 1人の発表者が1～3週間、同じテーマで発表を担当し、集中的に討議します。その後、別の学生による発表と討議、と続けます。
- 成績評価方法（総合）** 発表内容と期末レポートによって評価します。
- 教科書・参考書** 参考書：適宜紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

言語文化専攻

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 日本語の形成過程やその特徴を考えながら，方言研究の意義を明らかにする／**検索キーワード** 方言の形成，方言研究の意義
- 授業の一般目標** 日本語の方言とは何か，その特徴・意義を考える。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の方言の形成，変化，特徴について理解を深める。**思考・判断の観点**：日本語の方言についての分析視点を獲得する。**関心・意欲の観点**：日本語の方言の意義を再認識する。
- 授業の計画（全体）** 方言の概念規定，方言の意義，方言研究の意義，方言形成の要因などについて述べる。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験，質問カード，出席
- 教科書・参考書** 参考書：国語アクセントの史的研究，金田一春彦，塙書房，1974 年
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー火曜日 10:00 ～ 12:00

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

●**授業の概要** 日本語の形成過程やその特徴を考えながら，方言研究の意義を明らかにする。／**検索キーワード** 方言の形成，方言研究の意義

●**授業の一般目標** 日本語の方言とは何か，その特徴・意義を考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の方言の形成，変化，特徴について理解を深める。**思考・判断の観点**：日本語の方言についての分析視点を獲得する。**関心・意欲の観点**：日本語の方言の意義を再認識する。

●**授業の計画（全体）** 方言分布の解釈，方言区画，西日本の方言の概観，方言調査法等々について述べる。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験，質問カード，出席

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー火曜日 10:00 ～ 12:00

開設科目	日本語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 日本語の形成過程やその特徴を考えながら，方言研究の意義を明らかにする。／**検索キーワード** 方言の形成，方言研究の意義，東西方言の境界
- 授業の一般目標** 日本語の方言とは何か，その特徴・意義を考える。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：日本語の方言とは何か，その特徴・意義を考える。 **思考・判断の観点**：日本語の方言の分析視点を獲得する。 **関心・意欲の観点**：日本語の方言の意義を再認識する。
- 授業の計画（全体）** 方言研究の意義，東西方言境界，方言区画などについて述べる。
- 成績評価方法（総合）** 定期試験，質問カード，出席
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部 5 階 オフィスアワー火曜日 10:00 ～ 12:00
- 備考** 集中授業

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～待遇表現 (1)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。
- 授業の一般目標** 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。**思考・判断の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。**関心・意欲の観点**：授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画 (全体)** 諸外国語と比較した日本語の特徴として、よく「敬語」の複雑さが話題となるが、この授業では「敬語」を「待遇表現」の一部として扱い、その性格について、現代語の場合を中心に、日本語史的な観点も取り入れながら考察を加える。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**
 - 第 1 回 項目 待遇表現とは
 - 第 2 回 項目 待遇表現の種類
 - 第 3 回 項目 敬語と待遇表現
 - 第 4 回 項目 人称代名詞
 - 第 5 回 項目 人物の呼称 (1)
 - 第 6 回 項目 人物の呼称 (2)
 - 第 7 回 項目 現代敬語の性格 (1)
 - 第 8 回 項目 現代敬語の性格 (2)
 - 第 9 回 項目 敬語の持つ効果
 - 第 10 回 項目 敬語の分類 (1)
 - 第 11 回 項目 敬語の分類 (2)
 - 第 12 回 項目 敬語の分類 (3)
 - 第 13 回 項目 美化語とは (1)
 - 第 14 回 項目 美化語とは (2)
 - 第 15 回 項目 テスト
- 成績評価方法 (総合)** 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書** 教科書：特定の教科書は使用しない。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～待遇表現 (2)～ 日本語の「待遇表現」について、現代語を中心に考察する。
- 授業の一般目標** 日本語の「待遇表現」に関する基礎知識を身に付けるとともに、「待遇表現」に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。**思考・判断の観点**：日本語の「待遇表現」に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。**関心・意欲の観点**：授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画 (全体)** 諸外国語と比較した日本語の特徴として、よく「敬語」の複雑さが話題となるが、この授業では「敬語」を「待遇表現」の一部として扱い、その性格について、現代語の場合を中心に、日本語史的な観点も取り入れながら考察を加える。
- 授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**
 - 第 1 回 項目 美化語の形式 (1)
 - 第 2 回 項目 美化語の形式 (2)
 - 第 3 回 項目 接頭辞「お」「ご」の用法 (1)
 - 第 4 回 項目 接頭辞「お」「ご」の用法 (2)
 - 第 5 回 項目 準敬語とは
 - 第 6 回 項目 丁寧語の用法 (1)
 - 第 7 回 項目 丁寧語の用法 (2)
 - 第 8 回 項目 尊敬語の用法 (1)
 - 第 9 回 項目 尊敬語の用法 (2)
 - 第 10 回 項目 謙譲語の用法 (1)
 - 第 11 回 項目 謙譲語の用法 (2)
 - 第 12 回 項目 丁寧語とは
 - 第 13 回 項目 問題となる敬語表現 (1)
 - 第 14 回 項目 問題となる敬語表現 (2)
 - 第 15 回 項目 テスト
- 成績評価方法 (総合)** 期末試験を主たる評価の対象とする。毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書** 教科書：特定の教科書は使用しない。随時、補助プリントを使用する。

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

- 授業の概要** 日本語学特殊講義の前期概要に準ずる 大学院生にとっては、修士論文の作成のヒントになるような授業になるようにする。／**検索キーワード** 日本語教授法、エンカウンター
- 授業の一般目標** 日本語学特殊講義前期に準ずる。大学院生としては、自ら構成的グループ・エンカウンターの実施者として、リーダーシップを発揮できるようにする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1、構成的グループ・エンカウンターと類似の活動との異同について説明できる。 2、人間関係づくり、リレーションづくりのしかけとしくみを理解する。 3、日本語教育とカウンセリングの接点について理解を深める。 **思考・判断の観点**： 特殊講義に同じ **関心・意欲の観点**： 特殊講義に同じ **態度の観点**： 特殊講義に同じ **技能・表現の観点**： 1、他者の立場を尊重しながらも、説得力のある自己主張をする。 2、簡潔に自分の意見を述べ、書けるようにする。 3、質問力を身につけ、日本語教授法につながる技法を身につける。
- 授業の計画（全体）** 特殊講義に準ずる
- 成績評価方法（総合）** 出席とレポートを重視し、テストはしない。
- 教科書・参考書** 教科書： 多文化共生のコミュニケーション, 徳井厚子, アルク, 2002 年／ 参考書： エンカウンターとは何か, 国分康孝ほか, 図書文化, 2000 年； エンカウタースキルアップ, 国分康孝ほか, 図書文化, 2001 年； 質問力, 齋藤孝, 筑摩書房, 2003 年； 多文化共生時代の日本語教育, 縫部義憲, 瀝々社, 2002 年； エンカウンターで学級が変わるシリーズ, 国分康孝他, 図書文化, 1999 年
- メッセージ** 日本語教師志望者、留学生歓迎
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2 階 210-2 号室 (研究室), オフィスアワー木曜： 11 時～ 12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯： 090 - 6415 - 8203

開設科目	日本語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

- 授業の概要** 日本語学特殊講義後期の授業概要に準ずる／**検索キーワード** 日本語教授法、エンカウンター
- 授業の一般目標** 同上
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 特殊講義に準じる **思考・判断の観点**： 同上 **関心・意欲の観点**： 同上 **態度の観点**： 同上 **技能・表現の観点**： 同上
- 授業の計画（全体）** 特殊講義に準ずる
- 成績評価方法（総合）** 特殊講義に準ずる
- 教科書・参考書** 教科書： 特殊講義に同じ／ 参考書： 特殊講義に同じ
- メッセージ** 日本語教師志望者、留学生歓迎、他学科・他コースの学生歓迎
- 連絡先・オフィスアワー** 前期に同じ

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～『とはずがたり』を読む(1)～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読する。
- 授業の一般目標** 『とはずがたり』の語法・語彙について、自発的に問題提起し、調査発表する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 問題点の設定と取り組み。 **思考・判断の観点**： 発表資料のまとめ方。 **関心・意欲の観点**： 質疑応答への参加度。 **技能・表現の観点**： 口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。
- 授業の計画（全体）** 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、平安時代の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらおう。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。
- 教科書・参考書** 教科書： とはずがたり, 伊地知鉄男編, 笠間書院, 1972 年

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	磯部佳宏				

- 授業の概要** ～『とはずがたり』を読む(2)～ 中世の女流日記文学『とはずがたり』を演習形式で講読する。
- 授業の一般目標** 『とはずがたり』の語法・語彙について、自発的に問題提起し、調査発表する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 問題点の設定と取り組み。 **思考・判断の観点**： 発表資料のまとめ方。 **関心・意欲の観点**： 質疑応答への参加度。 **技能・表現の観点**： 口頭発表における技術、表現。資料・参考文献の取り扱い方。
- 授業の計画（全体）** 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、平安時代の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。
- 教科書・参考書** 教科書： とはずがたり, 伊地知鉄男編, 笠間書院, 1972 年

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	林伸一				

- 授業の概要** 主に日本語教育、日本語教授法関連の学術論文、実践報告を材料に大学院生レベルの演習をおこなう。特に修士論文の作成に直結するような内容の検討を相互に実施する。／**検索キーワード** 論文文化、研究発表
- 授業の一般目標** 1、学術論文、実践報告を批判的に読む。 2、修士論文のテーマを明確にしなが、その目的と意義を考える。 3、修士論文の研究手法と手順について検討する。 4、修士論文のデータの取り方、処理のしかたを検討する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1、論文とエッセーの違い 2、学術論文と報告書の違い 3、先行研究とオリジナリティの関係 4、論文と教科書風記述の問題 **思考・判断の観点**： 1、論旨の一貫性 2、放射思考としてのマインドマップの活用 3、一般論に対して適切な具体例の提示 **関心・意欲の観点**： 1、テーマに関する関心と意欲 2、研究方法に関する関心と意欲 3、表現方法に関する関心と意欲
- 授業の計画（全体）** 上記のような授業の各目標を達成するために授業を対話的なゼミ形式で進めていく。例えば「論文とエッセーの違い」など二項対立的な問いをペアワーク形式で考えていく。院生一人一人の興味と関心に合わせて、具体的な課題を設定し、ディスカッションする。学術論文産出に貢献するような形で、検討とアドバイスを積み重ねていく。
- 成績評価方法（総合）** 出席と授業内小レポート（質問・感想カード）を重視し、テストはしない。
- 教科書・参考書** 教科書：プリント配布／参考書：プリント配布
- メッセージ** 事実を発見し、育み、発表して形にする知の広場としてのゼミナール。地道に探求し、独自性を尊重する態度を大切にしたい。
- 連絡先・オフィスアワー** 人文学部 2階 210 - 2号室、オフィスアワー：木曜 11 時-12 時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090 - 6145 - 8203

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	林伸一				

- 授業の概要** 前期概要に準ずるが、その発展として、修士論文の内容の吟味をする 実際に修士論文の一部を取り出し、先行的に研究を試行してみる できれば学会発表を経験するための準備をする／**検索キーワード** 前期と同じ
- 授業の一般目標** 1、学会発表を想定して、発表申請書を作成する。 2、学会発表のためのハンドアウトを作成する。 3、学会発表のリハーサルをゼミで実施する。 4、指摘された不十分な点を補い、内容を修正する。 5、学会発表の積み重ねで、修士論文を作成する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1、先行研究の知識と理解 2、仮説と検証の関係 **思考・判断の観点**： 1、独話論の世界に入り込んでいないか 2、序論一本論一結論といった論文の構成の適否 **技能・表現の観点**： 1、図や表の処理の技能 2、文章表現能力
- 授業の計画（全体）** 上記の目標を達成するための演習を対話的ゼミナール形式で行なう。
- 成績評価方法（総合）** 出席と発表を重視し、テストは行なわない。
- 教科書・参考書** 教科書： プリント配布／ 参考書： プリント配布
- メッセージ** 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー** 前期と同じ

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 『音曲玉淵集』を読む。／**検索キーワード** 近世音韻史資料, 三浦庚妥
- 授業の一般目標** これにより, 日本語の音韻史の中世から近世にかけて, そして現代への変化を実際に読みとる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**: 中世日本語の音韻の実態を知る。 **思考・判断の観点**: 中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する **関心・意欲の観点**: 自国の言語の歴史を再認識する。
- 授業の計画 (全体)** 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。
- 成績評価方法 (総合)** 出席, レポートの内容
- 教科書・参考書** 教科書: 『音曲玉淵集』(臨川書店)
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室: 人文学部 5階 オフィスアワー: 火曜日 10:00 ~ 12:00 研究室: 人文学部 5階 オフィスアワー: 火曜日 10:00 ~ 12:00 研究室: 人文学部 5階 オフィスアワー: 10:00 ~ 12:00

開設科目	日本語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	添田建治郎				

- 授業の概要** 『音曲玉淵集』を読む。／**検索キーワード** 近世音韻史資料, 三浦庚妥
- 授業の一般目標** これにより, 日本語の音韻史の中世から近世にかけて, そして現代への変化を実際に読みとる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**: 近世記日本語の音韻の実態を知る。 **思考・判断の観点**: 中世以降の日本語の音韻変化の流れ・要因を考察する **関心・意欲の観点**: 自国の言語の歴史を再認識する。
- 授業の計画 (全体)** 『音曲玉淵集』の巻一の影印本本文を読む。
- 成績評価方法 (総合)** 出席, レポートの内容
- 教科書・参考書** 教科書: 『音曲玉淵集』(臨川書店)
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室: 人文学部 5 階 オフィスアワー: 火曜日 10:00 ~ 12:00

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

- 授業の概要** 近世文学研究のためのアプローチ法について講述する。記録・書簡等の周辺資料へも目配りしつつ、適宜演習形態も取り入れながら、文献収集の方法・文献読解の技術・書誌的基礎知識の習得を指導する。
- 授業の一般目標** 近世文学諸作品の読解、及び文学史的な位置付けを目指し、その方法論を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. 近世文学の作品を原本または影印で的確に解読することができる。 2. 記録・書簡等の周辺資料を解読することができる。 3. 書誌調査の基礎を習得する。
思考・判断の観点： 1. 近世文学の作品に適切な註釈を施すことができる。 2. 記録・書簡等の周辺資料を作品の読解に利用することができる。 3. 書誌情報を作品の理解に利用することができる。
- 授業の計画（全体）** 1. 近世文学の作品をとりあげて、広範且つ綿密に註釈し、問題の所在を模索する。
2. 附属図書館所蔵の旧制山口高校旧蔵和書を素材として、書誌調査の基礎を講じる。
- 成績評価方法（総合）** 発表を含む授業態度や提出レポートにより評価する。試験は行わない。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。／ 参考書： 日本古典書誌学総説, 藤井隆, 和泉書院, 1991 年
- メッセージ** より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30 — 16:00

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

●**授業の概要** 【連歌俳諧史の諸問題】近世初期を主軸として、連歌から俳諧への変遷をたどり、その意義・その背景について考察する。室町期に最盛した連歌は、近世期に至り、形式はそのままに表現の方向性を転換させ、俳諧の成立・流行へと展開する。連歌と俳諧の両道に大成した西山宗因の問題を中心に、過渡期に模索された、伝統と革新のダイナミズムを探りたい。／**検索キーワード** 連歌、俳諧、西山宗因

●**授業の一般目標** 1. 連歌・俳諧という日本固有の韻文史を理解し、それぞれの文芸が、時代の思潮や政治と密接に絡みあいながら展開していったことを理解する。 2. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの修士論文への備えとする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 連歌俳諧史の展開と転換点及びその背景について理解する。
思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。 **関心・意欲の観点**： 1. 問題設定・論証のあり方を自らの課題に反映させることができる。

●**授業の計画（全体）** 以下の4つのテーマに即して進める。 1. 連歌とは何か／俳諧とは何か 2. 連歌壇と俳壇と 3. 西山宗因とその時代 4. 宗因顕彰とその時代

●**成績評価方法（総合）** 主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しない。／ 参考書： 授業時に適宜指示する。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30—16:00

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 平安文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。／**検索キーワード** 古典文学
- 授業の一般目標** 平安文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。**態度の観点**：平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 『源氏物語』第二部の物語について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験・小テストによる。
- 教科書・参考書** 教科書：玉上琢弥訳注『源氏物語』第六巻～第七巻（角川文庫ソフィア）／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	小野美典				

- 授業の概要** 鎌倉時代に成立した『今物語』を題材にして、説話文学研究の理論と実践を解説する。半期のみの短い期間の講義なので、「『今物語』概説」「説話研究の理論と実践」の二つに内容を絞って講義を進める。なお、授業形態は、授業形態は、テキストと資料プリント（講師の側で用意）を参照しながら、板書と口頭での説明を中心とした講義形式とする。／**検索キーワード** 今物語、説話文学
- 授業の一般目標** 『今物語』研究の現状と課題を知った上で、説話文学研究の方法を理解し、各自の研究に生かせることを目標とする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1.『今物語』の概要が説明できる。2. 説話文学研究の方法を身につけることができる。**思考・判断の観点**：各自の研究に説話文学研究の方法論が応用できる。**関心・意欲の観点**：他の説話文学への関心を広げることができる。**態度の観点**：先行する研究の問題点を独自に解決することができる。
- 授業の計画（全体）** 講義は、『今物語』概説と「説話研究の理論と実践」の二部に分けて進める。「『今物語』概説」では、作品全体の概要を紹介する。「成立年代について」「作者藤原信実について」「作品の構成について」の三点を中心に、研究の現状を紹介し、あわせて講義担当者の見解をも提示したい。「説話研究の理論と実践」では、『今物語』の中から数段を取り上げて、研究の進め方を具体的に解説する。今回の講義では、『平家物語』と関係する章段を中心に、説話文学作品が他の作品との交流の中で、どのように生成されていくかを検証してみたい。
- 成績評価方法（総合）** 前期の終了時におこなう「定期試験」で80%、「出席点」で20%。定期試験は、論述形式のペーパーテストである。
- 教科書・参考書** 教科書：『今物語全訳注』（三木紀人、講談社学術文庫、1998年）／参考書：『(中世の文学) 今物語・隆房集・東斎随筆』（久保田淳ほか、三弥井書店、1979年）
- メッセージ** 江戸時代の版本や写本の実物にも触れてもらう。生の資料の迫力を感じ取って欲しい。

開設科目	日本文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 平安文学作品を対象として、研究史の上で営まれてきた様々な読解を紹介しつつ、そこで提起された諸問題について検討を加えていく。／**検索キーワード** 古典文学
- 授業の一般目標** 平安文学作品を研究する上で必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力を養成する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。**態度の観点**：平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができるようになる。
- 授業の計画（全体）** 『源氏物語』第二部の物語について先行研究が提示してきた読解の視点を検証していく。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：玉上琢弥訳注『源氏物語』第六巻～第七巻（角川文庫ソフィア）／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 演習と連動したかたちで村上春樹文学の問題を考えたい。

●**授業の一般目標** 村上春樹という当代随一の作家の芸術形成史を丹念に検討したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 「村上春樹－OFF の感覚」（今井清人、国研出版）の読解（1）

第 3 回 項目 「村上春樹－OFF の感覚」（今井清人、国研出版）の読解（2）

第 4 回 項目 「村上春樹－OFF の感覚」（今井清人、国研出版）の読解（3）

第 5 回 項目 「村上春樹と同時代の文学」（黒古一夫、河合出版）の読解（1）

第 6 回 項目 「村上春樹と同時代の文学」（黒古一夫、河合出版）の読解（2）

第 7 回 項目 「村上春樹と同時代の文学」（黒古一夫、河合出版）の読解（3）

第 8 回 項目 「村上春樹イエローページ」（加藤典洋、荒地出版社）の読解（1）

第 9 回 項目 「村上春樹イエローページ」（加藤典洋、荒地出版社）の読解（2）

第 10 回 項目 「村上春樹イエローページ」（加藤典洋、荒地出版社）の読解（3）

第 11 回 項目 「村上春樹、転換する」（吉田春生、彩流社）の読解（1）

第 12 回 項目 「村上春樹、転換する」（吉田春生、彩流社）の読解（2）

第 13 回 項目 「村上春樹、転換する」（吉田春生、彩流社）の読解（3）

第 14 回 項目 村上春樹サーカス団の行方」（石倉美智子、専修大学出版局）の読解（1）

第 15 回 項目 村上春樹サーカス団の行方」（石倉美智子、専修大学出版局）の読解（2）

●**成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品）= 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書：指導教授の方でまとめて準備しておきます。

●**メッセージ** 連動している関係上、日本文学論演習も合わせて受講していただきたい。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3－5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 今回は現代文学について考えてみたいと思う。現代文学の起源から語り起こし、今まさに、どのような様相を呈しているかということを講述する予定である。

●**授業の一般目標** 現代文学を論ずる以上、いわゆるサブカルチャーとの関わりを抜きには語れないと考えている。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 現代文学の起源としての三島由紀夫 (1)
- 第 2 回 項目 現代文学の起源としての三島由紀夫 (2)
- 第 3 回 項目 現代文学の起源としての三島由紀夫 (3)
- 第 4 回 項目 三島文学の後継者 (1)
- 第 5 回 項目 三島文学の後継者 (2)
- 第 6 回 項目 三島文学の後継者 (3)
- 第 7 回 項目 80年代文学 (1)
- 第 8 回 項目 80年代文学 (2)
- 第 9 回 項目 80年代文学 (3)
- 第10回 項目 90年代文学 (1)
- 第11回 項目 90年代文学 (2)
- 第12回 項目 90年代文学 (3)
- 第13回 項目 現代文学の最前線 (1)
- 第14回 項目 現代文学の最前線 (2)
- 第15回 項目 現代文学の最前線 (3)

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

●**教科書・参考書** 教科書：毎回プリントを配布する。／参考書：適宜、紹介する。

●**メッセージ** このシラバスは、大学側の要請で2004年2月上旬を締切として、ウェブ上に 入力することを義務づけられている。そしてこの講義を開始するのはそれから約8 カ月後である。あらかじめお断りしておくが、現代文学を講ずる以上、いわば必然的に当初の予定はあくまでも予定でしかない。この8カ月の間に発表された作品を 素材にする必要性が生じた場合、事前の契約内容とは異なることを話題にするからである。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日5. 6時限

開設科目	日本文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中原 豊				

●**授業の概要** 詩人中原中也の詩の特質を日本の近代詩の歴史の中で捉える。／**検索キーワード** 中原中也
近代詩 詩

●**授業の一般目標** まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、中原中也の作品の読解を通じて、中也の詩と詩想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 詩の表現の特色、および日本の近代詩の歴史の概略を理解する。
思考・判断の観点： 言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。
関心・意欲の観点： 進んで中原中也および他の詩人の詩を読もうとする。
技能・表現の観点： 自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

●**授業の計画（全体）** 詩の本質について語った詩人の言葉を紹介し、日本の近代詩の歴史を概観した後に、中原中也の詩の特質の説明と読解を行う。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 詩とは何か
- 第 2 回 項目 日本の近代詩 I 内容 近代詩前史
- 第 3 回 項目 日本の近代詩 II 内容 新体詩
- 第 4 回 項目 日本の近代詩 III 内容 浪漫詩
- 第 5 回 項目 日本の近代詩 IV 内容 口語詩 1
- 第 6 回 項目 日本の近代詩 V 内容 口語詩 2
- 第 7 回 項目 日本の近代詩 VI 内容 モダニズム詩
- 第 8 回 項目 中原中也 I 内容 詩的履歴書・初期短歌
- 第 9 回 項目 中原中也 II 内容 ダダイズムと象徴主義
- 第 10 回 項目 中原中也 III 内容 『山羊の歌』の世界 1
- 第 11 回 項目 中原中也 IV 内容 『山羊の歌』の世界 2
- 第 12 回 項目 中原中也 V 内容 『在りし日の歌』の世界 1
- 第 13 回 項目 中原中也 VI 内容 『在りし日の歌』の世界 2
- 第 14 回 項目 おわりに 内容 中原中也と日本の近代詩
- 第 15 回 項目 予備

●**教科書・参考書** 教科書：佐々木幹郎編『山羊の歌 中原中也詩集』『在りし日の歌 中原中也詩集』角川文庫クラシックス／参考書：嶋岡晨『詩とは何か』新潮選書

●**メッセージ** 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 中原中也記念館

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 本年度は村上春樹の作品（中・長篇）をデビュー作『風の歌を聴け』から順を追って精読し、彼の芸術形成史の軌跡を確認していきたい。

●**授業の一般目標** 一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させていくかという問題を検証したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 導入

第 2 回 項目 『風の歌を聴け』論（1）

第 3 回 項目 『風の歌を聴け』論（2）

第 4 回 項目 『風の歌を聴け』論（3）

第 5 回 項目 『1973年のピンボール』論（1）

第 6 回 項目 『1973年のピンボール』論（2）

第 7 回 項目 『1973年のピンボール』論（3）

第 8 回 項目 『羊をめぐる冒険』論（1）

第 9 回 項目 『羊をめぐる冒険』論（2）

第 10 回 項目 『羊をめぐる冒険』論（3）

第 11 回 項目 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論（1）

第 12 回 項目 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論（2）

第 13 回 項目 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論（3）

第 14 回 項目 『ノルウェイの森』論（1）

第 15 回 項目 『ノルウェイの森』論（2）

●**成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度 = 30% 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30% 演習 = 30% 出席 = 10%

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは指導教授の方で、購入・準備しておきます。／参考書：適宜指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野芳信				

●**授業の概要** 前期に引き続き、村上春樹の芸術形成史を確認しつつ、彼の中・長篇を精読する。

●**授業の一般目標** 一人の作家がどのようにして、自己の個人様式を確立させ、発展・変容させていくかという問題を検証したい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 『ノルウェイの森』論（3）
- 第 3 回 項目 『ダンス・ダンス・ダンス』論（1）
- 第 4 回 項目 『ダンス・ダンス・ダンス』論（2）
- 第 5 回 項目 『ダンス・ダンス・ダンス』論（3）
- 第 6 回 項目 『国境の南、太陽の西』論（1）
- 第 7 回 項目 『国境の南、太陽の西』論（2）
- 第 8 回 項目 『国境の南、太陽の西』論（3）
- 第 9 回 項目 『スプートニクの恋人』論（1）
- 第 10 回 項目 『スプートニクの恋人』論（2）
- 第 11 回 項目 『スプートニクの恋人』論（3）
- 第 12 回 項目 『海辺のカフカ』論（1）
- 第 13 回 項目 『海辺のカフカ』論（2）
- 第 14 回 項目 『海辺のカフカ』論
- 第 15 回 項目 総括

●**成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは指導教授の方で、購入・準備しておきます。／参考書：適宜、指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日 5. 6 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	尾崎千佳				

- 授業の概要** 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。
- 授業の一般目標** 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。**思考・判断の観点**： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。**関心・意欲の観点**： 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。
- 授業の計画（全体）** 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。
- 教科書・参考書** 教科書：プリント配付による。／参考書：授業時に指示する。
- メッセージ** より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30－16:00

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	尾崎千佳				

- 授業の概要** 作品作家の選定・研究史の整理と把握・問題の設定について、各自の研究計画に即して指導する。
- 授業の一般目標** 修士論文作成のための具体的な方法習得を目的とする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. とりあげる作家や作品を選定することができる。 2. 先行研究を収集し整理することができる。 **思考・判断の観点**： 1. 研究史を把握し問題を提起することができる。 2. 論文テーマを自ら設定することができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 選定した作家や作品の史的位置付けについて、適切に説明することができる。 2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。
- 授業の計画（全体）** 口頭発表、レポート提出、個別面談の3段階で行う。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の口頭発表や提出レポートにより評価する。試験は行わない。
- 教科書・参考書** 教科書：プリント配付による。／参考書：授業時に指示する。
- メッセージ** より具体的な授業計画は、参加者と相談のうえ、初回時に提示します。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:ozaki@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文 508 オフィスアワー：火曜 14:30 — 16:00

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 輪読形式による平安文学作品の研究。／**検索キーワード** 平安文学、中古文学
- 授業の一般目標** 平安文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。**態度の観点**：平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 平安文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。
- 成績評価方法（総合）** レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：授業時に指示する。／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	日本文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	森野正弘				

- 授業の概要** 輪読形式による平安文学作品の研究。／**検索キーワード** 平安文学、中古文学
- 授業の一般目標** 平安文学作品を研究するうえで必要な知識の習得、及び理解力・分析力・論理的思考力などを養成する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：平安文学作品に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。**思考・判断の観点**：平安文学作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。**関心・意欲の観点**：自発的に平安文学作品を読み進め、関連する事項について調査・研究する意欲を高める。**態度の観点**：平安文学作品に提起されている問題を主体的に考え、自ら探究することができる。**技能・表現の観点**：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体）** 平安文学作品を取りあげ、本文の異同や諸注釈について検討を加え、発表担当者の考察を展開していく。
- 成績評価方法（総合）** レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：授業時に指示する。／参考書：授業時に紹介する。
- メッセージ** 80 パーセント以上出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー** 木曜日 7・8 時限

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	更科慎一				

●**授業の概要** 明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献が多数作られた。これらの文献は、中国語学の研究資料として魅力の大きいものだが、対訳 という性質上とつきづらいいこともまた事実である。本授業では、中国の「華夷訳語」 や朝鮮の「老乞大」などの代表的文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける 外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。／**検索キーワード** 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大

●**授業の一般目標** (1) 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。(2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。 2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。 3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者的言語現象について指摘できる。 **思考・判断の観点**： 1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。 **技能・表現の観点**： 1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。 2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、対音対訳文献が提起する諸問題についてテーマを設けて解説するとともに、対音対訳文献の実物について問題の実際を見てゆく。受講者にも対音対訳文献を扱ってもらう場合がある。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。

●**成績評価方法（総合）** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度考慮する。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：授業中に適宜指示します。

●**連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室:人文 516、電話:933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	更科慎一				

- 授業の概要** 前期に引き続き、明清代の中国や同時代の周辺国において、漢語と漢語以外の言語の対音・対訳文献を取り扱いながら、近代以前の東アジアにおける外国語学習の営みの一端に触れ、同時にそれらの文献を中国語学の資料として活かす方法を考える。なお、受講にあたり、中国語以外の外国語の知識はなくともよい。／**検索キーワード** 対音・対訳文献、華夷訳語、老乞大
- 授業の一般目標** (1) 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について理解する。(2) 明代を中心とする近代漢語の音韻、語彙、文法の特徴について理解する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 明清代中国や同時期の朝鮮における多言語学習の実態について、自身の研究の観点から説明できる。2. 近代から現代に到る漢語の変化について説明できる。3. 干渉や類推など、対音対訳資料に特有の非母語話者の言語現象について指摘できる。**思考・判断の観点**：1. 非母語話者が記述した資料に基づいて言語を研究することの意味を十分に理解し、これを自身の研究と結びつけることができる。**技能・表現の観点**：1. 異体文字を一定の方式に基づいたローマ字に転写することができる。2. 韻書などを使って、漢字の音韻的地位を検索することができる。
- 授業の計画（全体）** 後期授業では、「甲種本華夷訳語来文」または「老乞大諺解」の読解を行う予定である。非漢語については教官が解説するが、漢語と関連する部分について、受講者が自分の可能な範囲で読解を手助けすることを期待する。受講者は、期末に、授業内容と関連したレポートを提出する。
- 成績評価方法（総合）** 学期末に提出させるレポートによるほか、授業内レポートや授業への参加度を一定程度考慮する。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：授業中に適宜指示します。
- 連絡先・オフィスアワー** 更科慎一 研究室：人文 516、電話：933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松江崇				

●**授業の概要** 漢語史において、後漢・魏晋期は、いわゆる上古漢語から中古漢語へと大きく変化する、重要な転換期の一つである。本授業では、この上中古間に生じた言語変化のうち文法面での変化を中心として、それが如何なる要因によって、如何なる過程を経て生じたのか、そのメカニズムについて具体的に検討する。

●**授業の一般目標** (1) 上古漢語の文法面での類型論的特徴を、現代漢語との比較を通じて確認する。(2) 上古漢語の方言について、どのような方言区が推定されるのか理解する。(3) 上中古間に生じた文法変化が、どのような要因により、どのような過程を経て生じたのか、またそれが音韻面での変化とどのような関係を有しているのか、といった具体的なメカニズムについての理解を深める。

●**授業の計画（全体）** (1) 上古漢語の文法特徴、(2) 上古漢語における代名詞の「格屈折」をめぐって、(3) 揚雄『方言』による漢代方言区画論、(4) 代名詞目的語倒置現象とその消失メカニズム、(5) 無標の受動文について、(6) 中古初期の言語資料読解

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業の中で原文読解等の課題を担当する。(2) 中国語学についてのレポートを2000字程度で作成し、提出する。

●**備考** 集中授業

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	富平美波				

- 授業の概要** 受講者各自が特定の研究テーマを選んで、関連領域の文献調査・文献読解・データ収集・考察・討論などを行う。研究テーマの領域としては、中国語の音声・音韻、古典中国語の文法を予定している。／**検索キーワード** 中国語学 研究 報告
- 授業の一般目標** 受講者の選んだ研究テーマに基づき、関係領域の知識を習得するとともに、実際の調査・研究と成果報告の技能を養成する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 研究テーマに関連する領域の基本知識をマスターする。 2. 関連資料の内容が正しく理解できる。 **思考・判断の観点**： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。 **技能・表現の観点**： 自身の研究成果を、口頭または文献の形式により、効果的に報告できる。
- 授業の計画（全体）** 最初の回に、各自の研究テーマを確認し、次回までに、参照すべき文献及び授業中に検討すべき1次資料のリストを作成する。その後、リストに従って資料の検討を進めるとともに、定期的に、各自の研究報告（レジュメ等を用いて口頭報告する）を実施する。おしまいに総まとめのレポートを作成する。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の研究報告と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	富平美波				

●**授業の概要** 受講者各自が特定の研究テーマを選んで、関連領域の文献調査・文献読解・データ収集・考察・討論などを行う。研究テーマの領域としては、中国語の音声・音韻、古典中国語の文法を予定している。前期から継続の受講者に対しては、同じテーマに関してより研究を深めることを期待している。
 ／**検索キーワード** 中国語学 研究 報告

●**授業の一般目標** 受講者の選んだ研究テーマに基づき、関係領域の知識を習得するとともに、実際の調査・研究と成果報告の技能を養成する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 研究テーマに関連する領域の基本知識をマスターする。 2. 関連資料の内容が正しく理解できる。**思考・判断の観点**： 中国語に見られる特定の事象に関して、正しい考察・判断ができる。**技能・表現の観点**： 自身の研究成果を、口頭または文献の形式により、効果的に報告できる。

●**授業の計画（全体）** 最初の回に、各自の研究テーマを確認し、次回までに、参照すべき文献及び授業中に検討すべき1次資料のリストを作成する。その後、リストに従って資料の検討を進めるとともに、定期的に、各自の研究報告（レジュメ等を用いて口頭報告する）を実施する。おしまいに総まとめのレポートを作成する。

●**成績評価方法（総合）** 授業中の研究報告と学期末のレポート、授業中の考察・討論への参加度によって総合的に評価する。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	阿部泰記				

●**授業の概要** 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／**検索キーワード** 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

●**授業の一般目標** 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 **態度の観点**： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 **技能・表現の観点**： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

●**教科書・参考書** 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 荘司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	阿部泰記				

●**授業の概要** 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／**検索キーワード** 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

●**授業の一般目標** 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 **思考・判断の観点**： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 **関心・意欲の観点**： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 **態度の観点**： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 **技能・表現の観点**： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

●**教科書・参考書** 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 荘司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	合山究				

●**授業の概要** 明清時代の主情文学—明清の文化を特徴づける「女性」と「情」の文学について、以下のよう
なテーマで講義を行う。(1) 情と明清文化—「情文化についての概説」「情死について」「花案・花榜
考」「袁枚好色論」(2) 節婦烈女論—「節婦烈女論—明清時代の女性の生き方」「節婦烈女の異相—
貞節と淫蕩とのせめぎ合い」「節婦烈女の死生観—『西青散記』の女子絶命詩を中心に」
(3) 薄命の佳人論—「明清の文人とオカルト趣味」「『西青散記』の世界」「『紅樓夢』に見る女性崇拜
思想とその源流」「仙女崇拜小説としての『紅樓夢』」(4) 巾幗鬚眉論—「明清時代における巾幗鬚
眉—女丈夫、女豪傑論」「女詩人の芸術に対する評価をめぐって」(5) 女弟子論—「清代詩人と女弟
子」「袁枚と女弟子」「陳文述の文学と逸事と女弟子」(6) 戯曲小説における女性—「『選宮女』と明
清の戯曲小説」「明清の戯曲小説における男装と女装」「美人画と戯曲小説」(7) 小品文学論—「明
清時代のアフォリズム文学」「明清時代の滑稽文学」(8) 花の文学—「明清時代における花の文化と
習俗」「明清時代における花の文学の諸相」「『紅樓夢』と花」など。

●**授業の一般目標** 明清時代の社会文化について十分な理解が得られるように、上記のテーマについて精一
杯講義を行うつもりである。

●**授業の計画(全体)** 授業は大体、(1)～(8)の順に行うが、受講者の希望に応じて、これら以外のこ
とについて講じることもある。

●**成績評価方法(総合)** 出席点並びにレポート

●**教科書・参考書** 参考書：必要に応じてプリントを配布する。

●**備考** 集中授業

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	根ヶ山 徹				

- 授業の概要** 『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する。
- 授業の一般目標** 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

開設科目	中国文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	根ヶ山 徹				

- 授業の概要** 前期に引き続き、『元曲選』『六十種曲』等に収録される元明の戯曲脚本を取り上げ、注釈を施しながら読解する
- 授業の一般目標** 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 原文の解釈につき、毎回担当し、発表・討議する。

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岩部浩三				

●**授業の概要** テンスとアスペクトの語法に関係する基本的な問題点を解説する。毎回、テキストを20ページ程度予習し、質問用紙に質問を書いてもらう。その質問に答える形で講義を進める。期末試験の他、レポート提出を求める。／**検索キーワード** 時制、相、テンス、アスペクト

●**授業の一般目標** テンスとアスペクトの基本的な知識を身につける。日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って毎回の授業に臨むことで、研究課題の発見に努める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： テンス・アスペクトの基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。**関心・意欲の観点**： 常に、問題意識を持って授業に臨む。自分の研究テーマとなる課題発見に努める。**技能・表現の観点**： 日本語で書かれた文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で簡潔に説明できる。研究論文の書き方を身につける。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** イントロダクション **内容** 現在時制 **内容** 授業方法の指示 質問用紙への記入 **授業外指示** 教科書を購入し、現在時制の部分を予習しておくこと。
- 第2回 **項目** 現在時制と過去時制 **内容** 現在時制の解説 質問用紙記入 **授業外指示** 過去時制の予習をしておくこと。
- 第3回 **項目** 過去時制と未来時の表現(1) **内容** 過去時制の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.55まで予習
- 第4回 **項目** 未来時の表現(1)(2) **内容** 未来時の表現(1)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.74まで予習
- 第5回 **項目** 未来時の表現(2)(3) **内容** 未来時の表現(2)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.94まで予習
- 第6回 **項目** 未来時の表現(3)(4) 進行形(1) **内容** 未来時の表現(3)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.113まで予習
- 第7回 **項目** 未来時の表現(4) 進行形(1)(2) **内容** 未来時の表現(4) 進行形(1)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** 131まで予習
- 第8回 **項目** 中間試験
- 第9回 **項目** 進行形(2)(3) **内容** 進行形(2)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.154まで予習
- 第10回 **項目** 進行形(3) 完了形(1) **内容** 進行形(3)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.179まで予習
- 第11回 **項目** 完了形(1)(2) **内容** 完了形(1)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.202まで予習
- 第12回 **項目** 完了形(2)(3) **内容** 完了形(2)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.220まで予習
- 第13回 **項目** 完了形(3)(4) **内容** 完了形(3)の解説。質問用紙記入。 **授業外指示** p.220まで予習
- 第14回 **項目** 完了形(4) **内容** 完了形(4)の解説。質疑応答
- 第15回 **項目** 期末試験

●**教科書・参考書** 教科書： 柏野健次 著『テンスとアスペクトの語法』（開拓社） 文栄堂（大学前）で販売予定。

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

●**授業の概要** 生成音韻論、生成形態論、生成統語論と呼ばれる分野の主要なトピックスを概説していく。
 ／検索キーワード 生成音韻論、生成形態論、生成統語論

●**授業の一般目標** 生成文法の基本理念・分析法を理解し、自身の研究に応用する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：生成文法のテクニカルな分析方法を知る。**思考・判断の観点**：生成文法理論の文法感を理解する。**関心・意欲の観点**：従来の理論の不備な点を見つけ出し、代案を考える。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 生成文法とはなにか 内容 生成文法のパラダイムの解説 授業外指示 配布プリントに示した参考文献に目を通す。

第 2 回 項目 生成音韻論について 内容 生成音韻論の特徴を理解する。 授業外指示 //

第 3 回 項目 韻律理論の展開 内容 韻律理論によるアクセントの分析を紹介する。 授業外指示 //

第 4 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 5 回 項目 // 内容 日英語のアクセントの共通性を論じる。 授業外指示 //

第 6 回 項目 生成形態論について 内容 生成文法での語形成 n 位置づけを解説する。 授業外指示 //

第 7 回 項目 語彙音韻論・形態論 内容 語形成と音韻論の相互作用を論じる。 授業外指示 //

第 8 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 9 回 項目 生成統語論の発展 内容 生成統語論の発展を跡付ける。 授業外指示 //

第 10 回 項目 GB 理論とはなにか 内容 GB 理論の原理・原則を解説する。 授業外指示 //

第 11 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 12 回 項目 ミニマリストプログラムについて 内容 1990 年代以降の新しい生成文法観を紹介する。 授業外指示 //

第 13 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 14 回 項目 最適性理論について 内容 音韻論の分野でもっとも注目を集めている最適性理論を、優しく解説する。 授業外指示 //

第 15 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

●**成績評価方法（総合）** 各テーマごとに課題を出し、次に回までにレポートにまとめて提出させ、その合計点で評価する。なお、出席も終始し、欠席 1 回につき 5 点転々とする。

●**教科書・参考書** 教科書：適宜プリントを配布する。

●**連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 16 時 10 分～17:40

開設科目	英米語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺田寛				

- 授業の概要** この講義では、英語の興味深い構文について学び、その中で生成文法理論の考え方に接する。
- 授業の一般目標** 英語のいくつかの構文について先行研究で明らかにされたことがらを紹介し、問題点とその解決策について考察する。
- 授業の計画（全体）** 文法理論の枠組み、WH 移動構文、数量詞遊離構文、再構築現象などを取り上げる。
- 成績評価方法（総合）** 授業への取り組みとレポートから評価を決定する。
- 教科書・参考書** 教科書：授業中にプリントを配布する。／参考書：荒木一雄・安井稔『現代英文法辞典』三省堂
- 連絡先・オフィスアワー** terakan@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
- 備考** 集中授業

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法の枠組みにおいて、英語の省略文における照応表現の指示の問題について考察する。省略文とは、省略された要素と同一の要素が文脈上の他の場所に存在し、その要素に基づいて省略された要素が復元できる文である。省略された箇所には代名詞などの照応表現が含まれている場合、代名詞の指示に関して解釈が多義的になる。(1) John scratches his arm, and Bill does, too. 省略文(1)では動詞と目的語(scratch his arm)が省略されており、代名詞 his が John を指す場合と Bill を指す場合の二通りの解釈が可能である。すなわち、(1)の文は、「ジョンがジョンの腕をかき、ビルもジョンの腕をかいた」という解釈と「ジョンがジョンの腕をかき、ビルもビルの腕をかいた」という解釈を持ち、前者は「厳密な同一性(strict identity)」の読み、後者は「ゆるやかな同一性(sloppy identity)」の読みと呼ばれている。この授業では、省略文におけるこのような解釈の多義性を許す統語的・意味的条件について考えていく。／**検索キーワード** 省略文、照応表現、生成文法、解釈の多義性

●**授業の一般目標** 英語の省略構文の統語的・意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の省略文の特徴について説明できる。**思考・判断の観点**：表面的な省略文の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●**授業の計画(全体)** 省略文における照応表現の指示の問題を次の3つの具体的な言語現象から順次考察していく。1) 動詞句省略文における代名詞の指示現象、2) 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象、3) 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象

●**授業計画(授業単位)**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第2回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(1) **内容** 二種類の照応関係と strict/ sloppy な読みとの関連について説明する。
- 第3回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(2) **内容** sloppy な読みを認可する統語的・意味的条件について説明する。
- 第4回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(3) **内容** E-type pronoun とロバ文について説明する。
- 第5回 **項目** 動詞句省略文における代名詞の指示現象(4) **内容** 動詞句削除文におけるロバ文について説明する。
- 第6回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(1) **内容** 動詞句削除文における再帰代名詞の解釈の問題について説明する。
- 第7回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(2) **内容** 照応形移動仮説について説明する。
- 第8回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(3) **内容** 等位節と従属節における再帰代名詞の解釈の違いについて説明する。
- 第9回 **項目** 動詞句省略文における再帰代名詞の指示現象(4) **内容** 浅い照応形と深い照応形について説明する。
- 第10回 **項目** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象(1) **内容** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の解釈の問題について説明する。
- 第11回 **項目** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象(2) **内容** 中国語における長距離照応形の特徴について説明する。
- 第12回 **項目** 重複語句剥奪文における再帰代名詞の指示現象(3) **内容** 中国語の長距離照応形と英語の再帰代名詞との関連について説明する。

- 第13回 **項目** 重複語句剥奪文 における再帰代 名詞の指示現象 (4) **内容** 重複語句剥奪文 と動詞句削除文 における再帰代 名詞の解釈のち がいについて説 明する。
- 第14回 **項目** 期末テスト
- 第15回 **項目** テスト返却・解 説

●**成績評価方法 (総合)** 定期試験の結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：『照応と削除』 今西典子・浅野一郎 大修館書店 プリントも随時配布する。
／ 参考書：『英語の主要構文』中村 捷・金子義明 研究社

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 前期に引き続き、生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。後期は、特に、次の二つの省略文に焦点を当てる。(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文(1)では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2)では、動詞 (eat) のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。動詞句省略文と擬似空所化文の二つの省略文の類似点・相違点について考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の省略文についての特徴を説明できる。**思考・判断の観点**：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文章で表現できる。

●**授業の計画 (全体)** 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) **内容** 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) **内容** 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) **内容** 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) **内容** 動詞句削除文における strict/ sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/ sloppy の読み (2) **内容** sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) **内容** 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) **内容** 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) **内容** 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) **内容** 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) **内容** 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) **内容** 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 **項目** 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) **内容** 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 **項目** 期末テスト
- 第 15 回 **項目** テスト返却・解説

- 成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『照応と削除』 今西典子・浅野一郎 大修館書店 プリントも随時配布する。
／参考書：『英語の主要構文』 中村 捷・金子義明 研究社
- メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	島越郎				

●**授業の概要** 生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。省略文では、省略された要素が復元できるように同一の要素が文脈に存在しなければいけない。この場合、どのようなメカニズムで復元されるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／**検索キーワード** 省略文、動詞句省略文、空所化、生成文法

●**授業の一般目標** 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。**思考・判断の観点**：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。**技能・表現の観点**：考察したことを論理的に文書に表現できる。

●**授業の計画 (全体)** 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and VP-ellipsis, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第 2 回 項目 論文講読

第 3 回 項目 論文講読

第 4 回 項目 論文講読

第 5 回 項目 論文講読

第 6 回 項目 論文講読

第 7 回 項目 論文講読

第 8 回 項目 論文講読

第 9 回 項目 論文講読

第 10 回 項目 論文講読

第 11 回 項目 論文講読

第 12 回 項目 論文講読

第 13 回 項目 論文講読

第 14 回 項目 論文講読

第 15 回 項目 論文講読

●**成績評価方法 (総合)** レポートの結果に基づいて評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：プリントを随時配布する。／参考書：『英語の主要構文』 中村 捷・金子 義明 研究社

●**メッセージ** 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	太田聡				

- 授業の概要** 最新の言語理論の研究成果をふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。／**検索キーワード** 英文法
- 授業の一般目標** 英語・英文学を専攻した者としてはずかしくない程度の英文法の知識を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 学校文法だけでは不十分な英文法に関する知識を補う。 **思考・判断の観点**： テキストの中の記述・分析の問題点を発見して、自らの代案を考える。
- 授業の計画（全体）** テキスト精読していく。後期に取り上げるトピックスは「関係節」、「比較構文」、「等位構造」、「ダイクシス」、「照応」、「屈折形態論」。「語形成」、「句読法」 などである。
- 成績評価方法（総合）** 授業中の発表と期末レポートの出来具合で評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： Huddleston, R. & G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language. Cambridge University Press.
- メッセージ** 毎回 1 章ずつ進むので、しっか予習をしておくこと。
- 連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 16:10 ～ 17:40

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岩部浩三				

- 授業の概要** 受講生の興味に合わせた内容の演習を行なう。原則として、1週間に論文を1本または本の1章に相当する内容を発表してもらおう。ただし、受講生のレベルや人数に応じて内容も柔軟に対応したい。／**検索キーワード** 英語学 意味論 語用論
- 授業の一般目標** 各自の興味に応じて、文献を読み、研究を進める。独力で論文を読みこなし、その内容をまとめてわかりやすく説明する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 研究テーマに応じた過去の文献を読み、その内容をわかりやすくまとめて発表できる。 **関心・意欲の観点**： 独自の研究テーマを持ち、研究を進める意欲を持つ。 **技能・表現の観点**： 従来の研究をまとめ、自己の論点をわかりやすく英語で書ける。
- 授業の計画（全体）** 受講者各自の研究に関する発表を中心に進める。受講者の人数に応じて、論文講読等を取り入れる。
- 備考** 隔年開講

開設科目	英米語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	太田聡				

- 授業の概要** 最新の言語理論の知見をふんだんに盛り込んだ英文法書を丹念に読んでいく。／**検索キーワード** 英文法
- 授業の一般目標** 英語・英文学を専攻した者として恥ずかしくない程度の英文法の知識を身につける。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 学校文法だけでは不十分であった文法知識を補う。 **思考・判断の観点**： テキストの中の問題点を発見し、代案を考える。
- 授業の計画（全体）** テキストを精読していく。前期に取り上げるトピックスは「動詞」、「節（補文）」、「名詞と名詞句」、「形容詞と副詞」、「前置詞と前置詞句」、「節（付加詞）」、「否定」、「節のタイプと発語内行為」でる。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の発表と期末レポートによって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： Huddleston, R. & G. K. Pullum (2002) The Cambridge Grammar of the English Language. Cambridge University Press.
- メッセージ** 毎回1章ずつのペースで進むので、予習をしっかりとしておくこと。
- 連絡先・オフィスアワー** ohta@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 16:10～17:40

開設科目	英米文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

●**授業の概要** 様々な文学批評の実践例として、George Hughes 著 Reading Novels_(2002) を検証する。参考文献として、Terry Eagleton 著 After Theory_(2003) なども参照する。受講者が少人数であることがほぼ確実に見込まれるので、講義というよりも演習に近い授業形態で実施する。／**検索キーワード** 小説 解釈実践、技法、精読

●**授業の一般目標** 英語文学作品を読む上でのさまざまな論点を、実践例から習得する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 文芸理論や専門用語を正確に理解する。 **思考・判断の観点**： 解釈実践例を的確に理解した上で、自ら応用できる。

●**授業の計画（全体）** 当番を決め、教科書内容の要約発表と論点提示をさせる。討議の後、教官がポイントを指摘し、質疑に応じてまとめる。

●**成績評価方法（総合）** 当番時の発表の出来具合＋当番外の時の討論貢献度＋期末レポート。3回以上の欠席は不可となる。

●**教科書・参考書** 教科書： Reading Novels, George Hughes, Vanderbilt, 2002年； ISBN 0826514006 ／ 参考書： After Theory, Terry Eagleton, Basic Books, 2003年； ISBN 0465017738

●**連絡先・オフィスアワー** 受講生には知らせる。

開設科目	英米文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吉田徹夫				

●**授業の概要** 集中講義。開講時期は9月下旬の予定なので、受講者は注意すること。(1) 英国小説の発展において、英国に帰化したポーランド出身の作家ジョージ・コンラッドの果たした役割を、その技法・内容の点から説明する。(2) コンラッドと同時代に活躍した英国人作家のフォスター・ロレンス・ウルフなどの特徴を、彼と対比しながら講義していく。(3) (2) に挙げた作家たちの小説論を紹介する。／**検索キーワード** 語り、語り手、ポストコロニアル、シンボリズム、モダニズム

●**授業の一般目標** (1) コンラッドと同時代の英国小説における伝統的な特徴を理解すると共に、世紀末に見られる異質なものの影響を理解する。(2) コンラッドの代表作『闇の奥』の技法と内容を、実際に英文を読み解きながら考察していく。(3) その他、英語のいろいろの文体（「意識の流れなど」）に、フォスター、ロレンス、ウルフの作品を通して触れながら、英文を読む力を知る。(4) 特に『Mrs Dalloway』については詳しく読み、「意識の流れ」について理解する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 英国小説の伝統的な特徴とその変容を説明できる。 **思考・判断の観点**： 20 世紀英国小説の技法と内容について意見を述べることができる。 **関心・意欲の観点**： 実際に翻訳や原文を通して作品世界に触れる。 **態度の観点**： 小説について描いていたイメージを拡大できる。 **技能・表現の観点**： 接した作品の特色について自分の考えを整理して述べることができる。

●**授業の計画（全体）** 授業では、英国小説の流れを解説していくが、『闇の奥』や『ダロウェイ夫人』など、テキストやコピーの英文を読み解きながら、小説の技法・内容を考えていく。従って、学生自身が見出した興味ある論点や英文の難解な部分を各自に発表してもらいながら、講義を進めていく。予習をしっかりと行っているかの小テストを数回行う予定である。

●**成績評価方法（総合）** (1) 小テストでは、英文の読みを行っていることを確かめたい（最低3回）。作品の英文を具体的に分析するので、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。(2) 期末試験では、テキスト、ノート、参考書など持込み、授業内容の大きなテーマや諸項目について記述式によって設問に答えてもらう。(3) レポートでは、10000 字程度で、講義において取りあげた作品を翻訳なり英文なりで読んで、自分の分析的読みをまとめる。

●**教科書・参考書** 教科書： Heart of Darkness（闇の奥），Joseph Conrad, 研究社, 1953 年；教科書は「研究社小英文叢書」シリーズの 12。Forster, Woolf などについてはコピーを配布する。

●**備考** 集中授業

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 前後期を通してイギリス 19 世紀に活躍した小説家についての講義を行う。前期で扱うのは Jane Austen、Charles Dickens、Charlotte Bronte の予定で、各作家の代表的な作品 を取り上げて詳しく考察する。同時に、使用テキストに記載された様々な英国の小説家 についても随時解説していく。／**検索キーワード** 英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** 各小説家の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 作家や作品の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**： 諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 **関心・意欲の観点**： 小説を読み解く行為に関心を持つ。**態度の観点**： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 19 世紀イギリスの文学思潮について導入をした後、各作家について 4 回ずつ程度で講義 する。
- 成績評価方法（総合）** (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 使用テキストに記載されている様々な作品についてのレポート（ノート用紙 1 枚程 度）を定期的に作成し、提出する。(3) 各作家論についての講義が終了した後、課題論文についてのレポートを作成し、提出 する。(4) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書： 教科書：イギリス小説入門 著者：川口喬一 出版社：研究社／ 参考書： 授業の中で紹介する。
- メッセージ** テキストや配付資料の内容を予め把握してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 前期に引き続きイギリス 19 世紀に活躍した小説家についての講義を行う。後期で扱うのは Emily Bronte、George Eliot、Thomas Hardy の予定で、各作家の代表的な作品を取り上げて詳しく考察する。同時に、使用テキストに記載された様々な英国の小説家についても随時解説していく。／**検索キーワード** 英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** 各小説家の思想や作品像を、19 世紀イギリスの社会事情を念頭に置きつつ理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：作家や作品の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**：諸作品に盛り込まれたテーマを分析できる。 **関心・意欲の観点**：小説を読み解く行為に関心を持つ。 **態度の観点**：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 各作家について 4 回ずつ程度で講義し、残りの時間でまとめを行う。
- 成績評価方法（総合）** (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 使用テキストに記載されている様々な作品についてのレポート（ノート用紙 1 枚程度）を定期的に作成し、提出する。(3) 各作家論についての講義が終了した後、課題論文についてのレポートを作成し、提出する。(4) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書：イギリス小説入門 著者：川口喬一 出版社：研究社／参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ** テキストや配付資料の内容を予め把握してから授業に臨むこと。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 19 世紀イギリスの小説家 George Eliot の『The Mill on the Floss』、及びこの作品に関する論文を読む。／**検索キーワード** George Eliot、英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** テキストと論文を読む作業を通して、Eliot の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝 文学における位置づけを理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。 **思考・判断の観点**： 作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。 **態度の観点**： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 一週間に 30-40 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合）** (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書： 教科書：『The Mill on the Floss』 著者：George Eliot 出版社：Penguin ／ 参考書： 授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	池園宏				

- 授業の概要** 19 世紀イギリスの小説家 Anne Bronte の *Agnes Grey*、及びこの作品に関する論文を読む。
／検索キーワード Anne Bronte、英国小説、ヴィクトリア朝
- 授業の一般目標** テキストと論文を読む作業を通して、Anne Bronte の作家像及び 19 世紀ヴィクトリア朝文学における位置づけを理解する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：作家や作品、及び関連する論文の具体的内容を説明できる。**思考・判断の観点**：作品に盛り込まれた諸テーマを、自分なりの視点で分析できる。**態度の観点**：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）** 一週間に 20-30 ページのペースで作品を読み進め、読了後これに関する論文を読む。受講者の発表とそれを元にしたディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合）** (1) 本作品について 4000-5000 字程度のレポートを作成し、提出する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書：*Agnes Grey* 著者：Anne Bronte 出版社：Penguin ／参考書：授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	伊豆大和				

- 授業の概要** F. Scott Fitzgerald の最後の小説 The Love of the Last Tycoon (1993) を精読する。／**検索キーワード** アメリカ文学
- 授業の一般目標** テキストの精読を通して小説研究の意義を認識する。また、文学と映画との関係についても考察する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 原語（英語）で小説を読む力を深める。 **思考・判断の観点**： 1. 文学（小説）研究の方法を検証する。
- 授業の計画（全体）** テキストを演習形式で読み進む。受講者はきちんと予習して出席し、毎回発表してもらうことになる。詳細は第1回目の授業で説明する。
- 成績評価方法（総合）** 平常点で評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書はプリントを用意する。／参考書：授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	伊豆大和				

- 授業の概要** 前期に引き続いて The Love of the Last Tycoon を精読する。／**検索キーワード** アメリカ文学
- 授業の一般目標** テキストの精読を通して小説研究の意義を認識する。また、文学と映画との関係についても考察する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 原語（英語）で小説を読む力を深める。 **思考・判断の観点**： 1. 文学（小説）研究の方法を検証する。
- 授業の計画（全体）** テキストを演習形式で読み進む。受講者はきちんと予習して出席し、毎回発表してもらう。
- 成績評価方法（総合）** 平常点で評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： プリントを用意する。／ 参考書： 授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田中晋				

- 授業の概要** シェイクスピアの叙情的喜劇の代表作『お気に召すまま』を精読し、牧歌ロマンスについて考察する。／**検索キーワード** シェイクスピア、『お気に召すまま』、牧歌ロマンス
- 授業の一般目標** この作品はいわゆる牧歌ロマンスである、トマス・ロッジの『ロザリンド』を典拠としたものであり、牧歌的雰囲気に含まれている。しかしそこには同時に、牧歌生活に対するシェイクスピアの批判的解釈が含まれていること、また、優れた喜劇の湛えている憂愁の調べなどにも注目して読む。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：シェイクスピアの英語の語法に精通し、語源に遡って言葉の意味を考える。**思考・判断の観点**：牧歌的生活に対する作者の批判的精神を考察し、喜劇の底に宿されている哀愁を感得する。
- 授業の計画（全体）** 前期は第1幕、2幕、3幕を読む。
- 成績評価方法（総合）** 平常点
- 教科書・参考書** 教科書：研究社詳注シェイクスピア双書『お気に召すまま』を使用する。／参考書：他のテキスト、文献等については授業の中で言及する。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田中晋				

- 授業の概要** シェイクスピアの叙情的喜劇の代表作『お気に召すまま』を精読し、牧歌ロマンスについて考察する。／**検索キーワード** シェイクスピア、『お気に召すまま』、牧歌ロマンス
- 授業の一般目標** この作品はいわゆる牧歌ロマンスである、トマス・ロッジの『ロザリンド』を典拠としたものであり、牧歌的雰囲気に含まれている。しかしそこには同時に、牧歌生活に対するシェイクスピアの批判的解釈が含まれていること、また、優れた喜劇の湛えている憂愁の調べなどにも注目して読む。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：シェイクスピアの英語の語法に精通し、語源に遡って言葉の意味を考える。**思考・判断の観点**：牧歌的生活に対する作者の批判的精神を考察し、喜劇の底に宿されている哀愁を感得する。
- 授業の計画（全体）** 後期は第4幕、5幕を読み作品の解釈につき論ずる。
- 成績評価方法（総合）** 平常点
- 教科書・参考書** 教科書：研究社詳注シェイクスピア双書『お気に召すまま』を使用する。／参考書：他のテキスト、文献等については授業の中で言及する。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮原一成				

- 授業の概要** 19世紀英国の文豪 Charles Dickens の『Bleak House』(1852-3) を読み、作品について討論する。
前期は第 35 から 36 章あたりまで読む予定。続きは後期に読むので、前期後期通しての受講を強く望む。
／検索キーワード Dickens Bleak House
- 授業の一般目標** 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。**思考・判断の観点**：作品の訴えかけるものについて、自分なりの所見を形成する。
- 授業の計画（全体）** 輪番で精読・討論する。当番はレジュメを毎回作成。
- 成績評価方法（総合）** 発表の出来具合＋討論への貢献度。3 回以上欠席したら、不可。
- 教科書・参考書** 教科書：Bleak House, Charles Dickens, Penguin USA, 2003 年；ISBN 0141439726
- メッセージ** 千ページ弱の長編を 1 年間で読む。1 回に進む分量はそこから逆算してほしい。
- 連絡先・オフィスアワー** 受講者には知らせる。

開設科目	英米文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮原一成				

- 授業の概要** 19世紀英国の文豪 Charles Dickens の *Bleak House* (1852-3) を読み、作品について討論する。時間が許せば、最後の2週はこの作品に関する英文評論を数本読む。／**検索キーワード** Dickens Bleak House
- 授業の一般目標** 小説作品について、専門的な議論をする力を養う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：原文をまず英語として正確に理解する。心理描写、社会風俗描写を正しく理解する。**思考・判断の観点**：作品の訴えかけるものについて、自分なりの所見を形成する。
- 授業の計画（全体）** 輪番で精読・討論する。当番はレジユメを毎回作成。
- 成績評価方法（総合）** 発表の出来具合＋討論への貢献度。3回以上欠席したら、不可。
- 教科書・参考書** 教科書： *Bleak House*, Charles Dickens, Penguin USA, 2003年；ISBN 0141439726／参考書：評論を読む場合、教官が資料を準備する。
- 連絡先・オフィスアワー** 受講者には知らせる。

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	下寄正利				

●**授業の概要** ゴート語の音韻論、形態論について概説する。

●**授業の一般目標** ゴート語の音韻論、形態論を習得するとともに、ゲルマン語比較言語学の基礎知識を身に付ける。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： ゴート語の音韻論、形態論をきちんと習得している。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 音韻論（母音）
- 第 2 回 項目 音韻論（母音）
- 第 3 回 項目 音韻論（子音）
- 第 4 回 項目 音韻論（子音）
- 第 5 回 項目 形態論（名詞）
- 第 6 回 項目 形態論（名詞）
- 第 7 回 項目 形態論（名詞）
- 第 8 回 項目 形態論（形容詞）
- 第 9 回 項目 形態論（形容詞）
- 第 10 回 項目 形態論（代名詞）
- 第 11 回 項目 形態論（代名詞）
- 第 12 回 項目 形態論（数詞）
- 第 13 回 項目 形態論（動詞）
- 第 14 回 項目 形態論（動詞）
- 第 15 回 項目 形態論（動詞、副詞）

●**成績評価方法（総合）** 期末試験とレポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書： Gotische Grammatik, Wilhelm Braune, Max Niemeyer

開設科目	ドイツ語論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	下寄正利				

●**授業の概要** 古高ドイツ語の音韻論、形態論について概説する。

●**授業の一般目標** 古高ドイツ語の音韻論、形態論を習得するとともに、ゲルマン語比較言語学の基礎知識を身に付ける。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : 古高ドイツ語の音韻論、形態論をきちんと習得している。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 音韻論 (母音)
- 第 2 回 項目 音韻論 (母音)
- 第 3 回 項目 音韻論 (子音)
- 第 4 回 項目 音韻論 (子音)
- 第 5 回 項目 形態論 (名詞)
- 第 6 回 項目 形態論 (名詞)
- 第 7 回 項目 形態論 (名詞)
- 第 8 回 項目 形態論 (形容詞)
- 第 9 回 項目 形態論 (形容詞)
- 第 10 回 項目 形態論 (代名詞)
- 第 11 回 項目 形態論 (代名詞)
- 第 12 回 項目 形態論 (数詞)
- 第 13 回 項目 形態論 (動詞)
- 第 14 回 項目 形態論 (動詞)
- 第 15 回 項目 形態論 (動詞、副詞)

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験とレポートによる。

●**教科書・参考書** 教科書 : Abriss der althochdeutschen Grammatik, Braune/Ebbinghaus, Max Niemeyer

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	本田義昭				

- 授業の概要** ドイツ語学の専門文献を，論の展開の仕方などに注意しながら，読んで行きます．／**検索キーワード** 専門文献，批判的な読みこなし
- 授業の一般目標** ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。 **思考・判断の観点**： 1. 論の展開を把握する。 **関心・意欲の観点**： 1. 広く言語現象への関心を深める。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを使用する。
- メッセージ** 文章も内容も平易ではないので，十分に予習して授業に臨んでください。
- 連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部4階 オフィスアワー：火曜日 10:20-11:50

開設科目	ドイツ語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	本田義昭				

- 授業の概要** ドイツ語学の専門文献を，論の展開の仕方などに注意しながら，読んで行きます．／**検索キーワード** 専門文献，批判的な読みこなし
- 授業の一般目標** ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなせる能力を養う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. ドイツ語学の専門的知識をさらに深める。 **思考・判断の観点**： 1. 論の展開を把握する。 **関心・意欲の観点**： 1. 広く言語現象への関心を深める。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを使用する。
- メッセージ** 文章も内容も平易ではないので，十分に予習して授業に臨んでください。
- 連絡先・オフィスアワー** honda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部4階 オフィスアワー：火曜日 10:20-11:50

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岡光一浩				

●**授業の概要** 若いトーマス・マンについて、特に短編小説に当たりながら解読・講義する。／**検索キーワード** 20世紀初頭のトーマス・マン。人間とはなにか、どのように生きるか。

●**授業の一般目標** 若いトーマス・マンの生き方や文学観を学ぶとともに、ドイツ語解読能力を向上させる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：トーマス・マンの生涯と小説についての知識を得ることができる。
思考・判断の観点：人間とはなにか、どのように知的に生きるべきか。**関心・意欲の観点**：ドイツ現代文学に興味をもつ。**態度の観点**：かつての知識人の生き方から、自分の生き方を学ぶ。**技能・表現の観点**：ドイツ語を読み、かつ表現でき、すすんで世界の平和を考える。

●**授業の計画（全体）** 若いトーマス・マンについて、彼の生と絡めながら、彼の小説を読み、講義していく。前期の続き。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 若いトーマス・マン 内容 前期の概観 授業外指示 トーマス・マンの作品を読む
- 第 2 回 項目 ミュンヘン時代 内容 『道化者』 授業外指示 以下、同様
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 『トビーアス・ミンダーニッケル』
- 第 5 回 項目 同上 内容 『ルイスヒェン』
- 第 6 回 項目 『ブッデンプロック家の人々』とともに 内容 『ジンプリチシムス』
- 第 7 回 項目 同上 内容 『衣装戸棚』
- 第 8 回 項目 同上 内容 『しっぺ返し』
- 第 9 回 項目 同上 内容 『ブッデンプロック家の人々』
- 第 10 回 項目 同上 内容 『墓地への道』
- 第 11 回 項目 同上 内容 『神の剣』
- 第 12 回 項目 同上 内容 『トリスタン』
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 『飢えた人々』
- 第 15 回 項目 同上。まとめ 内容 『とーニオ・クレーゲル』他

●**成績評価方法（総合）** 講義中の発表やレポートにおいて評価する。出席が前提。

●**メッセージ** 一生懸命でないと、面白さも見えてこない。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部岡光研究室

開設科目	ドイツ文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	岡光 一浩				

●**授業の概要** 若いトーマス・マンについて、特に短編小説に当たりながら解読・講義する。／**検索キーワード** 20世紀初頭のトーマス・マン。人間とはなにか、どのように生きるか。

●**授業の一般目標** 若いトーマス・マンの生き方や文学観を学ぶとともに、ドイツ語解読能力を向上させる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：トーマス・マンの生涯と小説についての知識を得ることができる。
思考・判断の観点：人間とはなにか、どのように知的に生きるべきか。**関心・意欲の観点**：ドイツ現代文学に興味をもつ。**態度の観点**：若いトーマス・マンの生き方や文学観を学ぶとともに、ドイツ語解読能力を向上させる。**技能・表現の観点**：ドイツ語を読み、かつ表現でき、すすんで世界の平和を考える。

●**授業の計画（全体）** 若いトーマス・マンについて、彼の生と絡めながら、彼の小説を読み、講義していく。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 講義の方法を説明する。 **授業外指示** トーマス・マンの作品を読む。
- 第 2 回 **項目** 若いトーマス・マンの概観 **内容** 生涯と作品の概略 **授業外指示** 以下、同様
- 第 3 回 **項目** 同上 **内容** 同上
- 第 4 回 **項目** 同上 **内容** なにが問題か。
- 第 5 回 **項目** リューベック時代 **内容** 出自、故郷
- 第 6 回 **項目** 同上 **内容** 幼少年時代
- 第 7 回 **項目** 同上 **内容** 学校
- 第 8 回 **項目** 同上 **内容** 『春の嵐』『幻想』
- 第 9 回 **項目** ミュンヘン時代 **内容** 作家への道
- 第 10 回 **項目** 同上 **内容** 『転落』
- 第 11 回 **項目** 同上 **内容** イタリア滞在
- 第 12 回 **項目** 同上 **内容** 『幸福への意志』
- 第 13 回 **項目** 同上 **内容** 『死』
- 第 14 回 **項目** 同上 **内容** 『幻滅』
- 第 15 回 **項目** 同上 **内容** 『小フリーデマン氏』

●**成績評価方法（総合）** 講義中の発表やレポートにおいて評価する。出席が前提。

●**メッセージ** 一生懸命でないと、面白さも見えてこない。

●**連絡先・オフィスアワー** 人文学部岡光研究室

開設科目	ドイツ文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木下直也				

●**授業の概要** 学部との共通授業のため、学部の授業案内「ドイツ文学特殊講義」（木下直也）の項を参照。

●**備考** 集中授業

開設科目	ドイツ文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	HINTEREDEREMDEFranz				

●**授業の概要** 比較文学の歴史と試み ドイツの19世紀にグリム童話で日本でも知られているグリム兄弟が「文学研究」ないし「ゲルマニスティック」と言う新しい学問の第一人者でもあります。彼らは国民文学の創立者でもあります。同時代に近代国家が誕生し、文学に国民文学と世界文学と言う二つの大きな流れがあった。この講義では比較文学の出発点を探ってみます。第1部に歴史の背景に社会・思想・文学の絡み合いを追求します。啓蒙主義やロマン主義の対立から生まれてくる近代文学を概略していきます。第2部に、異文化の文学を比較できる普遍的な範疇を解明していきます。都会、教養、食生活と言うテーマを中心に論じます。第3部は読書の体験を中心に話を進めます。文学作品に日常生活の風景は頻りに描写されています。食卓の場面や、服装の格好、町の空間など、意外に細かいところまでごく普通の様子が描かれています。大きな筋や主人公の行動に必ず折り込まれています。こういう背景に注目すれば、意外に豊かな異文化体験ができます。

●**教科書・参考書** 教科書：テキスト Heinrich Heine：ハイネ散文作品集；第1巻；木庭宏責任編集、京都：松籟社、1989。エンゲルス (Friedrich Engels)、イギリスにおける労働者階級の状態；東京：大月書店、1971。アルフレート・デーブリー／早崎守俊訳、ベルリン・アレクサンダー広場、河出書房新社1971。夏目漱石、我が輩は猫である、漱石全集第1巻、岩波書店1993年。Robert Walser, Aufsätze. Saemtliche Werke, Bd.3; Frankfurt: Suhrkamp 1985 (授業で一部の訳を配付。) 飯吉光夫編訳、ヴァルザーの詩と小品、東京：みすず書房2003 村上春樹、『世界の終わりとハードボイルド・ワンダーランド』(新潮社) Susan Bassnett, Comparative Literature. A Critical Introduction. Oxford:Blackwell 1993. Edward Said, Orientalism, New York: Vintage, 1979. 前田愛著：前田愛著作集第5巻、東京：筑摩書房1989.12 (Berlin 1888, 仮象の街、街の読み方、都市を解読する)。

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	坂本貴志				

- 授業の概要** ドイツにおけるメディア論をリードするうちの一人、ノルベルト・ボルツの『グーテンベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた（法政大学出版局より邦訳あり）』をドイツ語原文で読む。／**検索キーワード** メディア論
- 授業の一般目標** 読書会形式でテキストに対する理解を得ることを目標とし、活字文化の終焉とコンピューター時代の到来における、人間の身体、コミュニケーション、表象についての可能性を考える。
- 授業の計画（全体）** 参加者は、訳本を参照しても良いので、ドイツ語テキストの読解を予習として行ってから、ゼミに参加し、内容理解のための発表や討論を行う。
- 成績評価方法（総合）** 期末レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書： テキストは、Am Ende der Gutenberg - Galaxis. Die neuen Kommunikationsverhaeltnisse. Fink (Wilhelm) 1995 / 参考書： ノルベルト・ボルツ『グーテンベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた』法政大学出版局 M・マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房

開設科目	ドイツ文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	坂本貴志				

- 授業の概要** ドイツにおけるメディア論をリードするうちの一人、ノルベルト・ボルツの『ゲーテンベルク銀河系の終焉—新しいコミュニケーションのすがた（法政大学出版局より邦訳あり）』をドイツ語原文で読む。
- 授業の一般目標** 前期に準ずる。
- 授業の計画（全体）** 前期に準ずる。
- 成績評価方法（総合）** 期末レポートによる。

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

- 授業の概要** 認知言語学の観点から構文について講義します。
- 授業の一般目標** 認知言語学の方法論を理解する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 認知言語学の用語・概念を理解する。 **思考・判断の観点**： 認知言語学の方法論を理解する。
- 授業の計画（全体）** はじめに認知言語学について概説したうえで、様々な構文について認知的な観点から分析していく。
- 成績評価方法（総合）** レポート
- 教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

- 授業の概要** 認知言語学の観点から構文について講義します。
- 授業の一般目標** 認知言語学の方法論を理解する。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 認知言語学の用語・概念を理解する。 **思考・判断の観点**： 認知言語学の方法論を理解する。
- 授業の計画（全体）** はじめに認知言語学について概説したうえで、様々な構文について認知的な観点から分析していく。
- 成績評価方法（総合）** レポート
- 教科書・参考書** 教科書： プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本 雅嗣				

- 授業の概要** フランス語の冠詞に関する論文を読んでいます。
- 授業の一般目標** フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、自己の研究を発展させていく。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：フランス語の冠詞に関する先行研究のを理解する。 **思考・判断の観点**：先行研究を批判的に分析する。 **関心・意欲の観点**：分析し、発表を行う。
- 授業の計画（全体）** フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合）** 発表，レポート。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを配布します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本 雅嗣				

- 授業の概要** フランス語の冠詞に関する論文を読んでいます。
- 授業の一般目標** フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、自己の研究を発展させていく。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：フランス語の冠詞に関する先行研究のを理解する。 **思考・判断の観点**：先行研究を批判的に分析する。 **関心・意欲の観点**：分析し、発表を行う。
- 授業の計画（全体）** フランス語の冠詞に関する主要な文献を読み、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合）** 発表，レポート。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを配布します。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

- 授業の概要** ジュリアン・グリーンの評伝をこころみる。特に彼の青年時代に焦点をあわせて講義をすすめ、彼の生涯と創作作品との関係に肉薄したい。講義題目は、「ジュリアン・グリーン of 青年時代」とする。

開設科目	フランス文学論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

- 授業の概要 『星の王子さま』について書かれた論文を読む。論文の表題は、「星の王子さまを出迎えに…」(ピエール＝アンリ・シモン作)である。この論文を読むことで、『星の王子さま』の世界を鑑賞したい。

開設科目	フランス文学論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	末松 壽				

●**授業の概要** 講義題目：「モラリスト文学」 フランス文学の歴史において特徴的な現象の一つであるモラリストたちの営みを、文学の観点から全体的に把握することをめざす。

●**授業の一般目標** 文学史学はいかなる時期にいかなる意味で「モラリスト」の概念を確立したのか、モラリストとはいかなる作家か、彼らの文学とはどのようなものかを知ることがをめざす。

●**授業の計画（全体）** 上記目標を達成するために、以下の問題を検討・解説する。 1) 「モラリスト」なる用語の歴史、 2) モラリストの出現の時期、 3) 社会背景、 4) 形式・手法・ジャンル（若干の代表的な文章を読む）、 5) モラリスト概念の拡大の是非、など。

●**成績評価方法（総合）** レポートおよび筆記試験を実施する。また平素の成績も評価の対象とする。

●**教科書・参考書** 教科書： 空白／ 参考書： 任意のフランス文学史の書物

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	井上三朗				

- 授業の概要** アルベール・カミュの作品世界の中でのシンボリックな表現や表徴に焦点を当て、地中海的・古代ギリシャ的多神教の世界観を参照しながら、カミュ文学の深層に迫る。
- 授業の一般目標** 文学作品を象徴解釈と精神分析の両面からアプローチする方法を学ぶ。
- 授業の計画（全体）** まず太陽、海、丘などの自然界に存在する大いなるものの表現とその象徴的な意味について、次いで街や窓その他の住まいを巡るものについて、テキストと作品とを往復しながらそれらの象徴的意味を探っていく。
- 成績評価方法（総合）** 平素の授業参加度 40% 定期試験 60% の割合で総合評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：l'univers symbolique d'Albert Camus, Jean GASSIN, Minard, 1981 年；プリント配布／参考書：授業中に指示

開設科目	フランス文学論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上三朗				

- 授業の概要** アルベール・カミュの作品世界の中でのシンボリックな表現や表徴に焦点を当て、地中海的・古代ギリシャ的多神教の世界観を参照しながら、カミュ文学の深層に迫る。
- 授業の一般目標** 文学作品を象徴解釈と精神分析の両面からアプローチする方法を学ぶ。
- 授業の計画（全体）** 前期の続きとして、作品中に表現の見られる音、香り、色彩などの知覚のそれぞれの象徴的意味を探り、最後に罪と無垢の象徴表現を辿ることによりトータルな作品の解読を試みる。
- 成績評価方法（総合）** 平素の授業参加度 40% 定期試験 60% の割合で総合評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： l'univers symbolique d'Albert Camus, Jean CASSIN, Minard, 1981 年；プリント配布／参考書：授業中に指示

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	土田 滋				

●**授業の概要** 台湾の主として山地に住む原住民諸族は、平地に住む漢民族とはまったく異なり、オーストロネシア系の言語を話している。オーストロネシア語族は太平洋のポリネシア、メラネシア、インドネシアなどの広大な地域で行われている語族であるが、台湾原住民諸語は、ほかのオーストロネシア系の言語で失われてしまった古い特徴をよく保存しており、オーストロネシア比較言語学上、非常に重要な位置を占めている。この講義では、比較言語学の方法論の基礎を学び、その応用として、台湾原住民諸語に基づいてオーストロネシア祖語を再構する。それと同時に、台湾原住民諸語のさまざまな特徴について学ぶことにする。／**検索キーワード** 比較言語学、オーストロネシア語族、台湾原住民諸語、接中辞、類別接頭辞、民俗分類、言葉の男女差

●**授業の一般目標** (1) 比較言語学の基礎を習得する、(2) オーストロネシア諸語の概略を学習する、(3) 台湾原住民諸語の概略を学習する、(4) その中でもとくに興味深いトピック、たとえば「動詞の構造」「接中辞」「類別接頭辞」「民俗分類：男の魚と女の魚」「言葉の男女差」などについての知識を深め、英語や日本語との類似点・相違点についての理解をも深める。

●**授業の計画 (全体)** 上の「授業の一般目標」にそって1日ずつ(ただし最後の(4)については3日間)を使って授業を進める。進捗状況により、若干変更あり。

●**成績評価方法 (総合)** 何よりもまず、講義に参加し、内容を理解することが重要である。理解度を評価するために授業外レポートを課す。言語学のこの分野への関心の広がりも評価の対象になる。

●**教科書・参考書** 参考書：比較言語学入門, 高津春繁, 岩波書店, 1992年; Language, L. Bloomfield, George Allen & Unwin Ltd., 1933年

●**備考** 集中授業

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野 尊識				

●**授業の概要** 日本語の助詞「は」について考察する。「は」の機能には主題と対照があるとされている。この講義では、主題の「は」が本来のものであり、それが対照の機能を持つのは、文脈的情報が関与していることを提案する。つまり、「同一カテゴリー」と「文脈 対比」の二つの制約が機能するときに、対照の意味が発現するのである。同時に、総記の「が」も文脈的情報が機能しているときに現れる機能である。類似の考えは先行研究にも見られるので、先行研究を読みながら講義を進める。／**検索キーワード** は、主題、対照、文脈、が、総記、

●**授業の一般目標** (1) データを集め、そこに現れている文法現象の中に規則性を見付け、仮説を導く。(2) 仮説が正しいかどうかの判断、(3) 仮説の修正、(4) 結論を導く能力。(5) 科学的に考察する能力。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 参考文献を読んで、理解する。 **思考・判断の観点**： 科学的に考察できる。 **関心・意欲の観点**： 日本語の「は」の考察からスタートし、その他の言語の文法現象にも興味を 広げ、考察する能力を養う。

●**授業の計画 (全体)** 問題の所在を明らかにし、データを見ながら新しい提案をする。その提案が妥当かどうかを、その他のデータを参考にして判断する。講義は次の順序で進めていく。1. 序 論、2. 「主題」と「対照」の中和、3. 「主題」と「対照」、4. 結論的考察。

●**成績評価方法 (総合)** 学期末試験を中心にする。授業外レポート (2 回の予定) と授業への参加状況を勘案する。

●**メッセージ** 予習して出席すること。講義に出て話を聞き、そこで理解できれば講義の目的は達成できたことになる。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office hour: Tue. 13:00-14:30 Office: Jinbun 617

開設科目	言語構造論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

●**授業の概要** 言語には、意味を表すために統語構造媒介とし、音声化するという仕組みがある。特に複雑な意味を伝えたいときには、聞き手に理解しやすいような特別の統語的方法を備えている。この方法は同時に、発話者がその意味を文法に組み込みやすくするものでもある。このような方法をこの講義では、「知覚に関係した統語的仕組み」(Perception- related syntactic strategies)と呼ぶことにする。講義では、以下のテーマを取り上げる。1. 紹介、2. 日本語の「が」／「を」交替、3. 日本語の「が」／「の」交替、4. 日本語の二重「に」格の制約、5. 日本語の連帯修飾節における残留代名詞、6. ペルシア語の関係節構造、7. 節の名詞化と補語、8. 英語におけるこのような統語的仕組み、9. タガログ語の関係節構造：関係節と被修飾語の順序。講義のテキストとして、拙論 (Perception and syntactic strategies, Ms) を使う。／**検索キーワード** 文の理解、知覚、統語的手法、コミュニケーション、

●**授業の一般目標** 1. 特定の現象が、知覚と関係する統語的仕組み (PRSS) して捉えることができること。2. 特定の統語現象の理解。3. PRSS の意味するもの。4. 類似の現象を、学習者が知っている言語の中から探すことができるかどうか。5. 講義内容の全体的理解。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：テキストの内容を十分理解できているか。**思考・判断の観点**：自分で、類似の例を見付けられるか。**関心・意欲の観点**：講義内容について、建設的な質問と討議ができるか。**態度の観点**：予習して講義に出席しているか。

●**授業の計画（全体）** 授業概要で述べた項目について、それぞれ1－2週をかけて進める。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office hour: Tue. 13:00-14:30
Office: Jinbun level 6, 617

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 記述言語学や言語人類学の著作を読むことを通して、言語と文化の関係（言語相対論）や言語の多様性について考える。1. 言語研究における「サピア・ウォーフの仮説」の今日的な意味について考察する。2. 言語の多様性をどのように言語研究の中に組み込んでいくのか、研究のスタンスについて考える。

●**授業の一般目標** 1. できるだけ多くの言語の記述研究を読むことで、言語の多様性を理解する。2. テキストを熟読することで、言語学的な考え方を理解する。3. フィールド言語学や記述研究のおもしろさを体感する。

●**授業の計画（全体）** 2～3名のグループ毎に発表形式で読んでいく。担当範囲あまり短いと全体が理解できないことになるので、グループはそれぞれ内容的にできるだけまとまりのある範囲を担当することになる。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストをコピーで配布する。

●**メッセージ** 発表はパワーポイントを使って行うので、ノートパソコンが必要である。

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

●**授業の概要** 記述言語学や言語人類学の著作を読むことを通して、言語と文化の関係（言語相対論）や言語の多様性について考える。1. 言語研究における「サピア・ウォーフの仮説」の今日的な意味について考察する。2. 言語の多様性をどのように言語研究の中に組み込んでいくのか、研究のスタンスについて考える。

●**授業の一般目標** 1. できるだけ多くの言語の記述研究を読むことで、言語の多様性を理解する。2. テキストを熟読することで、言語学的な考え方を理解する。3. フィールド言語学や記述研究のおもしろさを体感する。

●**授業の計画（全体）** 2～3名のグループ毎に発表形式で読んでいく。担当範囲あまり短いと全体が理解できないことになるので、グループはそれぞれ内容的にできるだけまとまりのある範囲を担当することになる。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストをコピーで配布する。

●**メッセージ** 発表はパワーポイントを使って行うので、ノートパソコンが必要である。

●**連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	乾 秀行				

- 授業の概要** 言語学、日本語学に関する論文を読む。
- 授業の一般目標** 修士論文を書くための演習である。
- 授業の計画（全体）** 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行う。
- 連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	乾 秀行				

- 授業の概要** 言語学、日本語学に関する論文を読む。
- 授業の一般目標** 修士論文を書くための演習である。
- 授業の計画（全体）** 受講生の研究テーマについて、毎回発表形式で行う。
- 連絡先・オフィスアワー** f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平野尊識				

- 授業の概要** 関係節構造（または、連体節構造）についての論文を複数読む。／**検索キーワード** 関係節、ヘッド、統語論、語用論、類型論、日本語、韓国語、中国語
- 授業の一般目標** 関係節構造に関する論文を読むことにより、世界の言語を対象にしたときどのようなタイプの関係節構造が存在するか、またそのタイプは各言語の統語的、語用論的言語情報 とどのように関連するののかについて考察する。最終目標は、修士論文の作成である。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 研究の現状を理解する。 **思考・判断の観点**： 関係節構造について、どのようなタイプが存在するかの洞察。 **関心・意欲の観点**： 修士を終了するに当たり、関係節構造はもちろんのこと、その他の言語の幾つかの言語現象にまで自分の視野を広げることができるかどうか。
- 授業の計画（全体）** 以下に挙げる教科書を丁寧に読んでいく。
- 教科書・参考書** 教科書： 寺村秀夫論文集 I：日本文法編, 寺村秀夫, くろしお出版, 1992 年
- 連絡先・オフィスアワー** Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour: Tue. 13:00-1430

開設科目	言語構造論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平野尊識				

●**授業の概要** 関係節構造（または、連体節構造）についての論文を複数読む。／**検索キーワード** 関係節、ヘッド、統語論、語用論、類型論、日本語、韓国語、中国語

●**授業の一般目標** 関係節構造に関する論文を読むことにより、世界の言語を対象にしたときどのようなタイプの関係節構造が存在するか、またそのタイプは各言語の統語的、語用論的言語情報 とどのように関連するののかについて考察する。最終目標は、修士論文の作成である。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 研究の現状を理解する。 **思考・判断の観点**： 関係節構造について、どのようなタイプが存在するかの洞察。 **関心・意欲の観点**： 修士を終了するに当たり、関係節構造はもちろんのこと、その他の言語の幾つかの言語現象にまで自分の視野を広げることができるかどうか。

●**授業の計画（全体）** 次の論文を読んでいく。1) Tagashira, Yoshiko 1972 Relative clauses in Korean. CLS 215-229. 2) Na, Younghee 1986 Syntactic and semantic interaction in Korean. Doctoral Dissertation. University of Chicago. Susumu, Kuno 1973 The structure of the Japanese language. MIT Press.

●**連絡先・オフィスアワー** Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour: Tue. 13:00-1430

開設科目	言語情報論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理の理論と歴史を学ぶ。現状と将来の課題。／**検索キーワード** 言語（日本語）
大量言語調査 語彙 自立語
- 授業の一般目標** 言語情報処理の理論、歴史、現状と将来への課題。また、これまでの言語情報処理によって明らかになった言語（日本語）の特徴と、それを応用した言語情報処理の研究。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：言語情報処理の知識と理解。日本語の特徴。 **技能・表現の観点**：
コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体）** 言語情報処理の理論と歴史。言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。前期は日本語の語彙（自立語）について。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。必要なプリントは随時配付。げん
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー木曜 1 2 . 5 0 ~ 1 4 . 2 0

開設科目	言語情報論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	茂呂雄二				

- 授業の概要** 未定 非常勤講師なので、4 月以降掲示等で発表する。
- 授業の一般目標** 未定 集中講義なので、授業一日目にて詳しく説明する。
- 授業の計画（全体）** 集中講義なので、原則初日に詳しく説明する。なお、初日の 1 時限目は必ず参加することが望ましい。
- 成績評価方法（総合）** 出席及びレポート等を総合的に判断する。
- 教科書・参考書** 教科書： 掲示にて、発表する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。
- 備考** 集中授業

開設科目	言語情報論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

- 授業の概要** 言語情報処理の理論と歴史を学ぶ。現状と将来への課題。／**検索キーワード** 言語（日本語）
大量言語調査 付属語
- 授業の一般目標** 言語情報処理の理論、歴史、現状と将来への課題。またこれまでの言語情報処理によって
明らかになった言語（日本語）の特徴と、それを応用した言語情報処理技術の研究。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：言語情報処理の知識と理解。日本語の特徴。 **技能・表現の観点**：
コンピュータ利用技術。
- 授業の計画（全体）** 堅固情報処理の理論と歴史。大量言語調査によって明らかになった日本語の特徴。
後期は助詞・助動詞について。
- 成績評価方法（総合）** 定期期末試験による。毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験させる。試験はノート、
プリント等の持ち込み可。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。必要なデータは随時プリントを配付。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～1
4.20

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.
- 授業の一般目標** コンピューター言語学、形式言語学、形態論・統合論の基礎及び応用を勉強する。
- 授業の計画 (全体)** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.
- 成績評価方法 (総合)** レポート。
- 教科書・参考書** 教科書: 吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000年 M. M. Wood (著) 「Categorial Grammars」 Routledge 1993 / 参考書: 必要に応じてプリントを配布する。
- メッセージ** Assessment will be by one practical assignment each term: a morphological analysis for the first term and a syntactic analysis for the second term. 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.
- 授業の一般目標** コンピューター言語学、形式言語学、形態論・統合論の基礎及び応用を勉強する。
- 授業の計画 (全体)** Morphology: We shall use the formalism of Paradigmatic Morphology to describe the internal structure of words - inflexions, derivations, compounding, etc. Examples will be from English and other languages. Syntax: The words of a Language are put together in fixed patterns to make sentences. We shall look at some common English and Japanese patterns, and at how they are described and analysed in two popular theories of grammar: categorial grammar and phrase-structure grammar.
- 成績評価方法 (総合)** レポート。
- 教科書・参考書** 教科書: 吉村賢治 (著) 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000年 M. M. Wood (著) 「Categorial Grammars」 Routledge 1993 / 参考書: 必要に応じてプリントを配布する。
- メッセージ** Assessment will be by one practical assignment each term: a morphological analysis for the first term and a syntactic analysis for the second term. 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** コンピュータによる言語情報の処理を行う。調査対象は日本語のさまざまな文章とする。／**検索キーワード** 日本語の特徴。大量言語調査。

●**授業の一般目標** 言語情報処理技術の習得と発展。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：言語、言語学の知識。コンピュータの知識。 **技能・表現の観点**：コンピュータの利用技術。

●**授業の計画（全体）** コンピュータに言語情報を入力し、さまざまな分析を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：なし（必要に応じてプリントを配付する）。

●**メッセージ** ノートパソコンを使用する。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー木曜12. 5 0～14. 2 0

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	つる岡昭夫				

●**授業の概要** コンピュータを用いて言語情報処理を行う。調査対象は日本語のさまざまな文章とする。／**検索キーワード** 日本語の特徴。大量言語調査。

●**授業の一般目標** 言語情報処理技術の習得と発展。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 言語、言語学への知識。コンピュータの知識。 **技能・表現の観点**： コンピュータの利用技術。

●**授業の計画（全体）** コンピュータに言語情報を入力し、さまざまな分析を行う。

●**教科書・参考書** 教科書： なし（必要に応じてプリントを配付する）。

●**メッセージ** ノートパソコンを使用する。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文4 0 4 オフィスアワー木曜1 2. 5 0～1 4. 2 0

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

●**授業の計画（全体）** Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**成績評価方法（総合）** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

●**メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

開設科目	言語情報論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	PHILLIPSJOHNDAVID				

●**授業の概要** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。

●**授業の計画（全体）** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses. Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.

●**成績評価方法（総合）** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOG を楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989

●**メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。